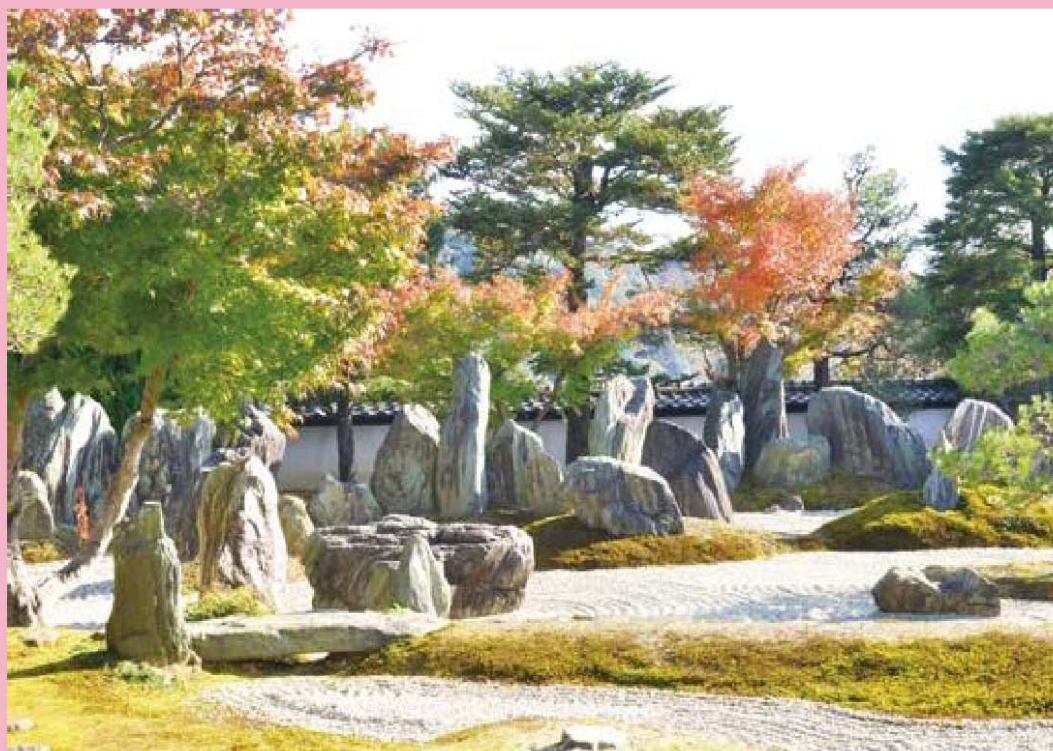


しまねをサポートする



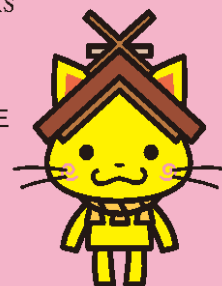
島根県技術士会 21～30周年の歩み



島根県技術士会

ASSOCIATION OF SHIMANE PROFESSIONAL ENGINEERS

島根県技術士会発足30周年



島根県観光キャラクター しまねっこ
島観連許諾第2383号

目 次

1. 島根県技術士会創立30周年を迎えて	
島根県技術士会 会長 林 秀樹	1
2. 平成17年度～平成26年度の活動	
事務局	5
研究部会	9
交流部会	23
広報部会	25
防災部会	31
青年部会	35
3. 特別寄稿	
第35回技術士全国大会を振り返って	41
世界遺産「石見銀山」研究	54
4. 資 料	
会員数と総会・例会の出席率	63
島根県技術士会30年年表	64
事務局報告（平成17年度～平成26年度）	68
平成26年度役員名簿	78
賛助会員名簿	79

<表紙写真>

益田市小河家庭園

(昭和33～40年 重森三玲の作庭) 非公開

廻遊式の枯山水で、その一部に露地を構成している。庭園だけでなく、本宅の建築、書院、茶亭すべてが当代一流で美しい。個人庭園の代表作としてよく紹介される作品である。（庭園文化研究分科会）撮影：山村賢治会員

島根県技術士会創立 30 周年を迎えて

島根県技術士会会長 林 秀樹

1. 会員数15名から300名へ

島根県技術士会は、多くの皆様に支えられて、本年度で30周年の記念すべき年を迎えることとなりました。

本会は、これまで、技術士としての技術研鑽に励み、様々な立場で地域の発展に協力できたのではないかと考えております。これもひとえに、多くの皆様の励ましとご支援の賜物であり、本会会員一人一人の努力のおかげと心より感謝しております。

これまでの本会の歴史を振り返ってみますと、1984年(昭和59年)に「技術士の集い」として準備活動を開始し、翌年には会委員数15名による「島根県技術士懇談会」を設立、本格的な活動を開始いたしました。その後、1987年(昭和62年)に現在の名称である「島根県技術士会」と改名し、現在まで、様々な地域貢献活動と技術士の地位向上や会員同士の技術研鑽、交流を続けてまいりました。

おかげさまで、会員数は約300名という大所帯となり、島根県では有数の技術者集団に成長いたしています。

会員の年齢構成は幅広く、20代の若手技術士から80代の熟練技術士が、会員に名を連ねています。年齢を超えた技術交流や若手への技術伝承を積極的に行っているのも本会の特筆すべき点だと思っています。

その登録部門は、建設部門はもとより、金属、上下水道、衛生工学、農業、森林、水産、情報工学、応用理学、環境、経営工学、電気電子、総合技術監理など13の科学部門となっており、会員は産学官の幅広い分野で活躍しています。

2. 賛助会員

島根県技術士会の活動にご理解いただき、賛助会員として加入いただいている企業は、46社を数えるまでになっています。島根県技術士会が、これまで多種多様な活動ができたのも賛助会員のご支援があったからと、改めてお礼申し上げます。

3. 島根県技術士会のあゆみ -成長期-

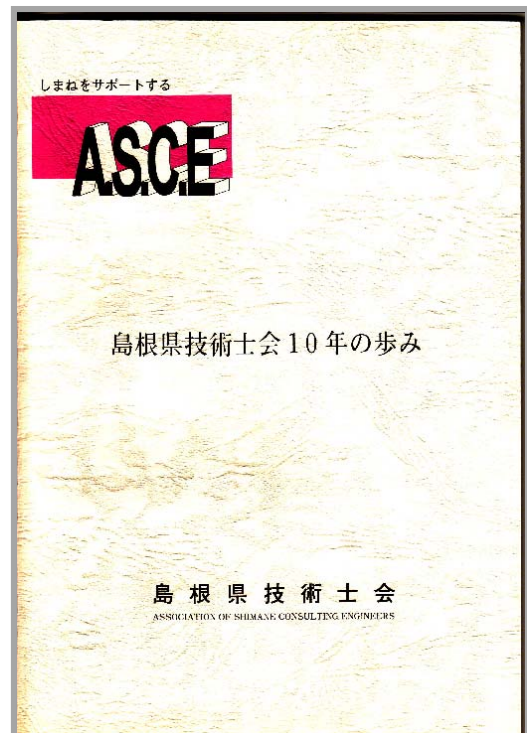
島根県技術士会の歴史を振り返ってみると、10年ごとに人が成長するのと同じような歴史を積み重ねてきました。最初の10年は、人間に例えると小学校高学年までの成長期というところでしょう。会員数も少なく、会員同士の顔も見え、研修会や講習会を開催するなど、和気あいあいの会でした。創立10周年の記念にとりまとめた「島根県技術士会10年の歩み」では、1985年(昭和60年)に15名の会員から始まり、

10 周年を迎えた平成 6 年には、46 名の会員を数えるまでになったことなどが、述べられています。

ここで、特筆すべきことは、この当時の会員のうち、20 名を超える技術士が、本会で活動が続けていると言うことであります。

この頃から、技術士の知名度も高まり、特に、建設コンサルタント業務では、技術士の資格が重要視されることとなってきたことから、多くの技術者が技術士の資格取得にチャレンジしてきました。

2000 年（平成 12 年）には、新たに総合技術監理部門が創設され、専門技術を横断する総合的な技術監理により、科学技術の高度化、複雑化に対応する技術が求められることとなりました。安全管理、情報管理はもとより人的資源管理や経済性管理など、今までの技術士が苦手としていた分野も手がける技術士の誕生です。島根県技術士会では、現在、65 名の技術士が、総合技術監理部門に登録し、総合的な技術マネジメントや若手技術者への継続教育などで活躍しています。



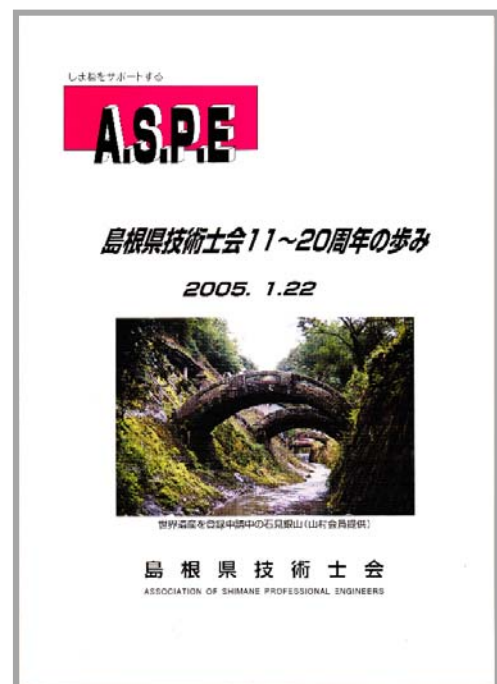
4. 島根県技術士会のあゆみ -青年期-

20 周年を迎えた 2004 年(平成 16 年)は、人間であれば成人式を迎えた年になります。立派な大人になりました。

このころには、会員数も 181 名を数え、あと少しで 200 名に達する勢いとなりました。発足当時は 15 名の会員でしたので、会員数は 12 倍に増加したことになります。

30 周年を迎えるまでの 10 年間は、人間にたとえると、成人式を迎えた若者が、社会の一員として大きく羽ばたき、大人としての責任を果たす時期と同様のチャレンジの時代でした。

大学や高等技術専門学校で JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定プログラムを受講し、修習技術者となった若い技術者が、技術士を目指すことができるようになり、本会でも準会員であった技術士補から技術士が誕生するようになりました。



社会貢献の一環として長年取り組んでいる研究活動や島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校、島根県建設技術センター等への講師の派遣など多くの社会貢献活動にも積極的に取り組むようになったのも、この頃からです。

30歳を迎えた島根県技術士会のこれからの10年は、どんな年になるのでしょうか。経験を重ねてきた技術士は、後輩となる若い技術者の育成に邁進しなければなりませんし、若い技術士は時代に負けない新しい技術を習得し、島根県の発展のために頑張らなくてはならないでしょう。

5. 島根県技術士会の社会貢献

島根県技術士会の進むべき道は、会員相互の親睦や技術力向上はもとよりですが、我が「ふるさと島根」が持続的に発展を続けるため、技術士として様々な社会貢献活動に取り組むことが大切だと思っています。

毎年、県内各地でテーマを定め、研究活動が続けており、新年1月には研究発表会を開催しています。この10年で特筆すべき研究活動は、石見銀山研究、津波研究、出雲大社大鳥居研究などだと思っています。幻の鉄道「今福線」の研究では、地域の皆さんと連携した活動となり、今年は浜田市でシンポジウムを開催することとしています。

教育現場での社会貢献活動として、大学、高専、高校に講師の派遣を行っています。

松江工業高等専門学校の技術者倫理の講義では、毎年5名の会員が、それぞれの専門分野の事例を紹介しながら、全学科の5年生の学生に大講堂で講義をしています。島根県立宍道高校では、研究部会の庭園文化研究会が調査研究を進めてきた出雲流庭園の研究成果を、出雲学講座の一つとして講義しました。定時制に通う高校生に、誇るべき島根の文化を解説し、郷土愛の醸成に努めました。今年度からは、島根県東部職業訓練校でスキルアップの講座も受け持つことになりました。

青年部会が中心となって、島根大学と松江高専の学生との産学交流企画も恒例の行事となりました。一般の講義では取り扱うことの少ない課題に学生達と技術士がチームを組んで取り組み、ユニークな解決策を提案しています。

島根県建設技術センターの講習会にも長年取り組んでいます。「基準書を開いてみよう」という講習会では、道路設計の基準書を題材に事例を挙げて解かりやすく講義し、好評を得ています。

新しい技術士の育成にも努めています。毎年、技術士試験申し込み直前に、島根県測量設計業協会と連携し、技術士受験講座を開催しています。希望者には論文指導も行い、若い技術士の誕生を手助けしています。

島根県景観審議会には長年にわたって委員に就任しています。松江市都市計画審議会、松江市景観審議会、雲南市都市マスタープラン策定委員会などにも委員を推薦しています。

6. 21 世紀の技術士

技術士に求められるものが、徐々にではありますが、変わってきていると思っています。

私の年代の技術士は、40代になってから試験に合格し、技術士となった人が多いと思います。上司や先輩から「君もそろそろ技術士に挑戦しては、どうかね。」と言われて、技術士を取る年頃かなと思ったものでした。博士も同様でした。私が、大学に入学した頃は、助手や講師の皆さんがドクターの取得に大汗をかいて実験や研究を進めるのは、当たり前の風景でした。

技術士や博士は、技術者や研究者にとってその技術や研究の成果の証のようなものでした。しかし、現代は資格の時代となりました。技術士や博士の資格を20代で取得することが当たり前となる時代は、目の前に来ていると思っています。資格を取ってから、スキルアップする時代となったのです。

もう一つの課題は、技術士のそのほとんどが企業内技術士であるということです。

島根県内で技術士事務所を開設している技術士は、両手の指で足りません。技術士は、建築士、弁理士などのように、個人又は専門家集団として事務所を開設することはまれではないでしょうか。

技術士事務所を開設すれば、企業内技術士と違い得意の分野の仕事を幅広くできると思います。これからは、多様な部門の技術者が集まった、シンクタンク的な技術士事務所が、できれば良いなと思っています。

21世紀の技術者は、若くして技術士を取得することが求められています。

若いときは、企業や技術士事務所でスキルアップし、チームワーク力やエンジニアデザインの妙味を体得する。技術士として働きながら、専門的な技術力を高め、技術者倫理、情報管理や社会環境管理などの総合技術監理能力を高め、本物の技術士に成長していくことが、日本の技術者の生きのびる道だと思います。

海外での活動も増えると思います。島根の技術士が、海外で大いに羽ばたくことは、頼もしい限りです。

今後とも、産業の発展と快適で住みやすい県土づくりのため、会員が力を合わせ、技術士としての誇りを持って邁進して行きたいと考えております。

引き続き、皆様の島根県技術士会へのご支援をお願いいたします。

事務局活動の報告（平成 21～24 年度）

松浦 寛司

1. はじめに

平成 21 年 3 月の中ごろでしたでしょうか、当時の渡部会長・松原副会長・井上監事・寺田事務局長の 4 名が来社され、「次年度からの事務局を引き受けて欲しい」とのお話を頂きました。

その際に対応しました当社の支社長は、「会社が新体制（この時期に日本技術開発と統合）に移行したところであり、彼が来年も松江に在籍しているのかは不明であるため、承諾の即答は出来ない」とお返ししました。その回答を聞くが早いか、「では会社（㈱エイト日本技術開発）として事務局を受けて頂きたい」と渡部会長に返され、支社長は止む無く承諾したと記憶しています。

こうして、当社としての三度目の事務局（前任は鐘築一雄氏、小豆澤薫氏）を受ける運びとなりました。初年度こそ橋尾君との 2 名での事務局でしたが、翌年より橋尾君は栄転人事により東北震災の真ただ中に転出しましたので、2 年目からは松浦事務局となった次第です（当方は、今日も同高での安定？飛行中です）。個人的には、寺田事務局長（復建㈱）、前任松崎氏（㈱ウエスコ）の流れがあり、「次はエイトさんだよね・・・」と深い根回し（圧力）を前任の M 氏より頂いておりましたので、母校の先輩からの指示に対して断る術もなく、心の中では受けるしかない・・・と準備は出来ていました。

2. 事務局運営

通常では考えられないことだと思いますが、理事も経験したことが無い（本会の運営の段取りも、理事会の流れも、会則も十分に知らない？）者が突然の事務局を担うことになりましたので、本会の活動支援・理事会の運営は極めて我流での危うい対応となりました。寺田事務局長から頂いた過去の資料を基に、どの時期に理事会をどんなテーマで開催・・・などと段取りすべきだったのかもしれませんが、総じて場当たりでの開催でした（反省）。

事務局の重要な作業には会計作業もあります。皆様や賛助会員様からの会費をお預かりしており、1 円単位での出納管理が必要になります。空いた時間を利用しての通帳記帳、手持ちの現金管理や活動補助金の支払い、経費明細書への転記など、経験したことのない作業の連続でした。

丁度この時期には、コンサル業務の形態が提案型に移行しつつありましたので、通常業務に加え各所への閲覧や提案書の作成、更にはヒアリングへの対応、その上で事務局運営・・・と、極めて厳しい（楽しい）時期であったと思い起こしております。

3. 会員の推移と事務局作業

この期間の会員数は、235 名から 284 名への増員となりました（12 人/年増加）。試験制度の改革を経て安定的な人員の発掘が進み、大会員時代に向け増員が進んだ頃と認識しています。

しかしながら、会員の増加は事務・会計処理の煩雑さに直結しました。皆様への連絡手段は総会案内を除き E メールを活用した配信システムに移行していましたが、各種の資料の配信はそれほどの問題はありませんでした。しかしながら、案内に対するご返答には確認の返答をお送りすることを信念としていたもので、総会・例会時期にはこの作業だけでも大変な時間を要したと記憶しています。

社内のパートさん（時に女房殿も参加）にお願いし、業務と掛け持ちでの作業をして何とか凌いでいたと記憶しています。

4. 事務局作業の性格

事務局の作業は上述のように大変な量であり、相応の自己犠牲なくしては出来ないことは明白です。しかしながら、専任の事務局を持たない当会においては、誰かがしなくてはならない作業もあります。会員各位の顔と名前を相応に記憶し、各所での挨拶や会費の払い込みのお礼・お願い、会の活動状況を確認し、活動が低迷すれば内々に活動の活性化への叱咤激励。

かじ取りは会長にして頂くところは当然ですが、それを下支えすることは、将にこの資格そのもので有ったと感じています。

5. おわりに

当方の任期中には、他県から多数の来客があるような大きな事業はなく、比較的平穏に役を終えさせて頂くことが出来ました。それでも、総会・例会やあるいは各所でお目に掛った際には、「事務局作業ではお世話になっております」、「いつも情報を頂きありがとうございます」、「〇〇の活動を楽しみにしていますが、活動案内は未だですかね？」などとお声掛けを頂いていました。多少の世辞も含むものとは思いますが、その言葉に何度も救われたと感じています。

事務局作業は“貧乏くじ”、或いは“雑用のかたまり”のように考えられがちですが、多数の方との面識を深める機会や、皆様からの感謝の言葉を頂ける機会も一番多い役職でもあるとも考えます。

沢山の方とお話をする機会が好きそうな貴方、屋台骨として理事会活動に参加したいと考えていそうな貴方、未来の事務局さんに期待しております。

以上

事務局雑感(平成 25～26 年度)

事務局長 原 裕二

1.現在の事務局の状況

島根県技術士会は異なる分野、業種、世代（20 代から高齢の会員まで）の会員から成り、行政、民間、教育研究機関に属する技術者で構成されています。

多様性と専門性を同時に兼ね備えた組織は、他に類を見ないと言えます。

その会も今年度で 30 周年を迎え、会員数は 2014 年 12 月で 302 人となりました。このような慶賀の折りに事務局を拝命していることは、本当に光栄に思います。

現在、事務局は事務全般を原が、会計を嘉藤太史が行っています。会社で言うと総務と経理の関係です。1 人ではとても手に負えません。

理事間の相談や皆様への連絡はメールを使っていますのでだいぶ楽ですが、それでも総会や新年例会時には大変に混雑します。

メール作業だけでも 1 日 2～3 時間要することがあります。よって、皆様への返信はほとんどできていません。この場を借りてお詫びします。

メールアドレスは、自宅のものを使用しています。その理由としては、

- ・会社で入っているプロバイダ契約では、400 件もの一斉送信ができない。
- ・会社ではサイボウズを使用しており、Outlook で作成したリストが使いにくい。
- ・仕事上のメールとごちゃまぜになって、わけがわからなくなる。

が挙げられます。

自宅メールは会社に転送しています。使用しているプロバイダ（出雲ケーブルビジョン）やウイルス対策ソフトが比較的強力なので、今までは問題がありません。

今後もセキュリティ対策を継続していく必要があります。

2.事務局の仕事

事務局の仕事は次のようなものです。大変な順に並べてみます。

1) 名簿の作成

名簿情報は総会出欠はがきを頼りにしています。以前 Access で作成してもらったシステムに情報を転記し(嘉藤理事担当)、皆様に確認していただきます。新入会員には顔写真を、賛助会員には広告をお願いします。

基本的には自己申告制なので、明らかな間違い以外はそのまま掲載しています。連絡がない場合は、何年もそのままになっています。

名簿が完成すると、その年度の仕事が終わったような気になります。

2) 会費の督促

名簿作成は体力勝負ですが、会費の督促は精神的にきつい作業です。人間に対する不信感と憐憫の情が交錯します。会費はお支払い下さい。

- 3) 会計処理 ――>長年のデータが整理されており本当に助かります。
- 4) 総会の準備 ――>出欠を把握することが最も重要になります。
- 5) 新年例会の準備 ――>研究部会主催なので、懇親会だけ担当します。
- 6) 理事会の開催 ――>年8回予定しています。
- 7) 各種の連絡事項

3. 今後の事務局のあり方

今後の事務局のあり方は、法人化の問題と切り離しては考えられません。つまり、日本技術士会島根県支部の設立の問題です。もちろん長所と短所があります。

★良くなること

- ・公益社団法人となり、母体の組織が強固なものになる。
- ・日本技術士会からの協力・支援が受けやすい。
- ・事務作業、少なくとも入退会や会費の督促等が軽減される(前述の繰り返しのようなことが解消される)。

★懸念されること

- ・会費が上がる。
- ・会員数が大幅に減少する。
- ・研究活動が衰退する。

活動はC P Dにカウントされるような、つまり講師を呼んで話を聞く形式の講習会が主流になる。少なくとも今福線の遺構や八雲風穴、庭園などを見に行くことに助成金が出るとは思えない。30年にわたって地域の発展のために続けてきたような研究活動は衰退する方向に向かう。

これではつまらないので有志で集まり、お金を積み立てながら活動することになる。しかし、それは現在の会と同じではないか。

現在の予算規模では、専任の事務局を設けるには無理があります。今後もしばらくは今のやり方を踏襲していくことになります。

皆様には事務局に関して御理解されており、いろいろな機会に激励や慰労の言葉をいただきます。大変ありがたいことだと感謝しております。

しかしそれを伝え聞いた所属会社の方としては、「それでは何とか応援しよう」という考えと、「そのように労力がかかるものなら、早くやめさせて仕事をさせないと」と考える場合と2通りあります。難しいものだと感じています。

幸いなことに皆様からの格別な御協力があり、また歴代の理事・監事の方々に御尽力いただいたおかげで、思ったよりは苦痛ではありません。

むしろ新しい知識が得られ、知らなかった世界が開けます。人脈も広がります。一度は事務局をやってみることをお勧めします。

研究部会の活動記録（平成 17～26 年度）

研究部会長 和田 浩

1. はじめに

島根県技術士会では会員の技術力の向上と技術を通じて地域に貢献すること、並びに会員相互の親睦を深めることを目的として、研究部会による活動を行っています。

研究活動は、研究部会が母体となって共同で行う分科会による研究と会員個人で行う研究からなっています。近年は関係機関からの研究報告の発表依頼や地域の方々との連携も多くなってきており、島根県技術士会が誇れる活動となっています。

2. この 10 年の活動内容（平成 17 年～平成 26 年）

分科会方式による活動は平成 12 年度より行われ、平成 16 年度には表 2.1 に示す 8 分科会が発足しました。

表 2.1 平成 16 年度の分科会

第 1 分科会（防災・災害地質・GIS）	第 5 分科会（地域資源）
第 2 分科会（中山間地域研究）	第 6 分科会（水資源と環境）
第 3 分科会（環境・景観）	第 7 分科会（地震関係）
第 4 分科会（まちづくり）	第 8 分科会（リノベーション）

平成 17 年度からの 10 年間の活動は、次に示すように概ね 3 つの期間に分けることができます。

（1）平成 17 年度と 18 年度

平成 17 年度と 18 年度は、平成 19 年に石見銀山が世界遺産登録を目指していたことより、研究部会の活動は石見銀山をテーマに多様な角度から前述した 8 分科会を表 2.2 に示す分科会に編成し集中的に調査研究を行いました。

表 2.2 平成 17・18 年度の分科会

1. トロッコ、金生坑及び交通	4. まちづくり
2. 防災・地震	5. 周遊コース
3. 過去の土木遺産	6. 景観・環境

そして、平成 18 年度は、石見銀山関連の集大成として位置づけ、坑道だけではなく、銀山周辺の歴史遺産、銀山街道やそれらを利用した観光コースの設定等について調査研究をするとともに、これまでの研究成果（平成 14 年～18 年度）を取りまとめ、平成 19 年 1 月に研究発表会を大田市の「あす

てらす；島根県立男女共同参画センター」にて一般公開という形式で開催しました。

発表会には大田市民の方々の来場もあり、盛況のうちに終えることができました。

(2) 平成 19 年度～平成 21 年度

石見銀山関連の研究活動が一段落した平成 19 年度から 3 年間は、新たな企画として奥出雲地区と浜田弥栄地区の 2 地区に分かれて、「しまね田舎ツーリズム」として活動されている施設や宿を訪問し、現地視察や地元の方々との意見交換により、地域が抱える課題を抽出し、その対策について取りまとめました。

また、大正 4 年（1915 年）に建造された出雲大社大鳥居について、「その構造と性能」として、建設経緯や寄進者である小林徳一郎氏の人物像の調査、既往資料の収集、補修工事に関して工事関係者からの聞き取り調査や施工時の調査資料の収集と再整理、構造特性・耐久性や耐震性能の検証等、様々な角度から調査を行い、地域の重要な文化遺産として活用していくための提案を行いました。この研究活動は平成 22 年度まで 4 年間行われ、コンクリートの耐久性に関しての調査研究は、より専門的な見地から島根県技術士会の会員も所属している島根県コンクリート診断士会との合同で行われました。

(3) 平成 22 年度～平成 26 年度

平成 22 年度からは、平成 14 年度より活動が行われている水資源・環境分科会は活動を継続するとともに、魅力的ではあるがまだ周知されていない地域資源に着目した分科会を新たに立ち上げ、平成 26 年度も継続して活動をしています。

新たに立ち上げた分科会；「島根の地域振興研究分科会」、「庭園文化研究分科会」、「今福線研究分科会」、「生物多様性研究分科会」、「江の川橋梁群調査研究分科会」、「バイオマス研究分科会」

新しい分科会の活動は、今まで以上に地元や地域との密着性が強くなっており「島根の地域振興研究分科会」では、出雲市佐田町朝原地区に存する「八雲風穴」の研究で風太郎グループや出雲集落支援員の方との交流が行われ、「庭園文化研究分科会」では、非公開や個人の庭園を現地視察しています。「今福線研究分科会」では地元自治会との交流をきっかけに、「今福線マップ」の作成を「中国地方地域づくり等助成事業-（一社）中国建設弘済会」の助成を受けて行いました。

この 10 年間の共同研究の活動内容は、表 2.3～2.5 の通りです。

表 2.3 この 10 年間の活動内容（1/3）

年	分科会名	主な活動内容
平成17年	石見銀山の共同研究	H19年度に世界遺産登録を目指す石見銀山をテーマとして、6分科会にてその魅力を掘り起す
	水資源及び環境	石見銀山の研究に先立ち、活動を開始していたため引き続き「忌部の水質」についての調査研究
平成18年	石見銀山の共同研究	石見銀山関連の集大成として位置づけ、坑道、その周辺の歴史遺産、銀山街道やそれを利用した観光コース等について調査研究するとともに、これまでの研究成果を取りまとめ公開の研究発表会を開催
平成19年	水資源と環境	忌部川流域の水利用や水質の経年変化や水質汚濁についての調査研究
	出雲大社大鳥居研究会	出雲大社大鳥居の構造や補修履歴について既往図書や工事業者を中心とした調査
	「しまね田舎ツーリズム」 浜田弥栄地区分科会	「ふるさと体験村」に宿泊し、その周辺地域である浜田市弥栄地区の状況等を調査
	「しまね田舎ツーリズム」 奥出雲地区分科会	「若槻屋」に宿泊し、鉄の歴史村や雲南市吉田町の状況等を調査
平成20年	出雲大社大鳥居研究会	出雲大社大鳥居の構造について既往資料や関係者より入手し、耐久性や構造の安定性についての考察 耐久性の調査等は、島根県コンクリート診断士会と合同研究
	「しまね田舎ツーリズム」 浜田弥栄地区分科会	「つゆの宿」に宿泊し、その周辺地域である江津市松平地区の状況等を調査や、地区の祭りに参加
	「しまね田舎ツーリズム」 奥出雲地区分科会	奥出雲たたらと石見銀山の観光ネットワークを考えるものとし、連携のポイントである三瓶山周辺の自然・景観環境や神社等について調査
平成21年	出雲大社大鳥居研究会	H19、20年の活動で得たデータを基に、「耐震性能照査」を実施
	水資源と環境分科会	島根県内の気温や降雨における気候変動について、「浜田」、「松江」、「西郷」の観測所のデータの調査と傾向
	「しまね田舎ツーリズム」 浜田弥栄地区分科会	当研究の初年度である弥栄地区に存する宿「陽気な狩人」に宿泊し、再度その周辺地域にあるツーリズム宿や農場等の状況を調査 2年目に視察した松平地区でのワークショップへの参加、3年間の活動についての取りまとめ
	「しまね田舎ツーリズム」 奥出雲地区分科会	島根県内にも似た地名がある鳥取県日南町への調査、木次線トロッコ列車「奥出雲おろち号」の活用方法、出雲流庭園など多岐について調査
平成22年	出雲大社大鳥居研究会	H19年～21年までの研究成果と、H2年に補修工事を行った施工業者（(株)森本組）からの貸与資料を再調査と総括
	水資源・環境分科会	島根県内の気温や降雨における気候変動について、「浜田」、「松江」、「西郷」の観測所のデータの調査と傾向について考察 佐陀川の歴史や活用方法、宍道湖の環境保全についての調査
	石東地域の地形地質に関する地域貢献研究分科会	大田市周辺の地形・地質を活用した地域活性化や地域貢献を目的として、羽根漁港を発着点とした伝馬船でのエコ・アド・ツアーや三瓶山火砕流の痕跡地の調査
	バイオマス研究分科会	島根県内の木質バイオマス利用の実施例として邑智郡森林組合や三瓶自然館サヒメルを視察
	庭園文化研究分科会	島根県内の日本庭園を訪ね、庭園の魅力や作庭技術に触れ、地域資源としての活用や保全を考えていくことを目的として、出雲市、斐川町に存する「出雲流庭園」（出雲地方独特の作庭様式）を調査
	今福線研究分科会	H20年に土木学会より選奨土木遺産に認定された「今福線コンクリートアーチ群」が存する幻の広浜鉄道「今福線」の現状把握として遺構を調査

表 2.4 この 10 年間の活動内容 (2/3)

年	分科会名	主な活動内容
平成23年	水資源・環境分科会	歴史的な水利構造物として意宇川の視察を行い、開削の要因やその事業効果についての調査
	島根の地域振興研究分科会	石東地域として銀の積出港であった、仁摩町鞆ヶ浦周辺の海岸地形を観光遊覧船の利用等により調査を行い、仁摩町大国まちづくりセンター長との意見交換
	バイオマス研究分科会	市民参加型の木質バイオマスの活用事例として鳥取県智頭町「木の宿場プロジェクト」を視察するとともに、伐採等の実体験を実施
	庭園文化研究分科会	典型的な出雲流庭園と言われている松江市に存する重要文化財「八雲本陣」と佐草邸庭園の視察 その発生背景や作庭技術等について調査
	今福線研究分科会	H22年の現地調査で確認できなかった遺構の状況調査や地元の方々との交流 今福線の利活用方法や情報発信についての意見交換
	生物多様性研究分科会	初年度の活動として、生物多様に関するアンケート調査の実施、雲南市大東町山王寺の棚田の現地調査や棚田まつりへの参加
平成24年	水資源・環境分科会	松寄下釣樋の場所や来原岩樋の現地調査や出雲三兵衛の一人、大楯七兵衛が成した事業やその効果についての検証 H22～24年の活動の取りまとめ
	島根の地域振興研究分科会	温泉津地域（堂床山、銀山街道、福光石）の地形・地質の調査
	バイオマス研究分科会	バイオマス事業の先進地である岡山県真庭市を調査対象として、「バイオマスツアー真庭」というツアーへの参加と事例の体験
	庭園文化研究分科会	現役庭師の方と一緒に個人庭園、料亭庭園、寺庭園等を視察し、「出雲流庭園」の特徴の整理や歴史についての考察
	今福線研究分科会	今福線のマップ作成を目的として、下府駅から今福までを3区間に分けて、詳細な現地調査や遺構の案内コメントの作成 全部で4枚構成のマップの素案を作成
	生物多様性研究分科会	穴道湖湖岸でのヨシ再生の現地状況や、飯南町での赤名湿地性植物群落の現地視察 飯南町森林セラピーについて講師の方との意見交換
平成25年	水資源・水環境分科会	選奨土木遺産に認定されている忌部川の千本ダムと大谷ダム、松江市の忌部浄水場の視察 ダム構造や浄水場の濾過方式のメカニズムについての調査
	島根の地域振興研究分科会	出雲市佐田町朝原地区に存する「八雲風穴」について現地調査や風太郎グループ会長や出雲集落支援員との意見交換 風穴内外部の気温の連続観測
	庭園文化研究分科会	島根県西部の津和野町の国指定名勝「堀庭園」や一般公開されていない文化庁登録記念物「亀井氏別邸」「椿氏庭園」などを視察
	今福線研究分科会	今福線新線である下長屋トンネル（L=1633m）内の現地調査を地元の自治会長さん達と行い、状況把握や利活用の意見交換 今福線マップの作成と島根県技術士会HPへの掲載
	生物多様性研究分科会	八幡湿原や赤名湿地性植物群落の現地視察、中海自然再生協議会との意見交換 山王寺本郷棚田委員会主催の自然観察会への講師派遣
	江の川橋梁群調査研究分科会	今年度より、江の川（江津～三次）に架かる橋梁群の建設経緯や歴史検証、橋梁の基本諸元の整理やマップの作成を目的として、活動を開始 広島県境～美郷町役場までの10橋についての現地視察

表 2.5 この 10 年間の活動内容（3/3）

年	分科会名	主な活動内容
平成26年	水資源・水環境分科会	「四国の豊稔池・満濃池」の現地視察
	島根の地域振興研究分科会	出雲市佐田町の「風穴」の掘り起しとして新たな4か所について風穴かどうかの現地調査や状況・利用実態の調査
	庭園文化研究分科会	京都に居を構え全国に数多くの作品を残している作庭家・重森三玲が手がけた県内の個人庭園（2作品）の現地視察 「島根の庭園マップ」を島根県技術士会HPへ掲載
	今福線研究分科会	今福線マップ更新とH27年8月に開催される今福線シンポジウムに向けた新たな情報収集のための現地調査 シンポジウムに向けた実行委員会としての参画
	生物多様性研究分科会	「ご神木・荒神さん・社寺林」をテーマとして、意宇川流域（松江市東出雲町周辺）のご神木・社寺林を視察
	江の川橋梁群調査研究分科会	浜原ダム～江津市桜江町までの区間の橋梁について現地視察

（4）活動の成果（研究報告書）

活動の成果は、毎年研究部会活動に参加した会員が活動内容、現地視察での課題、その対策や感想等について研究報告として作成します。

研究報告書は、分科会活動による報告と個人が研究した報告から構成され、この 10 年間の研究報告の数は図 2.1 に示すように年々増加傾向となっています。

表 2.6 研究報告書の構成

年	分科会活動 (編)	個人研究 (編)	合 計
平成17年	13	2	15
※平成18年	43(12)	1(1)	44(13)
平成19年	15	4	19
平成20年	14	3	17
平成21年	15	4	19
平成22年	26	5	31
平成23年	31	3	34
平成24年	29	7	36
平成25年	41	4	45

※平成 18 年度は、石見銀山に関する過去の研究をまとめており、
（ ）内の数字が平成 18 年度の活動報告を表しています。

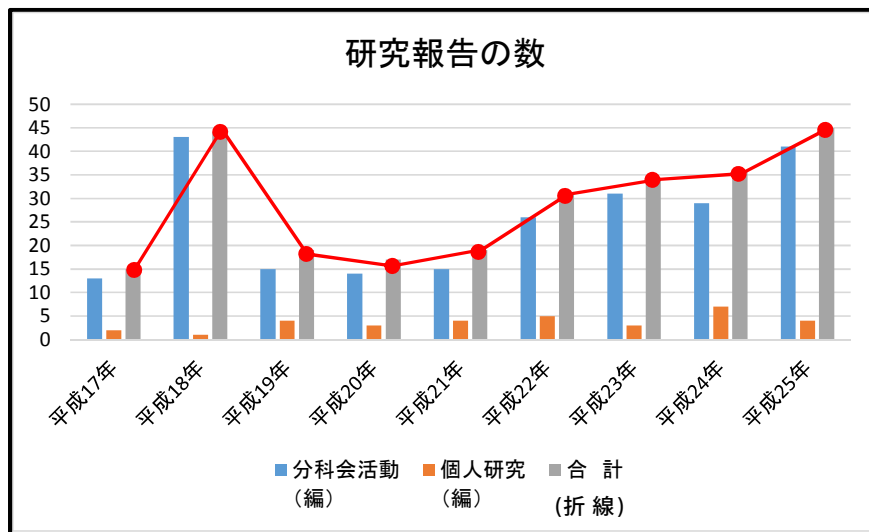


図 2.1 研究報告数の推移



図 2.2 この 10 年の研究報告書

(5) 活動の思い出話とエピソード

研究部会としての活動が終結した「石見銀山の研究」と「出雲大社大鳥居の研究」での思い出話やエピソードについて、各研究の世話役や幹事を担当された長嶺さんと松浦さんに振り返ってもらいました。

【石見銀山にまつわる分科会活動についての雑感】

長嶺 元二

世界遺産に登録されると、一時石見銀山に観光客が集まったが、その後の客足は減少を続けていると聞く。行ったことのある人ならば、さもあらんと思っているに違いない。交通の便が悪いから、歩く距離が長いから、宿泊施設がないから、と人氣がでない理由は幾つもあるだろう。こうなることは先刻承知であり、世界遺産登録の目的は客寄せのためではない、との反論もあるだろう。しかし、地域経済としては観光客が多いに越したことはないし、リピーターを呼べるほどの魅力があるに越したことはない。

私が石見銀山にまつわる分科会活動に関わるようになった発端は正確に覚えていないが、銀山の魅力掘り起こしに少しでも力になれないかと、思いつきで言ってしまったためのような気がする。ものぐさな私が何年間にわたり活動の世話役を引き受けたのは、そうせざるを得なかったためであろう。世界遺産に登録される以前のことなので記憶がかなり曖昧で恐縮であるが、原稿を頼まれた以上、徒然に思い出す努力をしてみた。

世の中には不思議な植物があるもので、金や銀があるところに好んで生息するシダ植物がある。昔の山師らはこのシダを探して山中に分け行ったらしい。そのシダを「蛇の寝ゴザ」という。その繁茂地に



写真 1. 蛇の寝ゴザ

案内板を立てれば、銀山を散策する人が鉱石探しに思いを馳せ、少しの楽しみになるような気がした。そこで、会のメンバーの一人で、その道の専門家である平野浩氏（森林部門他）を先生役に仰ぎ、蛇の寝ゴザ探しを行った。シダの種類は非常に多いそうで、外見で判断がつかない場合は根を掘り出して判別するよう指導を受け、私を除く皆が蛇の寝ゴザを見分けられるようになった。そして、2年にまたがる成果として、蛇の寝ゴザマップを原裕二氏（応用理学部門他）が報告している。

その他にも、石見銀山資料館学芸員の仲野義文氏に仙の山の向こうにある遺跡を案内していただいたり、大田市の職員と一緒に仙の山に登ったりもし

たように覚えているが、私が最も印象深かったのは、メンバーの尽力により、一般公開されていない坑道に入らせてもらったことである。仙の山の下には観光客が目にする事のない坑道がたくさん穿たれてあり、そのなかで仙の山の真下を貫くトロッコ坑道を探検させてもらった。坑壁は所々崩壊しており、多少の恐怖を覚えながら奥を探ったが、この坑道が手を入れればまだ使えることがわかった。そして、この時の活動を多久和豊氏（建設部門）が、トロッコ列車を蘇らせ、ロープウェーで大森の谷をわたる、石見銀山テーマパーク化計画として報告している。

私たちの活動成果は世話になった関係者、例えば大田市石見銀山課等に提出させていただいている。それが直ぐに役立つものとはどうい思ってもいないが、いずれ誰かのなにかの発想のきっかけになればめっけ物と願っている。

以上



写真 2. 本谷の遺跡



写真 3. トロッコ坑道（金生坑）

【出雲大社 大鳥居研究（H19年～H22）】

出雲大社大鳥居研究会 松浦 寛司

1. はじめに

来る平成 27 年（2015）11 月には、出雲大社大鳥居（1915）は建造 100 年を迎えます。日本一古い鉄道橋（安来市：島田川橋）が国鉄の事業として建造された 1904 年から 11 年後に、個人の篤志家が遥かに大きなこの鳥居を建造し寄進しています。この鳥居の偉大さは、鉄筋コンクリートとして 100 年もの歴史を絵はがきの姿で証明できること、今日も平然と聳え参拝客を見守り続けていること、さらにその各部の構造が相応に明らかなことであると考えています。

この研究のきっかけは、佐藤忠雄会員の一言であり、「出雲大社の大鳥居は私よりも年寄であり、どうにかしてその構造を調べてみたい」から始まりました。当時の佐藤会員は、御年 80 歳を越えられていましたので、大鳥居の歴史を知らない当方には、“まさか・・・”との驚きでした。



写真 4. 大鳥居の施工時写真や絵葉書

2. 偶然の巡り合せ

佐藤会員とお話しをさせて頂いた中では、出雲大社へ大鳥居の資料の提供をお願いしても簡単には情報を頂けない模様であること、他の会員からも立場を変えたお願いでも情報提供頂けることはないだろうと、先が見えない状況でした。

当時、私は隠岐の橋梁補修・補強業務を実施しており、「建造後 30 年ほどで補修が必要な施設があれば、100 年近くも健全な鳥居もある。しかしながら、残念なことにその構造を知ることが出来ない」と担当者（F 氏）に話しました。すると F 氏は、自身は千家宮司と幼なじみであり、大社町の住人として研究の意図に賛同するので、千家宮司へ仲介をしてあげようと運んだ次第です。これが、この研究が動き出す大分岐点になり、将に“大鳥居を勉強しろ”との寄進者の意を感じるほどの偶然でした。

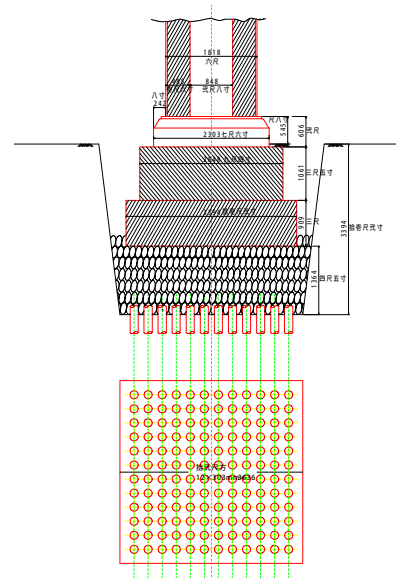


図 1. 基礎詳細図

1 か月ほど後に F 氏と一緒に出雲大社にお邪魔したところ、宝物殿より探して頂いた 4 枚の図面をお借りできました。そこには、緑の下地に白インクで作図された、大鳥居の笠木・縞木・神額・貫・柱・台石・基礎の図面が用意してありました。

将にお宝に巡り有った一瞬でした。

3. 偉大な篤志家「小林徳一郎翁」

この研究は大鳥居の構造を研究したいと始めたものでしたが、郷土が生んだ偉大な篤志家「小林徳一郎翁」を知る機会になりました。小林徳一郎翁は、邑智郡高原（旧瑞穂町高原）の生まれであります。若くして小倉の地で成功し、九州の各地や当県に多大な篤志家活動をされています。

私自身はこちらにも強い感銘を受けました。絵描きの才があれば「伝記漫画 小林徳一郎」・・・腕が無いと断念、錦織良成監督にお願いして「小林徳一郎の生涯」なる映画・・・提供資金がないと断念、こちらは妄想と断念の世界でした。

小林徳一郎翁の篤志家活動に対しては、地元の高原や小林家の郷里である横田町において各種の功績を伝える行事が行われており、我々も郷土が生んだ偉大な篤志家として、その功績を広く認識すべきと思うところです。

4. 出雲大社大鳥居 「その歴史と構造」

この研究を通じて大鳥居の構造や施工技術、更には耐久性を向上させた仕上げの技術が極めて優れていたと感じています。自重の軽減に用いた笠木・縞木・柱への中空構造、施工効率を向上させるために用いたであろう鉄骨併用構造、軟弱地盤部に地下水位の高さを反映した木杭と玉石の地盤補強構造

など、今日までの 99 年間の地震や強風に耐え得る構造を見事に見出しています。

他方、高原神社の鳥居に見られたように、コンクリート打設面に仕上げモルタルを被覆工として用いたものと考えられ、これが日本海からの季節風による塩分の侵入や中性化の進展を見事に遮断したものと想像します。当時は、化粧仕上げ材として用いられたと考えますが、見事に有害物の侵入を防止する 2 次作用を生んだと考えます。

この研究により得た大鳥居の資料や先人の知恵について、当会や島根県コンクリート診断士会はもとより、県内の県土整備事務所への出前講座、県内の建築士会での研修活動、更には西日本技術士業績発表会、全国コンクリート診断士の業績発表会を通じて、宣伝マンとして以下のようにお話しをさせて頂いています。

「先人の知識・努力・丁寧な仕上げと情熱が見事に融合したことが、100 年もの長きにわたり、出雲の地に聳える大鳥居を成し、今日の技術屋が学ぶべき手本である」。

5. 最後に

出雲大社大鳥居研究は、施工当時の図面と補修時に調査が行われた各種のデータの収集、更には活動に参加された方々の熱意により進めることができました。

他方、先に示した高原神社の鳥居においては、それらの資料が無い中で、言わば今日の篤志活動の如く、地元の方々の寄付金により補修工事が成されています。恐らく、施設管理者が特定できない全国の類似施設においても、同様の活動の中で今日までの施設保存が続いているものと考えます。

小林徳一郎翁が残された施設には、横田町の稲田姫神社の鳥居や参道の RC 立体ラーメン橋もあります。今回の活動を通じて得た経験を踏まえ、先人の遺産を後世に伝える活動に積極的に参画して行きたいと感じるところです。

以上

3. これからの活動

島根県技術士会ではホームページ(<http://peshimane.net/>)で研究部会の活動をはじめ、色々な情報発信を行っています。その中で「今福線研究分科会(H26年2月9日掲載)」と「庭園文化研究分科会(H26年12月16日掲載)」は、下図に示すようにマップを作成し掲載しています。

トピックス

- 2014/12/24 会員向け案内:30周年記念誌自由投稿原稿執筆依頼(執筆要領変更)
- 2014/12/16 "島根の庭園マップ"へのリンクを追加しました
- 2014/11/21 会員向け案内:平成26年度「新年例会」研究発表の原稿募集
- 2014/07/08 オモシロ技術塾:平成26年度年間予定表
- 2014/04/21 研究分科会:今福線マップ完成!(桜絵巻追加)

新着情報

- 2014/12/15 【活動報告】2014年12月度 オモシロ技術塾
- 2014/12/06 平成26年度新年例会・島根県技術士会30周年記念式典のご案内
- 2014/12/05 塾のご案内:2014年12月度 オモシロ技術塾
- 2014/12/04 【活動報告】第8回 産学交流企画活動内容報告(2014年)
- 2014/11/27 【活動報告】2014年11月度 オモシロ技術塾
- 2014/11/27 【報道】今福線研究分科会の活動(山陰中央新報)
- 2014/11/27 【参加報告】第41回技術士全国大会
- 2014/11/14 【活動報告】2014年10月度 オモシロ技術塾

CPD情報

- 2014/11/12 塾のご案内:2014年11月度 オモシロ技術塾【講師変更】
- 2014/11/07 地域振興研究分科会:出雲市佐田町の“冷気ポイント”の調査(第二弾)について
- 2014/10/28 庭園文化研究分科会:庭園視察第2弾“重森三玲の庭”のご案内
- 2014/10/10 島根大学自然災害軽減プロジェクト センター公開シンポジウムのご案内
- 2014/10/10 防災部会:広島県豪雨災害の現地踏査及び報告会のご案内
- 2014/10/10 江の川橋梁詳細調査分科会:現地視察のご案内
- 2014/10/06 生物多様性研究分科会:現地視察(意宇川流域のご神木・社寺林等)のご案内
- 2014/08/29 青年部企画:産学交流企画のご案内

庭園文化研究分科会

今福線研究分科会

ページ内検索

検索: 検索

カテゴリー

- CPD情報 (278)
- お知らせ (13)
- トピックス (5)
- 例会・研究発表会 (11)

図 3.1 島根県技術士会ホームページ



図 3.2 庭園文化研究分科会のマップ



図 3.3 今福線研究分科会のマップ

「島根の庭園マップ」は、これまで視察した庭園について Google Maps Engine (Lite 版) を利用して、位置 (住所)、作庭様式・年代、概要や写真等を公開しており、ホームページ上のバナーをクリックすることによりアクセスすることができ、今後も随時、写真や記事を追加していきます。

「今福線マップ」は、遺構 (トンネルや橋梁) の写真やその概説をしており自由にダウンロードができるようになっています。

「今福線研究分科会」は、平成 26 年 2 月にマップの作成と分科会の研究活動や遺構 (今福線は現在、浜田市が管理をしています) の維持・保存・活用方法をアピールするため、浜田市長を訪問しました。それが一つのきっかけとなり、平成 27 年 8 月に「広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム」が浜田市で開催されることとなりました。島根県技術士会 (今福線研究分科会) は共催として企画立案や運営の参画にも携わっており、シンポジウム後も今福線が地域のお宝として活用できる方策の提案や手助けをしていきたいと考えています。

今後は、他の分科会活動についてもマップの作成や、過去の活動も含め「島根の庭園マップ」同様、Google Maps Engine を利用した活用を予定しており、より多くの情報を発信していきたいと考えています。

平成 26 年 4 月現在、島根県の人口は 70 万人を割りました。10 年前の平成 17 年の人口は約 74 万人で、昭和 30 年 (1955 年) の 92.9 万人をピークに年々減少しており、約 10 年後の平成 37 年には 62 万人になると予測されています。少子・高齢化も進んでいく中、地域の活性化や発展を図っていくためには、交流人口を増やしていくことが必要となります。

出雲大社の「平成の大遷宮」により、県内外から多くの方が出雲市や松江市を訪れています。平成 26 年には「石州半紙 (浜田市三隅町)」が「和紙：日本の手漉和紙技術」として「ユネスコ無形文化遺産」に再記載されました。また、本会も研究対象として取り上げ平成 19 年に世界遺産 (文化遺産) として登録された「石見銀山」もあります。その他、まだまだたくさんのお宝が県内各地に埋もれています。お宝となる資源の掘り起しやその資源を科学的にアプローチすることで、地域の発展に貢献できるものと考えます。

本部会の活動を通して情報を発信していくことで少しでも多くの交流人口が増え、地域が活性化していくことを願います。

4. おわりに

研究部会の活動は、島根県技術士会の中心の一つと言っても過言ではありません。本部会への活動に参加することで地域が抱える課題や問題点に直面

しそれを解決する方法や対策を考えることは、単に仕事や業務での問題解決や算式で答えが導き出せるようなものではなく、色々な意見（地元や地域）を聞き入れ取りまとめながら（ある意味では妥協しながら）行わなくてはならず、それこそ手探り状態で答えを見つけていかななくてはなりません。

自分の専門分野や技術とは異なる分野に関わることで、基準にとらわれない柔軟な発想を引き出すことができるのではないのでしょうか。

本部会の活動で培われる問題解決能力は、業務を進めて行く上においても、また、説明責任を果たす上でも非常に役立つものであると考えます。

平成 25 年度は、7 月 28 日に津和野町で、8 月 23 日～25 日に江津市・浜田市・邑南町で豪雨災害が発生しました。災害の復旧・復興に関わる業務等多忙の中、多くの会員の皆様に分科会活動に参加していただき、研究報告数も過去最多となりました。また、平成 26 年 1 月の新年例会では、直前の開催会場の変更（発表会、懇親会とも別々）にも関わらず、林会長、事務局をはじめ理事の皆様の迅速な対応と会員の皆様のご協力により無事開催することができました。

困難な問題に立ち向かい解決していく、まさに我々技術士に求められる問題解決能力の発揮と島根県技術士会皆様の団結力の賜物と思います。

現在、島根県技術士会の会員数は約 300 名となっていますが、分科会活動への参加者は継続活動が多いため固定化されてきた感があります。しかし、分科会の内容に興味のあるものやもっと知りたいと思うもの、あるいは現地視察が皆様の住居近くで行われる等、もっと気軽な気持ちで参加していただければと思います。

最後に部会活動への参加は会員の皆様のご協力はもとより、皆様が所属している会社や機関のご理解があればこそと考えております。ここに記してお礼を申し上げますとともに、これからも是非多くの会員の皆様に参加していただきたいと思います。

交流部会の活動記録

交流部会長 佐藤 勝則

交流部会では、受験対策講習会の開催や他県技術士会との交流会及び審議会等への委員の推薦など技術普及や交流活動を支援しています。

1. 技術士第二次試験受験対策講習会

本講習会は平成6年度から開催されており、現在は島根県測量設計業協会と共催し、青年部会の全面的な協力を得て毎年4月に開催しています。

全体講義の講師には平成22年から島根大学OBでAPEC-semiを主宰されている鳥居直也氏（福井県小浜市在住）を迎え、試験の動向と基本的な心構えについて指導をいただき、引き続き受験部門ごとの班別に青年部会の技術士20数名が個別指導をしています。例年30～40名程度の受講で、多くの合格者を輩出しており、筆記試験合格者には口述試験の模擬面接もしています。



鳥居直也氏による特別講義



青年部技術士による個別指導

2. 他県技術士会との交流活動

平成9年から他県技術士会との交流を定期的に行うようになり、現在4県の技術士会（鳥取県、岡山県、香川県、高知県）に広まり、名称も日本海・瀬戸内海・太平洋縦断技術士会となっています。

交流会は、テーマに沿った事例紹介や意見交換会（懇親会）など有意義な情報交換の場となっています。平成27年は島根県の当番ですので、多くの会員の参加をお願いします。

平成23年9月 岡山県倉敷市 「持続可能な社会づくりに向けた取り組み」

平成24年8月 高知県高知市 「自然エネルギーと高知の歴史」

平成25年8月 香川県高松市 「地域活性化に向けた取り組み」

平成26年8月 鳥取県鳥取市 「ジオパークに向けた取り組み」

また、平成16年10月に米子市で開催された第34回日韓技術士会議に当会から40数名が参加し、両国技術士となごやかな友好親善の場を持ちました。

平成18年10月には、日本技術士会北陸支部と中四国支部のご協力と新潟県土木部の格別のご配慮により、中越地震災害の復興状況を長岡市、旧山古志村を中心に視察しました。



縦断技術士会 in 鳥取 事例発表



パネルディカッション

3.委員会・講習会への講師派遣

行政機関、教育機関や各団体から審議会、講習会の委員、講師の推薦依頼があった場合、本会会員に公募し適任者を推薦しています。

現在、派遣している委員会などは次のとおりです。今後も同様な依頼がある予定ですので、科学技術の社会貢献活動に積極的に参加してみてください。

依頼機関	委員会等の名称【職名】	期間、月日	講師登録部門
島根県土木部 (道路維持課)	島根県橋梁長寿命化修繕 計画策定検討会【委員】	平成25年5月 ～平成27年3月	建設部門 1名
島根県土木部 (都市計画課)	島根県景観審議会【委員】	平成26年2月 ～平成28年1月	建設、環境部門 1名
	島根県景観アドバイザー	平成24年7月 ～平成26年6月	建設、応用理学 部門 3名
松江市	松江市景環審議会【委員】	平成25年7月 ～平成27年6月	上下水道部門 1名
島根県建設 技術センター	土木技術講習会【講師】 土木構造物の設計、演習	6月ごろ 土圧、地盤、基礎	建設、地質部門 3～4名
	土木技術講習会【講師】 基準書・指針の解説、演習	9月ごろ 盛土、軟弱地盤対策	建設、地質部門 3～4名
松江工業高等 専門学校	技術者倫理授業【講師】 第5学年130人 講義90分、レポート採点	12月～2月 5回	建設、電気電子 上下水道、金属 部門 5名
島根県立大学 (浜田キャンパス)	キャリア形成講座【講師】 (問題解決ワーク)	1月ごろ	青年部技術士 5名
島根県立東部 高等技術校	一級土木施工管理技術 検定実地対策セミナー	平成26年9月、2回 講義、小論文添削	建設部門 4名

広報部会この10年

広報部会長 石田 弘至

広報部会の役割は、島根県技術士会に関する広報を実施することであり、以前より、会員名簿の作成・配布をメインの活動としています。

平成22年度からは、活動のアピールを目的とした主要行事のプレスリリースにも取り組んでいます。

1.会員名簿

会員相互の連絡等に利用するだけでなく、技術士が持つ技術をさらに活用していただくため、外部の関係先に積極的に配布しています。

- ① 作成部数 近年は1, 200部（平成26年度は1, 300部）
- ② 配布先 個人会員、賛助会員、関係機関（国、県、市町村、各種団体、学校等）
- ③ 配布時期 9月～11月
- ④ 10年間の改善点等
 - ・ H17：名簿写真の一斉更新（総会時に写真撮影）
現在は名簿写真と実年齢の開きが大きくなりました。
来年あたり、写真更新を企画します。
 - ・ H18：名簿情報のデータベース化
森山会員が名簿担当者だったこの年、個人的に作成されました。
これにより作業が大幅に短縮、改善されました。（感謝です！）
 - ・ H24：名簿の冒頭、会長あいさつ文の後に、島根県技術士会の紹介を掲載、
地域貢献活動などを記載
 - ・ H25：五十音順会員名簿を掲載
 - ・ H26：表紙に「しまねっこ」（島根県観光キャラクター）掲載

【データベース化を行った森山会員から】

以前は事務局が手作業でやっていて、名簿作成時には確か印刷屋さんにデザインをお願いしていたと思います。

手作業であることとデザインが第3者まかせのため、結構ミスが多く、また人によっては写真NGとか住所NGとかのリクエストがあり、チェックや修正などが非常に大変だったので、データベース化しマクロで名簿の形にしようと思いつきました。

2. フォトレポート

HP管理部会と共同で主要行事の報告をホームページ上に掲載しています。

島根県技術士会 - 新着情報

しまねをサポートする
ASPE
島根県技術士会
ASSOCIATION OF SHIMANE PROFESSIONAL ENGINEERS

[トップ](#) | [新着情報](#) | [CPD情報](#) | [オモシロ](#) | [アーカイブ](#) | [会員名簿](#) | [掲示板](#) | [リンク](#)

技術士会 行事予定

2012年 4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

<今日>

技術士会HPメニュー
[ホーム](#)
[新着情報](#)
[ニュース投稿](#)
[アーカイブ](#)
[CPD情報](#)
[オモシロ技術塾:告知](#)
[オモシロ技術塾:記録](#)
[会員名簿](#)
[行事予定表](#)
[アーカイブ](#)
[全国大会記念集](#)
[リンク集](#)
[掲示板](#)
[お問合せフォーム](#)

技術士HP内検索

検索

高度な検索

技術士会 新着情報

- 平成24年度 島根県技術士会総会のご案内 (2012-4-3)
- 第5回議事録を掲載しました。(2012-2-13)
- 技術士第二次試験受験対策講習会のご案内 (2012-2-2)
- **平成23年度島根県技術士会研究報告のHP掲載 (2012-1-31)**
- H23島根県技術士会研究発表会フォトレポート (2012-1-26)

ログイン
ユーザー名:
パスワード:

ログイン

パスワード紛失

新規登録

広報部会: H23島根県技術士会研究発表会フォトレポート

投稿者: aspe 投稿日時: 2012-1-26 14:18:32 (132 ヒット)

平成24年1月21日(土)ホテル栄道湖(松江市西郷島町)にて、平成23年度島根県技術士会研究発表会が開催されました。



今回は、東日本大震災を機に発足した津波研究会の発表があること等が事前に山陰中央新報で紹介されたこともあり、会員約100名に加えて、38名の一般からの参加者も得て、総勢約140名のこれまでにない盛大な発表会となりました。

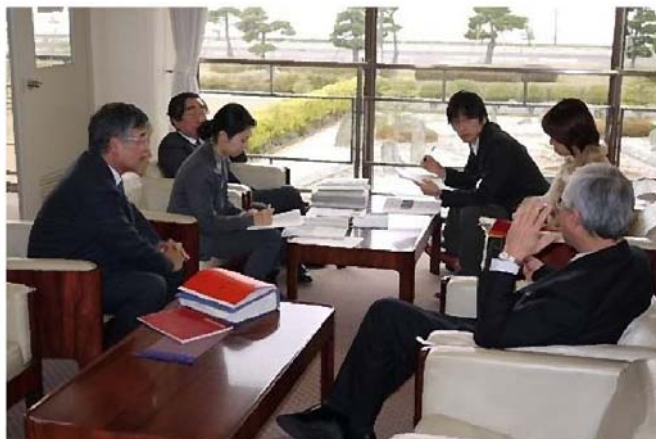


津波研究会の発表では、報道8社(朝日新聞、毎日新聞、中国新聞、山陰中央新報、島根日日新聞、建設興業タイムス、山陰中央テレビ、安来どじょうこテレビ)の取材があり、津波に対する関心の高さを改めて窺うこととなりました。

島根県技術士会 - 新着情報



一般参加者からの質問もあり、盛り上がりのある研究発表会となりました。



発表会終了後も、マスコミの取材を受け(林会長、津波研究会の児島部会長、加藤部会員)、島根県技術士会をアピールする良い機会となりました。

このほか、研究発表の内容を記せば、以下のとおりでした。

1. 分科会発表

(1)防災分科会(津波研究会)

- ・津波研究会の概要 児島秀行
- ・益田を襲った万寿3年の大津波 加藤芳郎
- ・大田市周辺における万寿大津波に関する記載資料と現地視察報告 畑 和宏

(2)島根の地域振興研究分科会

- ・石東地域の地形・地質に関する地域貢献 三谷 真、井上 真

(3)バイオマス研究分科会

- ・市民参加で地域を元気にする木質バイオマス活用 勝部祐治、河合和義

(4)庭園文化研究分科会

- ・今年度の活動報告 片山直樹

(5)今福線研究分科会

- ・鉄道廃線跡を訪ねる 河野靖彦
- ・今福線研究分科会2年目の活動 木村賢一

(6)生物多様性分科会

- ・日常生活の延長線上で生物多様性を考える 大嶋辰也

2. 個人発表

- (7)沖縄の耐候性鋼橋梁 松崎靖彦、大屋 誠、清水閑橋
- (8)歌帝後鳥羽院と隠岐の風景 吉田 薫
- (9)エコロジカル・フットプリント(EF)という環境指標について 寺田彰憲

3.プレスリリース

平成22年度以降、技術士及び島根県技術士会の知名度アップを目的にプレスリリースを積極的に行っています。



平成26年 1月16日
島根県技術士会
会長 林 秀樹

担当理事：和田 浩(携帯) 000-0000-0000
担当理事：大嶋辰也(携帯) 000-0000-0000

県土の保全と振興を考える！ — 島根県技術士会 新年研究発表会 —

島根県技術士会では、会員の技術力向上と技術を通じた地域貢献を目的として研究活動を行っており、毎年この時期に研究成果の発表会を開催しています。

研究活動には、会員が共同で行う分科会による研究と個人で行う研究があります。近年は、技術力向上のみならず、地元島根の元気復活を目指して、地域貢献をテーマとする研究も多く行うようになってきました。

今回は、昨年夏に県内で発生した豪雨災害や東日本大震災から3年目の現地視察報告といった”いかにも技術屋”らしい話題から、今福線や庭園文化のマップづくり、八雲風穴、江の川橋梁群など、埋もれている地域資源の活用に関する研究まで、多彩な発表内容になっています。

このような私共の活動を広く一般の皆様方にも知って頂きたいと考え、下記のとおりお知らせします。

記

◆日時：平成26年1月18日(土) 13:00～17:30

◆場所：島根県職員会館(2階大会議室) 松江市内中原町52番地(県立武道館の西隣)

【分科会発表の聞きどころ】

1. ついに完成！！(地元の方とともに)

■石見のお宝「幻の今福線」(今福線研究分科会)

☆中国地方地域づくり等助成事業を活用して、幻の鉄道「今福線」の遺構を紹介するマップ(初版)を完成させ、地域の方と全長1.6kmの直線区間を有する下長屋トンネルの現地調査を行いました。マップや廃線トンネルを利用した地域振興について提案します。

2. 防災を考える

■川本町日貫、津和野町名賀川流域の災害(防災分科会)

☆防災部会では平成25年夏に島根県で発生した豪雨災害(津和野、日貫地区)について報告するとともに「災害を躲(かわ)す」方法について提案します。

■東北視察の報告(青年部)

☆東日本大震災から2年半が経過した昨年9月、宮城県を主体に復興状況等の視察を行いました。本発表ではその視察全体の概要説明と、旧大川小学校等での津波被災について考察します。

3. 埋もれた地域資源の掘り起こし

■島根の庭園マップ(庭園文化研究分科会)

☆旧松江藩内でしか見られない”出雲流庭園”など県内には地域文化を反映した日本庭園が数多く存在します。研究分科会では“島根の庭園マップ”を作成しGoogleMapsでの一般公開に取り組んでおり、今回はβ版による概要説明を行います。

■千本ダム・大谷ダムならびに忌部浄水場視察報告(水資源・水環境分科会)

☆土木学会選奨土木遺産に指定された「千本ダム」をはじめ、登録有形文化財に多数登録された忌部浄水場は、先人の高い土木技術が今に伝えられています。近代水道を造った先人たちの技術力と安全で安定した水道供給における浄水技術について報告します。

■八雲風穴の研究(島根の地域振興研究分科会)

☆出雲市佐田町朝原にある“天然のクーラー”八雲風穴は、年中10℃前後の気温を保つ夏場の人気避暑スポットです。冷気発生のしくみを調べるため、風穴内外の気温観測を始めました。佐田町には他にも冷気を発する箇所があるので、今後も調査を進めるとともに、その活用を考えていきたいです。

■赤名湿地性植物群落、八幡湿原の現地視察(生物多様性研究分科会)

☆北広島町の八幡湿原で行われている自然再生事業や飯南町の赤名湿地性植物群落の現地視察を通じて、島根県における生き物や環境の保全を考えてみました。

■江の川に架かる橋梁群(江の川橋梁群調査研究分科会)

☆中国地方最大の一級河川である江の川には、大規模でかつ様々な構造形式の橋が数多く架けられ、全国でも珍しい橋梁群となっています。当分科会ではこの橋梁群の建設経緯や歴史的背景を紐解くとともに、これからの活用方法などを探っていきます。

【個人発表の聞きどころ】

■ 宍道低地帯の地形発達史に関する覚書

☆郷土史誌や古地図変遷図などの誤りを指摘した資料はほとんど見られません。ここでは、佐陀川開削説が捏造資料に基づいていることを示すとともに、宍道低地帯の西側に焦点を絞り、古地図などを基にして推測される疑問点を取り上げ、問題提起します。

■ 出雲建国の国引き神話とかんなび山

☆三瓶山と2つのかんなび山、すなわち仏経山と朝日山は直線で結べます。大山と茶臼山、大船山も同様です。偶然とも思えないこの並びは、出雲国風土記の「国引き神話」に関係しているのではないのでしょうか。

■ 「波路をこえて」 (映画上映)

☆今から400年昔、佐渡金山の大規模開発に働く人々を食料の面から支えるために、石見の国の漁師48人が佐渡島へ渡りました。今も島に生きている石見人の真実を描きます。

【タイムテーブル】

	時間	発表タイトル	備考
分 科 会 発 表	13:05～13:30	1-1. 日貫視察報告 (川本町) 1-2. 津和野町名賀川流域における平成25年7月豪雨災害	防災分科会
	13:30～13:55	2. 千本ダム・大谷ダムならびに忌部浄水場視察報告	水資源・水環境分科会
	13:55～14:20	3. 八雲風穴の研究	島根の地域振興研究分科会
	14:20～14:45	4. 島根の庭園マップ	庭園文化研究分科会
	14:45～15:10	5. 石見のお宝「幻の今福線」	今福線研究分科会
	15:20～15:45	6-1. 自然再生が図られている八幡湿原を視察して 6-2. 赤名湿地性植物群落の自然観察	生物多様性研究分科会
	15:45～16:10	7. 江の川に架かる橋梁群	江の川橋梁群調査研究分科会
	16:10～16:35	8. 東日本大震災から2年半が経過した被災地の現状と課題(東北視察の報告)～津波被災の教訓を島根で生かすには～	東北視察の報告 (青年部)
個 人 発 表	16:35～16:45	9. 宍道低地帯の地形発達史に関する覚書	
	16:45～16:55	10. 出雲建国の国引き神話とかんなび山	
	16:55～17:15	11. 「波路をこえて」 (映画上映)	

防災力の向上や 活性化テーマに

松江

県技術士会が研究発表

県内の技術士が日ご
ろの研究発表を
する県技術士会(林秀樹
会長)の新年例会が18
日、松江市内中原町の
県職員会館であり、会
員約90人が、防災力の
向上や地域活性化をテ
ーマに課題を話し合っ
た。

昨夏に津和野町や江
は、インターネット上

の地図をクリックする
と庭園の写真や、紹介
文を見られるようにし
て、魅力が一目で分か
るようになり、提
案があった。
同会の林会長(62)は
「研究の成果を、会員
それぞれの専門技術の
底上げに役立てて欲し
い」と話した。

マイク

出雲

- 本社報道部
TEL0852(32)3320
- 出雲総局
TEL0853(21)0019
- 雲南支局
TEL0854(42)0062
- 安来支局
TEL0854(22)2069
- 隠岐支局
TEL08512(2)0356

平成26年1月19日(日)
山陰中央新報

防災部会の活動記録（平成 21～26 年度）

児島 秀行

はじめに

防災部会は平成 21 年度に活動を開始しました。当初は日本技術士会中四国支部防災委員会に参加して、近隣県防災協定資料の収集や島根県での防災協定締結に向けてのアンケート調査などを行ってきました。平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災を契機に津波研究会を立ち上げるとともに、土砂災害などについて現地視察等の活動を行っています。活動の詳細は新年例会の研究報告を参照してください。

1.平成 23 年度

東日本大震災の後、林会長からの提案があり日本海側での津波についての研究会を防災部会内で開始しました。近年の日本海側の津波は、昭和 58 年の日本海中部地震や平成 5 年の北海道南西沖地震時に発生していますが、規模は大きくありません。歴史をさかのぼると万寿 3 年（1026 年）益田で地震が発生し、山口県萩市須佐から大田市鳥井町あたりまで津波の被害があったと伝承されています。この万寿津波について文献調査を行い、平成 23 年 8 月 6 日に大田市、平成 23 年 10 月 29 日、30 日に益田市周辺の見学会を行いました。津波伝承が残る地点を中心とした見学でしたが、万福寺では雪舟庭園を見ながら昼食をいただきました。

万寿津波については平安時代に書かれたものではなく、対岸の韓国（高麗王朝）にも記録がないことから 1026 年に発生したとは断定できません。しかし、舟が坂を超えた「舟超坂」、小鯛がはねた「小鯛ヶ迫」、鯨が打ち上げられた「鯨坂」など津波の痕跡を想像できる地名が残っており、地質学的な津波痕跡調査結果が楽しみです。



写真-1 大田市の現地調査



写真-2 益田市万福寺（雪舟庭園）

2.平成 24 年度

日本海側の津波は太平洋側に比べ、その発生数、規模は小さいですが皆無ではありません。平成24年11月6日、7日に津波防災対策の参考とするため、南海地震への対策が緊急の課題となっている高知県への視察を行いました。初日は高知県危機管理部副部長の北川氏から、ハード面、ソフト面の取り組みについて伺いました。島根県では津波タワーなどの防災施設設置は当面見送るとしても「NPO法人こうち防災備えちょき隊」設置などの防災意識を高める取り組みは参考となりました。夜は帯屋町筋の「ひろめ市場」で反省会を行いました。「ひろめ市場」はスーパーマーケットのフードコートのような作りで、お客は札束？を握りしめ、目指す酒、つまみの買い出しに向かいます。当日は金曜日でもあり満席でしたが「塩たたき」「うつぼ」などご当地料理を堪能しました。松江にもこのような市場が欲しいものです。翌日は大雨の中、高知県沿岸の津波被災箇所の現地見学を行いました。



写真-3 高知県の現地調査

3.平成 25 年度

平成25年度は安来市、津和野町、江津市、邑南町他で豪雨災害が発生しました。防災部会では平成25年11月23日に江津市桜江町周辺において昭和47年豪雨災害時の写真撮影位置を訪ね、当時の水位を体感するとともにこのたび豪雨災害を受けた邑南町日貫地区を訪れました。桜江町の西教寺さんでは災害の写真を展示して、小学生や地区の方に災害の恐ろしさを伝えていました。地元のおじいさんは「孫に災害の話をするが信じてもらえない」と話していました。地域で災害を伝承し「天災は忘れたころにやってくる」ではなく、「天災を忘れない」努力の必要性を痛感しました。日貫地区は昭和58年に豪雨災害を受け、日貫川の改良復旧がなされています。自治会長さんのお話では「昭和58年より雨量は多かったが溢れることはなかった」「7月14日に実施した避難訓練が役だった」「自治会で携帯番号を把握しているほか班内の災害弱者のことを把握している」とのことでした。

4.平成 26 年度

平成 26 年 8 月 20 日広島市安佐南区を中心として土石流災害が発生し、74 名の方が亡くなりました。この災害は 3 時間に 150 mm 以上の雨が局所的に降り、近年にない災害となったものです。防災部会では平成 26 年 11 月 15 日に広島市佐伯区河内地区を訪れ、自主防災、自主避難のあり方についてお話を伺いました。当地区は平成 11 年 6 月 29 日の災害で土石流被害を受けており、このたびの 8 月 20 日の豪雨時においては行政からの避難勧告が出る前に自主避難を開始されています。土砂災害について過去の教訓が活かされ、「正しく知り、正しく恐れる」という下記の 3 つの心構えが住民一人一人に浸透している結果と思われます。

一命を守るためには一

- ①過去の災害と居住の地形を知る
- ②危険な情報を知らせる・察知する
- ③安全な場所に避難の行動をとる



写真-4 河内地区ヒアリング状況

5. 東北視察

平成 25 年 9 月 13 日～16 日、青年部会が主催した東北視察に参加しました。夏草が茂る草原をよく見ると家の土台が残っている。ビルは横転し普段目にする事のない基礎面をさらし、波が突き抜け骨組みのみとなっている。橋脚は傾き橋桁は行方不明……。圧倒的な自然の力は営々と築いてきたものを根こそぎ持ち去ってしまいましたが人々はめげずに再建を誓っている（写真-5）。

現在、高台移転や海岸部の嵩上げ、商業施設化などの復興事業が進められています。自然災害をなくすことは出来ないとしても減災をめざした取り組みを応援したいと思います。



写真-5 女川震災復興事業

大川小学校跡を訪ねるとすぐ横に山がありました。1分あれば安全地帯に逃げ込めたのに74人の小学生が犠牲となってしまう、避難指示ができなかった教師の無能さに怒りを覚えました。しかし、帰宅後インターネットで調べてみると小学校は津波避難所に指定されており、津波は来ないと安心していたと思われます。ハザードマップに示された危険地帯の外周部で多くの人が亡くなったことを考えると作成者の責任は重大です。島根県においても津波危険地帯を標高10mとしているハザードマップをみたことがあります。ハザードマップに頼らず「何が起きるのか」を想像できる人を育てるため「防災教育」の必要性を痛感しました。

6. おわりに

平成23年3月11日、私は横浜の南本牧港の現場事務所にいました。大きな揺れを感じ、カーラジオのスイッチをいれると、東北の沖合で地震があり津波警報が発表されていました。あわてて沖合のスパット台船と連絡を取ろうとしましたが、携帯電話が繋がらず焦ったことを覚えています。なんとか沖合と連絡がとれ横浜事務所まで車で帰ったのですが、帰宅ルートは氷川丸の横を走る海岸ルートでした。ようやく帰りついた事務所で、車が流されている東北の津波映像をみて背筋が寒くなりました。その時、太平洋側にいたら行方不明者の1人になっていたかもしれません。災害から身を守るにはその時の判断が重要です。「地震の後は高い所へ避難」と知っていても「津波では車も流される」という知識がなければ、平気で海岸通りを走るようになります。

ある会合で「テレビで『大雨警報が出ているので注意しましょう』と言っているが、どのように注意したら良いかわからない」という意見がありました。自分のいる場所が危険かどうか、今地震が起きたらどうするかなど「判断力」「想像力」を養っておくことが必要です。また、緊急時には携帯電話は使用できないことを頭にいれて行動する必要があります。

地震、津波、火山噴火、水害、土砂災害などの自然災害は日本列島に住む以上避けて通れません。近頃は数十年に一度の降雨が毎年のようにみられます。我々は技術者の一人として、防災、減災を目指した活動を継続しますので、防災部会活動への参加をお願いします。

青年部会の活動

青年部会長 井上 真

1. はじめに

島根県技術士会 30 周年を迎え、青年部会の平成 17 年度～平成 26 年度の 10 年間の活動を振り返ります。青年部会は、新年度 4 月 1 日時点で 45 才以下の会員で構成されており、現在 81 名（平成 26 年 12 月）が青年部員です。

この 10 年間の主な活動は、平成 19 年から毎年開催の松江高専と島根大学との産学交流企画、平成 20 年から毎月定例開催のオモシロ技術塾、他県技術士との交流企画、県外への視察研修、技術士 2 次試験の受験対策講習への講師派遣等です。ここではこの 10 年間のさまざまな交流企画、オモシロ技術塾、視察について述べます。

2. 交流企画

●産学交流

平成 19 年度から始まった島根大学、松江高専との産学交流は、今年度で 8 回目となり青年部の主要行事です。企画検討や大学、高専との調整に多くの時間がかかりますが、交流会終了時には、学生がもつ新しい発想や社会ニーズなどを知ることができ、毎回リフレッシュ感があります。与えられた課題を技術士と学生の協働で解決することにより、学生にとっても、技術士が普段行っている論理的思考(“現状の把握”→“課題・問題点の抽出”→“解決策の提案”→“成果の作成”)を体感できるメリットがあります。会場手配や学生への参加呼びかけに協力いただいている島根大学、松江高専の先生方に感謝するとともに、今後も若手の発想や技術動向を知る機会として継続したいです。



写真 1 平成 25 年度 産学交流会
学生と討論中の様子

中国本部との交流は以前から行われていますが、平成 20 年の全国大会を機に、より活発となりました。平成 21 年度から広島国際交流「ぺあせろべ」へ中国本部と共同で参加し、一般向けに科学や技術のおもしろさを模型等で紹介する

●中国本部交流企画

中国本部との交流は以前から行われていますが、平成 20 年の全国大会を機に、より活発となりました。平成 21 年度から広島国際交流「ぺあせろべ」へ中国本部と共同で参加し、一般向けに科学や技術のおもしろさを模型等で紹介する



写真 2 平成 25 年度 ペーパースタンプ
紙相撲の勝負中

とともに本会の PR も行いました。特に印象に残るのは、平成 22 年度に実施した「色々な形で押し相撲」です。手作り紙相撲から始まり、様々な形の木片を棒で押し合う相撲、最後に大王（河原宏さん）との尻相撲を行い、全て勝ち抜くと島根のおみやげプレゼントというもので、子供たちに大好評でした。なお、ペあせろべは平成 25 年で 30 回目の節目を迎え終了となりました。



写真 3 平成 26 年度 岡山県支部交流
百間川新水門視察

平成 26 年度は岡山県支部との交流により、百間川河口水門と岡山市内街づくりの現地見学を行いました。街路での自転車に対する先進的な安全対策は興味深く、島根の街中でも活かせると感じました。

他県技術士との交流は、各地域の課題や情報を共有できるとともに、他部門の技術士とも話をすることができ、広い視野を持つことができます。

●県立大学交流企画

平成 24 年度から島根県立大学のキャリア支援室と調整し、就職活動支援を通じた社会貢献活動を行っています。本取組みは技術者としてではなく一社会人としての関わりに重点を置いており、社会貢献や見識を深める機会となっています。



図 1 平成 25 年 1 月 31 日 県立大学交流 山陰中央新報に掲載

産学交流、他県技術士交流等の交流企画は表 1 の通りです。

表 1 交流企画の年表

年月		行事名	場所	内容
平成 17 年度	8 月	鳥取県技術士会交流会	松江テルサ、田和山遺跡現場	講演；田中元島根大学教授 報告会；鳥取県松嶋晃生、長嶺元二
平成 18 年度	8 月	鳥取県技術士会交流会	三朝温泉	両県交流会
平成 19 年度	11 月	産学交流会、鳥取県技術士会交流会	松江高専	経験者の体験談、起業事例紹介、学生の研究発表
平成 20 年度	10 月	全国大会前夜祭	ポートピア松江ビル B1	青年技術士による全国大会前夜祭、各支部紹介、余興
	11 月	環境管理修復・地域資源活用セミナー	島根大学	講演；島根大学、松江高専、青年部大嶋辰也
	11 月	中・四国支部勉強会	広島市	中・四国支部で実施の勉強会、パネルディスカッション
平成 21 年度	10 月	広島国際交流べあせろべ	広島市中央公園	中国支部と合同で一般向けに空中写真展示、地温探査実施説明
	11 月	産学交流会「技術的発想力を発揮しよう！」	松江高専	グループ討議、発表
平成 22 年度	10 月	広島国際交流べあせろべ	広島市中央公園	紙相撲作り、色々な形で押し相撲、アーチ橋に挑戦
	11 月	産学交流会「おもしろ発見ツアー2010」	島根大学	バスで目的地へ移動し、一つの町で一つの一歩〇〇を探す。グループ討議、発表
平成 23 年度	10 月	広島国際交流べあせろべ	広島市中央公園	人力発電に挑戦、シャカシャ発電に学ぶ、作って回せ風力発電
	11 月	産学交流会「捨てる？使う？見出す！？」	松江高専	10 年後にあると思われる技術で役立つモノ、現地観察、グループ討議、発表
平成 24 年度	8 月	親子交流企画「川の自然観察会」	松江市八雲町意宇川	水中昆虫の観察会、NPO法人おやこ劇場松江センターと共催
	10 月	広島国際交流べあせろべ	広島市中央公園	プレート境界地震の模型説明、テーブルクロス引き挑戦、研究分科会パネル展示
	11 月	産学交流会「BCPで減災意識を高めよう」	島根大学	BCP構築ワークショップ
	1 月	県立大学交流企画「THE仕事人's Day」	島根県立大学	「働くってどういうこと」話題提供；井上真、片山央之、ワールドカフェ討論会
平成 25 年度	10 月	広島国際交流べあせろべ	広島市中央公園	紙相撲作り、液状化模型説明、隠岐ジオパークと八雲風穴紹介、東北視察紹介
	11 月	産学交流会「じゃじゃえな松江の再開発」	松江高専	ドッジボール、県庁付近が更地と仮定し青年を中心としたまちづくり討議、発表
	1 月	県立大学交流企画「就職活動支援」	島根県立大学	「仕事のつらさとその乗り越え方」について技術士と学生の対談
平成 26 年度	10 月	岡山県支部交流	岡山市	百間川河口水門、街づくり現地見学、ボーリング大会
	11 月	産学交流会	島根県民会館	「外国人に大根島に来てもらうにはどんな製品を開発しPRすればよいか？」 現地観察、グループ討議、発表

3. オモシロ技術塾

毎月定例のオモシロ技術塾は、若手技術者、修習技術者の技術研鑽および交流の場となるとともに、青年部行事の打合せや事務連絡等にも利用され、

青年部活動になくてもならないものとなりました。

その経緯をたどると、きっかけは、中・四国支部青年技術士交流会が行っていた青年技術士と修習技術者の月1回の例会、勉強会です。本会青年部においても平成20年8月から毎月1回第四水曜日を基本として毎月定例で行っています。第1回の技術塾は、島根県市町村振興センタータウンプラザしまね内で、田中隆一さんによる「公共事業への市民参加のあり方」、安藤秀一さんによる「島根県の地質と斜面崩壊」のテーマで行われました。以後、青年部会員、会員以外、修習技術者の方を講師に、毎月開催しています。これまで実施してきた塾のテーマと話題提供者は、本会 facebook(<https://www.facebook.com/peshimane>)に第1回から時系列にまとめられています。

多くの回数を重ねていますが、参加者の減少や固定化が見られるため、26年度は出雲、大田、浜田、益田において出張技術塾を計画するとともに、年間計画を早めに案内し実施しています。

4. 県外視察

県外への視察研修を表2にまとめます。

表2 県外視察一覧表(平成17年度～平成26年度)

年月		行事名	場所	内容
平成 17 年度	10 月	広島県西部山系視察	広島県	砂防現場、温井ダム見学
	H18 4 月	豊岡視察研修	兵庫県豊岡市、出石町	H16 台風 23 号円山川破堤現場見学、出石町並み散策
平成 19 年度	H20 4 月	広島視察研修	広島市、呉市	新広島市民球場建築現場視察、呉市海事歴史科学館見学
平成 25 年度	9 月	東北視察研修	宮城県～岩手県沿岸	東日本大震災の現状を把握

平成25年度は、本会含めて10名で宮城県から岩手県沿岸部を視察しました。視察3日目の石巻市視察中に台風18号の影響で移動中の車が冠水し、地盤沈下の影響を実体験しました。津波の猛威や被害など知らなかったこと



写真4 平成22年度 オモシロ技術塾
八雲町意宇川で開催



写真5 平成26年度 オモシロ技術塾
浜田で開催

を自分の目で確かめ、知ることができ、改めて地震列島に住む覚悟、備えの大切さを感じました。

現地視察は、現地でしか感じることができない風景、匂い、音、現地の人々の様子等を体感することができます。また、視察では、予想外のことが起きたり、誰かに出会ったり、参加した技術士の色々な見方や考え等に接することができます。

若手技術士とベテラン技術士の交流機会、知らないことを知る自己研鑽の機会でもある視察研修は、今後も計画していきたいです。



写真 6 陸前高田奇跡の一本松

5. おわりに

青年部会は、島根大学、松江高専、島根県立大学との産学交流、中国本部青年技術士交流委員会をはじめとする他県技術士との交流を行ってきました。

交流活動は、技術士やこれから社会に出る学生と接することで、いろいろな見解や自分の知らない技術、専門分野の技術動向を知り、自分の視野を広げて自己研鑽できるよい機会です。多くの技術士と面識をもつことで日常の業務を円滑に進めることができたり、困りごとを相談できることもあります。



写真 7 平成 25 年度 東北視察
石巻市内の内水氾濫 車内から撮影(9/15)

今後の交流活動の展望は、平成 27 年度に中国 5 県の青年技術士が集う(仮称)青年技術士中国大会が計画されています。これは、3 年後に中国地方で開催予定の技術士全国大会に向けて、中国 5 県の青年技術士の交流を深め協力しようというものです。平成 18 年度の技術士全国大会島根大会前夜祭では、当時の大坂理会長と青年部理事により中・四国支部青年技術士交流会と綿密な調整がなされ、多くの青年部員の協力により大成功を成し遂げられました。今後の(仮称)青年技術士中国大会、全国大会においても青年部会員、本会会員の積極的な参加、協力をお願いします。

個人ではなく ” 技術士会 ” だからできることがあります。

今、できること、青年だからできること、各方面の技術士仲間がいるからできること、やり残して後悔しないようどんどん新しい企画を考え、実行し、本会の活性化の促進に寄与することが青年部会の役割です。

以 上

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
①	大嶋	田中	中谷	細澤	堀尾	玉木	高橋	片山	境	582
②	松本	横山	森保	高木	合田	澤谷	中田	多田	龜田	582
③	井詰	江島	中川	高田	倉野	不元	尾土井	本間	幸今	582
④	吉中	橋尾	森本	井	日向	佐野	松浦	矢木	小豆	582
⑤	伊賀	大正	白崎	青木	天神	伊藤	天神	白崎	大正	582
⑥	渡辺	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	582
⑦	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	582
⑧	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	582
⑨	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	582
⑩	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	582

写真 8 平成 22 年度 産学交流
おもしろ発見ツアー行き先とお題



写真 9 平成 22 年度 ペあせろベ
参加者集合写真



写真 10 平成 23 年度 ペあせろベ
参加者集合写真



写真 11 平成 24 年度 ペあせろベ
参加者集合写真



写真 12 平成 25 年度 ペあせろベ
参加者集合写真



写真 13 平成 24 年度 県立大学交流企画



写真 14 平成 25 年度 東北視察
石巻市日和山公園



写真 15 平成 25 年度 東北視察
気仙沼市

第 35 回技術士全国大会を振り返って

名誉理事 渡部 修

1. はじめに

私が、島根県技術士会会長を引き受けたのは、小豆澤前会長の後を引き受けた平成 17～22 年度の 3 期 6 年間でありました。思えば、私が技術士本試験に合格したのが、今から 35 年前(昭和 54 年)の 31 歳でありました。松江高専の一期生として在学中に多田先生(県庁 0B, 建設部門で港湾・空港の技術士)及び陶山襄先生(県庁 0B, 山陰開発コンサルタント社長、建設部門で道路の技術士)から技術士の資格があることを聞いていたので、卒業後は必ず技術士を受験することを決めていました。その結果、めでたく 31 歳で初めての受験で合格できました。現在では試験を受験する年数より、合格後の年数の方が長くなってしまいました。合格当時の島根県内の技術士は、先ほどの陶山、多田両氏、楫野(機械)、それに島根大学の三浦(応用理学)の各氏、そして現在も社長さんとして君臨されている藤井三千勇氏(建設)で、それに続く若輩者の渡部の 6 人だったことを覚えています。(坂田名誉理事は、途中から入会)

それから約 30 年以上、島根県技術士会の前身である「島根県技術士懇話会」そして「島根県技術士会」の立ち上げ等に参画でき、このたび名誉ある表彰をしていただき、改めて、技術士になって本当に良かったと思うこの頃です。この間、会員の皆様方には、何かとご迷惑をかけたと思いますし、またご指導を賜ったことをこの場を借りて厚く御礼申しあげます。

この 35 年間を振り返ってみますと、平成 8 年の松江市での「第 26 回日韓技術士会議」の開催、そして平成 20 年の「第 35 回技術士全国大会」の開催など、技術士に関する全国レベルの会議を担当できたことを大変嬉しく思います。

今回、事務局から「渡部名誉理事においては『全国大会開催の苦労話』を中心に書いていただきたい」との要望を受け、当時の記録と記憶を思い出しながら、ここに書かせていただきました。

2. 会長引き受けと技術士全国大会の島根招致

島根がなぜ技術士全国大会を引き受けたかという経緯を述べると、大会 3 年前の平成 17 年頃、当時の日本技術士会中四国支部副支部長の坂田さん(故人)が、「3 年先の全国大会は持ち回りなので、今度は中四国支部が当番である。過去に四国では高松、中国では広島と岡山が引き受けた。順番からして島根か鳥取県。すでに日韓会議で実績のある島根が受けざるを得ない。」とのこと。その時、私は副会長の身。しかも、当時の小豆澤会長さんは岡山への単身赴任である。小豆澤さんには 1 期限りで渋々会長を引き受けていただいた経緯から、私も固辞しながら、最後に私がやむを得ず会長を引き受けることにしました。

(問題点 1：日本技術士会と任意の島根県技術士会との関係が大問題となった。)

平成 20 年頃の島根県技術士会の会員は 220 人余り。そのうち日本技術士会会員は 50 人余りである。ある複数のベテラン会員から「島根県技術士会の会員がなぜ未入会の日本技術士会のイベントに参加、協力せねばならないかよく理解できない。」(実を言うと平成 8 年の日韓技術士会会議では会員、非会員関係なしで全面協力いただいたのに関わらず)



写真- 1 三次市内での打ち合せ

さあ大変。内部不統一である。(どこかの政党に似ている?) そこで、その対策委員はクレームをつけた方の元上司である井上副会長さんに対応をお願いし、井上さんには再々その方の事務所まで説得に行っていていただき、協力を取り付けたことを覚えています。

平成 20 年秋の大会まで行った中四国支部との準備会議はあわせて

36 回(これ以外にも島根県技術士会単独の準備会議が多数あり)に及び、広島、松江そして両都市の中間地点である広島県三次市でも行いました。

決定を受けて、松原副会長さん提案で、市内嫁島町の(株)ウエスコ島根支社の会議室を利用し、井上、松原両副会長及び寺田事務局長そして渡部の 4 人で月一回の定例連絡会議を設けることにした。(寺田さんにも大変お世話になりました。彼は当時(株)復建調査設計に勤務されておられ、会社の大変なご理解により、定年を全国大会終了後まで延長していただいた。)

(問題点 2：会長は公務員の身。会長は務まるのか。

大会は成功しかありえない。そこで松江市役所の早期退職を決意)

さて、会長及び実行委員長を引き受けたものの、所詮管理職の公務員の身。通常業務以外に下水道の工事、維持管理等の危機管理を引き受けている。そこで家族と相談し、定年まであと一年あるものの、実行委員長が公務員で何かあってはならないので、早期退職を決意した。(島根大会は会長(実行委員長)が全国大会を引き受けるために、当時、わざわざ一年早く退職し、準備にあたったという強い決意が各県で評判となったことを覚えている)

勤務中の合間を縫って、東京大会の実施マニュアルを見本に島根大会バージョンを作成し、本番に備えた。(いつも松原副会長がこのことを指摘。「当時の渡部さんは仕事をせずに、技術士全国大会の準備に没頭」笑い!!)

3. 実行委員会の発足と大会テーマ、大会内容、基調講演等の骨格の決定

一応、島根開催の決定までこぎつけた。さあ、これからは中身の決定である。

(1) 実行委員会の発足

大会の日程は、全国から技術士を集めるためと来賓が出やすい週末に開催するのがならわしとなっている。そこで平成 20 年 10 月 18 日(土)を大会日とし、会場確保を進めた。しかし島根県技術士会単独で事を進めるわけにはいかない。あくまで日本技術士会中国本部が受諾したイベントである。島根が決めた案を日本技術士会中四国支部での幹事会で協議、了解、報告等が発生する。中四国支部との協議のため、井上さんと広島まで雪の国道 54 号を何往復したことか。重要な問題の早期決定のため、日本技術士会中四国支部と島根県技術士会との合同実行委員会を発足させた。また各県技術士会にも参加動員は勿論、当日の受付等を含めた動員体制を早めに人選し、対応していただいた。また島根では土江理事をトップとする編集委員会は役割が地味ながら翌年 5 月までかかって報告書を作成していただいたことに感謝申し上げます。(報告書配布をもって実行委員会は解散した。)

(2) 大会テーマの決定

島根らしい大会テーマはどういう言葉にしようか、また議論が始まった。大会開催は例年 10 月。全国的には「神無月」であるが、島根は「神在月」である。一方、当時、島根県技術士会が「石見銀山の世界遺産」登録に向けて支援の真最中である。であるならば、島根大会のコンセプトは「神話の國」の熟語を使うべきとなった。この難しい「國」の漢字を使うアイデアは土江理事の発案であった。彼は出雲風土記を読むことが趣味とのこと。そのあたりからの発想である。そこで大会テーマは「**神話の國で語る未来技術の創造**」と決定した。

次にサブテーマである。

大会を所管する中四国支部の 9 県は中山間地が多く、若年労働者の人口流出が激しい。どこの県でも過疎・高齢化に大変悩んでいる。山陰、四国の太平洋側は勿論、過去栄えた瀬戸内地帯も新産業都市、コンビナートの集中以降、産業の空洞化により人口減少が進んでいる。(最近では、「里山資本主義」という言葉が生まれ、再生の取り組みが進行しつつある。)いずれにしても中四国地方は地域再生が緊急の課題となっている。(平成 27 年現在もこの問題は何らも解決されていない。政府は子育て支援を中心として、地域再生を最優先課題としているが) 一方では環境問題は地球規模から早急に改善せねばならない課題である。

我々技術士は全ての面において環境問題を議論せずに、業務は出来ない。まして、島根県においては宍道湖・中海を中心とする自然環境、世界遺産登録を目指す石見銀山も環境面の視点からも登録を目指そうとしている。島根県技術士会もこの問題に取り組むため、私の発案で島根、鳥取、岡山、香川、高知の 5 県で「日本海・瀬戸内・太平洋縦断技術士会議」を設け、議論を展開してきた。そういう背景からサブテーマは「**環境と地域再生のメッセージ**」となった。

(3) 大会会場の確保

さあ、次は大会会場の確保である。平成8年の日韓会議では会議場はくにびきメッセを使用し、懇親会はホテル一畑を利用した。その時に大変苦い思い出がある。韓国側は日本人のように時間にシビアではなく、結果は会議が30分以上延長され、懇親会開始が大幅にずれた経験がある。

今回は昼夜の会議はどこにしようか。実行委員会で協議の結果、過去の実例からグレードを合わせることに、宿泊と会議がセット可能な、穴道湖の景観の素晴らしい松江温泉のホテル一畑とした。ただ分科会用の会議室が少なく、隣接のホテル白鳥を借りることとした。しかし、ホテル白鳥は共済施設であり、2年前からの事前予約は不可能であった。(予約は半年前から可能であるが、しかも結婚式優先)そこで、やむを得ず、大会半年前の日の朝一番にホテル白鳥のフロントに予約のお願いに行ったことを覚えている。(これで会場が最終確定できた。)

(4) 基調講演者の決定

基調講演者の人選は、大会テーマに相応しい方をお願いせねばならない。中四国支部が引き受けるから、広く中四国全体に講演者を探してもよいかもしれない。結局、地元の要望を中四国支部に聞いていただき、島根から選ばせていただくことにした。であるならば島根から誰をお願いしようか。「神の国」であるから歴史家の藤岡大拙氏が適任となった。しかし、歴史は開催県以外の方は関心を持って聞いていただけないかもしれない。ここは昨今、新聞によく紹介されている「たたら製鉄の村下」である奥出雲町在住の木原明氏が一番相応しいのではとの意見が出た。そうだ、我々は技術士である。技術の伝承に大変苦勞された木原氏からは是非とも苦勞話を聞こうじゃないかとなった。早速、奥出雲町に出かけお願いしたところ、快く引き受けていただいた。たしか大会まで都合6回くらい事前打ち合わせに奥出雲町の工場に訪問したことを覚えている。



写真-2 講演される木原氏



写真-3 講演中の会場風景

木原氏は「先般は、トヨタ自動車の社内技術士会の研修会に招かれ、東京まで行き、講演して帰りました。」と申され、また、親会社の日立金属安来工場に

は多数の技術士がおいでになることもあり、大変技術士の資格に理解を示された。本人は山口県宇部市のご出身であり、長らく安来市の(株)日立金属安来工場に勤務され、退職後、(公財)日本美術刀剣保存協会の職員として、日本で唯一、奥出雲町で玉鋼の製造を指揮されている。木原氏は横田町に居を構えられていて、朝夕は体力保持のため上半身裸でジョギングするのが日課であるという。木原氏を工場に訪問するたびに昨今話題を聞くことが出来た。例えばアリスのメンバーが工場を見学に来たとか、もっと平成26年の現実の話題となれば、今から紹介する話はもっとリアルの話である。昨年10月高円宮典子様が出雲大社に嫁がれたが、今から7年位前に木原氏を訪ねたとき、木原氏曰く。「先般、高円宮様妃殿下が次女典子様を伴ってこの工場を訪問されました。毎年のように島根においでになっています。特にたたら火入れの時です。宮内庁や島根県に内緒のようで」。なるほど、7年前くらいから出雲大社千家家と高円宮家とは交流が始まり、今回のご結婚に至ったのかと納得がいく。

余談はさておき、木原氏との綿密な打ち合わせが進み、大会直前には素晴らしい講演用のパワーポイントが松原副会長指揮のもとに完成した。



写真-4 演奏中の樋野氏

(5) アトラクションの決定

せっかく、島根に多数の技術士をお迎えするわけであるから、基調講演の前にアトラクションを入れたらどうだろう。こういう話が持ち上がった。今から約20年位前、日本技術士会中四国支部山陰例会のイベントで当時の斐川町の神氷在住の笛作家である樋野達夫さんの自宅で素晴らしい演奏を聞いたことが

ある。

参加者には神の国島根の余韻に浸って頂き、木原氏の記念講演にうまくつながるよう、樋野さんには演奏をお願いした。(全国大会開催1年前にも例会で、一度演奏していただいた)バックのパワーポイントの風景写真は山村会員にお願いした。山村会員は島根県技術士会会員の中で最高のカメラ技術をお持ちであり、個展を松江市内でしばしば開催されている。山村氏は全国大会のため、斐伊川の風景写真を旅伏山山頂や斐伊川土手などに出かけられ、パワーポイント作成にご協力いただいた。

(6) 福井大会での事前PR

さて、島根県は全国的に知名度の低い県と言われる。(現在は、出雲大社の遷宮などがあり、多少知名度がアップしたが)

こんな交通不便な、知名度の低い島根県に他県なみの参加者が集まるだろうか？ はなはだ疑問である。さあ、そうならば、なるべく沢山の島根県会員が

前年開催地の福井に押しかけ、大キャンペーンをやろうではないかと相成った。結局、島根から福井の全国大会に向かったメンバーは12人。

あとは大会当日PRに何を出そうか。渡部は島根といえば「安来節のどじょうすくい」を出さないとまずいだろう。一方、松原副会長の地元は石見だから「石見神楽の踊り」を出すことになった。(島根東西の出し物で)

さあ、事前練習である。安来市の安来節会館で「どじょうすくいグッズ」を購入し、毎朝6時に起床し、家内に内緒で3ヶ月間練習した。松原さん担当の石見神楽のお面と私が担当の安来節どじょうすくいグッズを私のワンボックス・カーに載せ、「(仮称)島根県技術士会芸能社中」一行が6時間かけ、福井市に到着した。

早速、会場の一角に島根大会のPRポスター2枚を貼る。参加者が島根のポスターに足をとめてくれる。(鐘築会員のご厚意により素晴らしいポスターが2種類完成した。しかも大変な安価な金額で作成していただいた。)

福井大会の懇親会のアトラクションは、地元音楽バンドであった。懇親会が終了する直前には、どの大会でも必ず次期開催地のPRがある。いよいよ練習の成果を大勢の前で披露せねばならない。松原さんと控室でお酒をひっかける。県庁から借りた島根紹介ビデオ終了の後、いよいよ松原さんが出演、どうやら会場から喝さいの声が聞こえる。次は私のどじょうすくい。自宅での練習の成果を何とか披露。中四国支部の紹介アナウンスが最後に「今踊った人は島根県の松江市役所の職員である。」(場内大笑い。芸は身を助ける)懇親会終了後、直ちに次期開催地PR団の松原さんと私がヒーローとなり、参加者全員と我々2人が記念撮影のモデルとなってしまった。(例年なら、現在開催地の出演者がヒーローとなるはずが)

この反響なら、来年の島根は福井大会以上に参加者があるかもしれないとの淡い期待を胸にキャンペーン団は松江への家路を急いだ。

4. 事務局の開設

他県では全国大会の案内が月刊技術士で紹介されると、参加者からの問い合わせに対応するため、事務局を大会当日まで開設し、常時会員が詰めている。残念ながら、島根県技術士会の事務局は事務局長の勤務する会社があり、常設の部屋は持っていなかった。そこであれこれ考えた挙句、井上副会長が島根県土地改良連合会の車庫2階が空いているとの情報を持ってこられた。島根県土地改良連合会といえば、大畑名誉理事が長らく専務理事をお勤めになっておいでになる組織である。大畑さんを通じて早速土地改良連合会の幹部にあたっていただき、良い感触を得た。

しかし、現在、希望した車庫2階はエアコンが故障しているとのこと。技術士会で負担をしていただければ将来にわたってお貸ししてもよいとの返事。さらに、とりあえず大会までは本館3階の会議室をお貸ししましょう。確か7月

の夏休みの頃だったと思います。専用電話を設置して、事務所開きを中四国支部と島根県技術士会理事が合同で行った。さて、肝心の事務局員は誰にお願いしようか。それなら土地改良連合会は農業系なので四方田、井上、佐川、古川さんなどの農業、森林の技術士の方、さらに私の家内も動員に加わり、真夏の暑い時期であったが、事務局を担当していただいた。

大会終了後、車庫 2 階の整理、エアコンの修理が完了し、現在の島根県技術士会の事務局が開設できた。今までは理事会を開く場所としては藤井基礎設計事務所のサロン、大橋川コミュニティセンター、ホテル穴道湖、松江テルサなど、駐車場不足や会議室使用料など不便なジプシー生活であったが、やっと一人前の主人となることが出来た。島根県技術士会会員はあらためて、島根県土地改良連合会や大畑名誉理事には大変ご理解を得て現在の事務局があることを分かってほしい。

5. 予想以上の参加申し込みで感激

さあ、東京の本部からの交付金は年々減少し、250 万円しか出ないとのこと。実行予算を集計すると 1,700 万円程度見積られる。その差額分は中四国支部の内部留保金、その他寄付金から集めねばならない。他県の大会では不足分を実行委員会の幹事が応分の負担をしたとか。何とか福井大会の実績 473 人以上参加者がないと島根も同様な目にあってしまう。毎月のごとく、シミュレーションを行って中四国支部に報告した覚えがある。

大会概要は例年、月刊技術士 7 月号で紹介されるが島根大会は 7 月号が他の記事の都合で、8 月号に後送りとなった。益々あせる。大会も開催まで残り 1 ヶ月となった。少しずつ申し込みがあり、毎日の状況を旅行代理店に問い合わせる。まずまずの動きである。そのうちに寺田事務局長より「渡部会長、すごいですよ。もう少しで福井大会を越しますよ。」とうとう、福井大会を越すのか。一安心。「多分、石見銀山の世界遺産登録が実現できたことが大きなインパクトになったのでしょう」とだれもが言ってくれる。感激である。

6. 大会当日

(1) 松江フォーゲル・パークでの前夜祭の開催

さあいよいよ本番である。大会前日の 10 月 18 日（金）は関連行事もある。（全国防災連絡会議、技術者倫理発表会議、機械部会、電気部会など）どの部屋を覗いても真剣である。

さあ、前夜祭に向けて、貸切バス 5 台が集合場所のホテル一畑から会場となる松江フォーゲル・パークに向けて出発である。

何と素晴らしい穴道湖の夕焼けではないか。穴道湖の神秘的な夕焼けに、参加者は感動に浸っている。（ありがとう、出雲の神様）

会場に到着。到着一番、フォーゲル・パークの大温室に 280 人を越す参加者

はびっくり。(今でも前夜祭の素晴らしさを言う人がいる。)

正面レストランは参加者で満席。司会は松崎氏。彼の美声とマスクは評判であり、さすがあがりはしない。会場添えつけのピアノに合わせ、市民合唱団の合唱。「千の風になって」の歌が流れると、涙を流す人もいる。

送迎バスはホテル一畑で解散となり、宿泊施設まで夜の松江の街をそぞろ歩きする人もいる。丁度、どう行列の練習中の町内会もあり、技術士の人も酔い加減で練習に参加したとか。

その後、青年部は市内駅通りの地下ホールで、青年部の前夜祭に参加した。総合司会は橋尾氏。中々レンタルのコスチュームがよく似合っている。そのうち寸劇が始まった。地元島根のだし物は出雲弁。内容は「5mのトラロープと出雲弁の“ごめた”(全部という意味)とを発音が近いので取り間違えた」ものである。参加者も大笑い。若い彼らは午前三時ごろまで市内で飲んでいたという。

私は、その晩は自宅に帰らず、諸準備の為、ホテル一畑に宿泊した。

(2)大会当日

宍道湖の素晴らしい夕焼けが連日続き、前日の前夜祭、大会当日の午前中の各分科会そして記念式典、そして樋野さんの笛の演奏、若干遅れながら木原氏の基調講演と順調に続く。さあ、残りは懇親会である。

大会前の打ち合わせで、交流パーティーの参加者が約 350 人となり、1 テーブル 10 人としても 35 テーブルの着席式パーティーを考えた。スタッフの中から、これほどの参加者を受付で席指定すると混乱を招くので、来賓及び日本技術士会役員までを指定席として残りは「交流の意味から自由席とする」提案があり、それで行こうとなった。さあ受付開始。そうしたら、ある日本技術士会理事の奥様 2 人が自分の席が無いとスタッフにクレームを付け始める。ご主人の隣に絶対座りたいと聞かない。知らない男性の隣はいやだ。わがままな奥様方である。過去何回か全国大会の交流パーティーに参加した経験があるが、このような話しは聞いたことがない。結局、2 人は私の家内と誰かに譲ってもらって、旦那の隣の自席が確保でき、何とか折り合いがついた。しかし、2 人は始まってからもまだまだぶつぶつ言っておられる。そこで私は 2 人のご主人である理事に説明にいき、お断りをする。

(問題点 3：わがままな日本技術士会理事の奥様たち、プライド先行型)

観光島根がこのようなクレームを付けられて印象を悪くしてもいけないから、大会終了後、「お詫びのしるし」を何とかしなくてはと考え、お詫びの文章を添付して島根の特産物を 2 人に送ることにした。さあ、島根の特産物は何にしようかと考えたあげく、長岡屋茂助の「あご野焼」とした。「顎が落ちるほどおいしい松江の土産」と書いて。

さて、交流パーティーは長い島根大学の学長さんの挨拶が気になる。フィニッシュはやはり石見神楽。元々長い時間を短縮して公演願った(次の開催地の仙台大会に参加したとき、仙台の人が私に言った言葉。「島根大会の石見神楽は長

かったので、今度は短くしました。」と言われた。) そうはいうものの、やはりホテルの会場いっぱいに白煙が舞う演技は迫力がある。

交流パーティーで次期開催地の東北支部が島根大会を視察して指摘したこと

- ・ 食事の量が少なかった。⇒島根は予算上、故意に前もって数を減らした。
- ・ 出し物(石見神楽) は長すぎた。⇒東北支部(仙台大会)は駆け出しの人が津軽三味線を演奏。東北もけちる。



写真- 5 交流パーティーの様子

懇親会も次期開催地の PR も終わり、何とか終了となった。最後に主催者である中四国支部幹部と島根県幹部がロビーに立ち、参加者にお礼を申し上げ、大筋が完了した。

(思えば長い3年の準備期間。)

誰もが全国大会のために会社の業務を捨てて、よくやってくれた。お疲れさまでした。

(3) エクスカーション

どの開催地でも①レディース・コース、大会終了後の②日帰りコース③宿泊コースなどに分けられる。ここ島根では観光地には大変恵まれている。これらの主要観光地を結んで日程を作成した。まず①レディース・コースは松江市周辺でどの観光地でも問題はない。次に②及び③であるが、出雲大社方面と事前の予想では実現不可能と言われた石見銀山の世界遺産登録が大会案内直前に登録が実現し、ツアーに組み入れることとなった。担当理事及び中四国支部幹部による合同事前視察を数回実施、さらに地元ボランティアとの打ち合わせなど詳細の詰めが行われた。

(4) 大会実績

ヒヤヒヤの大会開催1ヶ月前でしたが、大会直前3日前には福井大会に負けないような申し込みがあり、一安心。一地方都市でも全国レベルの大会が開催できるとの自信が生まれた。以下に福井大会と島根大会との参加人数の比較を示す。

成功の理由として

- ・ 山陰地方をあまり訪ねたことがない。この際訪問してみようという参加者が結構いた。
- ・ 石見銀山の世界遺産登録が6月にあり、その登録が好影響となった。

- ・開催県である島根県技術士会会員の参加費負担を無くしたため参加者が大幅に増加となった。(島根県技術士会会員151人が参加)
- ・福井大会出席者及び中四国支部会員への参加勧誘メール戦術などが功を奏したと考えている。

表-1 福井大会と島根大会との各参加者比較

内 容		福井大会	島根大会	備 考
ウエルカムパーティー		248 人	268 人	来賓は別途
講演会		473 人	575 人	来賓は別途
大会式典		473 人	517 人	来賓は別途
交流パーティー		258 人	338 人	来賓は別途
エクスカーション	歓迎ゴルフ	15 人	14 人	
	レディースコース	17 人	30 人	
	日帰りコース	69 人	66 人	
	宿泊コース	15 人	27 人	

最後に、決算報告であるが、寺田事務局長に素晴らしい会計処理をしていただき、赤字とならないぎりぎりの決算が完了できた。参加申し込み者の旅行代理店との協議、協賛業者の受付、ホテルをはじめとする各種支払など、全く業務を捨てて全国大会に専念していただき、改めてここにお礼を申し上げます。また、私が地元松江市と協議して全国大会レベルでの補助金 20 万円を助成していただいたことも黒字会計に貢献できたと思う。

7. 開催してよかったこと

大会はエクスカーション(レディース、三瓶、石見銀山方面)を含めて何とか無事終了した。JR 松江駅で参加者を送った途端、急に虚脱感を感じた。さあ明日から何をしようか。急に目標が無くなってしまった。これ位ならコンベンション会社くらい起業出来そうだ。

準備から約 3 年、色々紆余曲折もありました。改めて誰もよくやってくれた。ありがとう。

総事業費 1,700 万円を越すイベントの総予算は、島根県周辺で開かれる全国大会レベルの会議では恐らく最高予算であろう。来年以降、予算は縮小の傾向と聞く。ざっとまとめると

① 会員全員参加による大会成功 ⇒ 総合力の結集

当時の島根県技術士会会員 220 人中、151 人の参加を得、その殆どの会員に何らかの形で裏方を務めていただいた。どの組織でも同じである、いわゆる「総合力」を発揮すれば、なんらかの形で、実を結ぶ。島根県技術士会も 5 年に一度くらい、会の活性化のため大規模な会を招致すべき。そのことによって会員相互の連携が産まれる。

② 全国の技術士と交流が出来た。

③ 青年部会を中心としたネットワークが出来た。

④ 島根を知っていただく絶好のチャンスとなった。

大会中は絶好の秋日和が成功を後押しした。一昨年からの一連の出雲大社遷宮前後であれば、もっともっと参加者が増えていたと思われる。しかし一方、宿泊施設は満員の可能性が高く、開催不可能になった可能性もある。

8. 最後に

(1) 坂田名誉理事に哀悼の意を

「30 周年記念誌には是非とも、渡部名誉理事に『第 35 回技術士全国大会』の苦労話を書いてもらいたい」との依頼が担当幹事からあり、もう開催から 7 年が経過し、記憶から薄れつつある昨今、記念集や当時の報告データを保管していたので、思い出しながら書いた次第です。亡くなられた坂田元副会長さんが「是非とも島根で」という思いと、「次期会長を渡部が引き受けろ」という言葉をいただき、いざ受けたからには成功しなければ意味がないとの思いで全力投球した次第です。坂田氏は大会前に病に倒れられ入院されることになりました。

大会終了後、病院まで大会成功の報告に行ったことを覚えています。病院では坂田氏は私の名前が判らなく、ただ天井を向いて寝ておられました。元気であれば坂田氏は飛び入りでフルート演奏も出来たでしょう。残念ながら 3 年前に他界されました。ここに改めてご冥福をお祈りいたします。

(2) (公社)日本技術士会と島根県技術士会との関係

現在、(公社)日本技術士会中国本部副本部長を務め 6 年が終わろうとしています。現在、(公社)日本技術士会では全国的に各県支部を設置する動きが加速しています。平成 26 年末では全国都道府県の約 6 割で支部が設置されています。中国地方ではご承知のように岡山県技術士会が解散し、(公社)日本技術士会中国本部岡山県支部が設立されました。

また、広島県技術士センターは昨年夏に解散しました。(規則上、本部がある府県は今後、支部設置は不可能) 鳥取、山口両県でも任意の現在の各県技術士会を解散し、(公社)日本技術士会の支部設立の検討が進んでいます。ただ、ご承知のように日本技術士会の年会費は 2 万円、島根県技術士会会費は 7 千円であり、かなりの差額となっています。現在、島根県技術士会会員で日本技術士

会会員は 72 人(平成 26 年春現在)となっていて、毎年増加の傾向にあります。

ただ、中国本部の統一事項として、各県支部を設置するためには、現在の任意の各県技術士会を解散することになっています。島根県技術士会会員の一部の方にも、島根県技術士会を解散し、日本技術士会の支部を設置すべきとの意見もあることを承知しております。

私は両方の立場から、意見が言いにくいのですが、どちらにもメリット、デメリットがあると思います。各県技術士会は島根が代表するように、きめ細かい地域の動向を把握できることに対し、中国本部はマクロの立場で議論が出来る利点がありますが、山陽側の会員が運営をリードしていて交通の不便な山陰側は出にくいデメリットがあります。さらには日韓会議やこのような全国大会、西日本レベルの会議は参加者の確保、会議の運営などを各県技術士会に応援をお願いするなど、不可解な面もあります。一方、所詮、島根県技術士会は名前からして島根から出ていけない状況です。このことについて、今後皆様方の積極的なご議論を期待したいところです。

(3) 青年部会の活躍

島根県技術士会青年部会はもともと、島根県技術士会の「マグマ」として常日頃坂田名誉理事が申されておられました。松江での全国大会で青年技術士の将来ビジョンを提言した「松江宣言」が採択され、それを機会に広島、岡山の日本技術士会中国本部の青年部との交流は勿論、毎年のように全国大会開催地に出かけ、全国の青年技術士と交流が継続していて、誠に喜ばしい限りです。今後ともマグマが冷えぬよう活躍をお祈りします。

(4) 島根県技術士会の将来ビジョン

さて、島根県技術士会の将来ビジョンはどうでしょうか。現在、300 人を超える会員数はやや肥大化傾向にあり、会員の顔が見えにくくなりました。今、全国的に少子化、高齢化の問題が深刻となりつつあり、とりわけこの問題は島根がその先頭を走っています。パイが縮小傾向にある中、島根県技術士会はどう動くのか、真価が問われます。会員数が 300 人を超えたにかかわらず、総会及び新年例会は概ね 100 人前後。(以前は参加率 5 割をぎりぎり保っていました)近年は参加率が減少傾向にあります。それと会員の出入りが激しくなったことが気になります。(人事異動はやむをえないが) さらに、他の団体どこでもありますが、イベントの参加者が固定していることがあります。そこで 30 周年を機会に、次の 10 年後の島根県技術士会の将来ビジョンを策定することを提案します。(会員の高齢化がますます進む)

最後に私事ですが、一昨年 65 歳を通過し、人生で初めて 2 度にわたる入院を経験しました。現在、退院後約 1 年余りの状態ですが、徐々に体力が回復しつつあり(ただしアルコールはかなり卒業に近い状態)、行動力と渡部節もほぼ復活したと思っています。会員の皆様には私の経験ですが、定期健康診断を必ず

年 1 回は受診されますようお願い致します。今後も微力ながら島根県技術士会と(公社)日本技術士会の両方のお世話を継続しながら、生涯技術士を目指したいと思います。

さて、毎年発行される会員名簿の表紙に「島根をサポートする島根県技術士会」とタイトルがありますが、現在の島根県がおかれている環境は先ほど述べましたように、極めて厳しいものがあります。会員諸兄の益々の活性化を期待します。本日はまことにありがとうございます。(平成26年12月24日作成)



ウェルカムパーティー



受付状況



式典会場



第 2 分科会（ホテル白鳥）



交流パーティー



テ クニカルツアー（石見銀山）

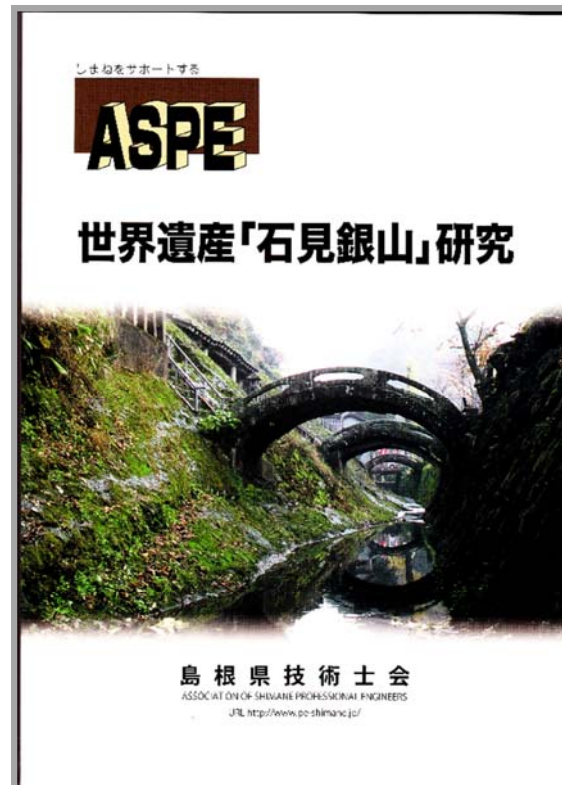
世界遺産「石見銀山」研究

林 秀 樹

1. 主要研究テーマ「石見銀山遺跡」

石見銀山遺跡は、島根の宝であり、これまでもこれからも島根県技術士会の主要な研究テーマであると思っている。

島根県技術士会には、金属、応用理学、建設、上下水道、環境等の様々な部門の会員が所属している。銀鉱石の探索、銀の精錬、坑道の掘削、飲み水の供給や汚水の処理、燃料の確保、輸送運搬路の整備、落石等の斜面对策、港湾整備、まちづくり等、石見銀山を取り巻く課題や懸案は、技術者として興味は尽きない。世界遺産に登録された今でも、石見銀山は、技術士としての興味を持ち続けられる魅力的なところである。



2. 世界遺産登録

石見銀山遺跡は、平成 12（2000）年 11 月に国の文化財保護審議会で「平泉-浄土思想に関連する文化遺産」と「紀伊山地の霊場と参詣道」とともに世界遺産暫定リストに登録された。

その頃の石見銀山遺跡を概観してみると、銀を生産していた時には、何十万の人々が暮らしていたといわれる大森町や銀の積み出し港として賑わっていた温泉津町は、少しの観光客はあったが、眠るように静かなところとなっていた。

暫定リストに登録されてからは、石見銀山遺跡への来訪者の数も少しずつ増え、世界遺産への登録の期待が高まっていった。

平成 12（2000）年に暫定リストに登録された世界遺産候補の内、「紀伊山地の霊場と参詣道」は、4 年後の平成 16（2004）年 7 月に世界遺産登録がなかった。

しかし、平泉と石見銀山は、世界遺産登録の要件の証明などに手間取り、登録が遅れた。

漸く、平成 18(2006)年 1 月にユネスコに推薦書を提出したが、翌年 5 月に ICOMOS が「顕著な普遍的価値」の証明が不十分との理由で、「石見銀山は世界遺産登録の延期が適当」との勧告がなされた。

登録延期の報道で、地元大田市や島根県の皆は、世界遺産登録は厳しいと悲観した。

しかし、日本政府の積極的な外交努力とともに、「石見銀山の採掘方法は、山を崩したり森林を伐採したりせず、たとえ伐採してもすぐ植林をしていたなど、環境に配慮した。」と主張したことが功を奏し、平成 19 年（2007）年 6 月に世界遺産登録が実現した。産業遺産としては、日本だけでなくアジアでも初めての快挙であった。

世界遺産登録後は、唯一入坑できる「龍源寺間歩」には、行列ができていた。

3. 島根県技術士会の石見銀山研究

島根県技術士会では、平成 13 年（2001）年に世界遺産登録の前提となる「暫定リスト」に掲載された頃から、主要な研究テーマとして「石見銀山」を取り上げ、活発に研究活動を続けた。

会員の多くは、大森町の銀山遺跡は知っているが、石見銀山街道は、ほとんど歩いたことがないとの反応であった。そのことから、大森から温泉津までの石見銀山街道を踏査することから、石見銀山研究を始めた。

平成 13（2001）年秋、11 名の会員が、大森町から温泉津町までの石見銀山街道を踏査した。銀山の最盛期には多くの人が歩いたであろう街道は、整備されたところもあるが、道に迷うなど、世界遺産となるためには、多くの課題があると話しながら歩いた。その夜は、温泉津温泉に泊まり込み、地域で頑張る若手の皆さんと銀山街道の活用と温泉津温泉の活性化などについて、地元の地酒「開春」を飲み交わしながら夜遅くまで話し合った。



石見銀山街道

その後、会員がそれぞれの専門を活かしながら、様々な調査研究を開始した。石見銀山の歴史的調査や遺跡の発掘は、技術士会の会員の苦手とするところであったので、技術士としての力量が発揮できる項目に絞って研究を進めることとした。ヘビノネゴザの調査も環境調査を専門とする会員が先頭になって進めた。シダ植物「ヘビノネゴザ」は、銀採掘時の指標植物であると聞いて調査を開始したものである。坑道の入り口などで、次々とヘビノネゴザを発見し、指標植物の意義を再確認したことも研究成果の一つである。地質の専門家を中心とした調査団は、坑道に入って、岩質や岩の強度などを調べ、報告書にまとめた。



銀山街道に残る道標

研究発表では、専門的な視点だけでなく、奇想天外に近い話題も取り入れ、技術士としての幅広さを示した。

4.ヘビノネゴザ(*Athyrium yokoscense*)

・名前の由来

群生した株の間にヘビがとぐろをまいて
いるさまを思っつけられた?

・生育場所

比較的明るい林内に生える

・耐重金属

通常の植物が損傷を受ける50~100倍
のCDIにも耐性を示す

・銀の含有量

焼いた灰1t当りに4gの銀が含まれて
いたとの報告がある(カナダ)

・環境への利用

ハイパーアキュムレーター



ヘビノネゴザが、石見銀山遺跡周辺に多く分布していることを、発表したパワーポイント原稿などは、環境や応用理学の技術士の連携の作である。

3. 重金属鉱床の指標植物

◆木本類

リョウブ(*Clethra barbinervis*)
(リョウブ科 リョウブ属)



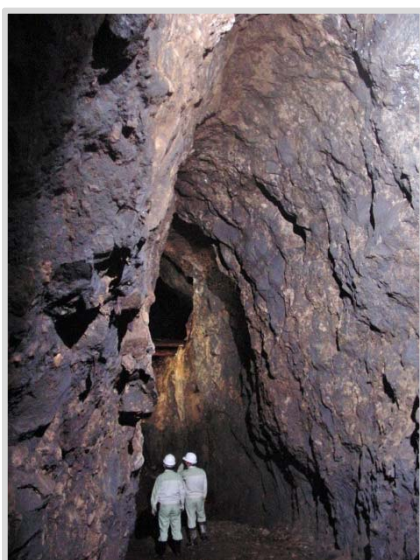
◆草本類

ヘビノネゴザ(*Athyrium yokoscense*)
(イワデンド科 メシダ属)



◆コケ植物

ホンモンジゴケ(*Scopelophila cataractae*)
(センボンゴケ科)
キヘチマゴケ(*Pohlia campotrachela*)
(ハリガネゴケ科)



最大の坑道「大久保間歩」



銀山坑道を調査した会員の勇姿

4. 石見銀山研究発表会の開催決定

石見銀山遺跡が暫定リストに登録されて6年後の平成18(2006)年秋、そろそろユネスコ世界遺産委員会で審査が始まるという情報を聞いて、石見銀山研究の総括の研究発表会を開催することとした。

毎年の研究発表会は、会員の利便を考慮して松江市で開催していた。

しかし、今回の発表会は石見銀山遺跡のある地元大田市で開催すべきとの意見が大勢を占めた。これまで、お世話になった地元の皆さんにも参加していただきたいとの考えからであった。場所は、松江市や益田市等遠方からの参加が容易な大田市駅前とし、以下のとおり決定した。

会 場 あすてらす「島根県立男女共同参画センター」ホール（大田市駅前）
開催日 平成19(2007)年1月20日(土) 13:30～17:00

当時、島根県技術士会の会員数は約200名であったが、多くの会員は松江市の在住であったため、実際には、どのくらいの参加者があるか不安を抱えながら、下記の方針に基づき、大田市在住の技術士の協力を得て、準備を進めた。

- ・ 石見銀山遺跡に興味のある沢山の来場を期待し、広報を徹底する。
- ・ これまで進めてきた研究報告を「世界遺産 石見銀山 研究」として、1冊の報告書としてとりまとめる。

報道発表後、次々と取材申し込みがあり、研究発表会前日までに、数紙に開催予告が報道された。

島根県技術士会(渡部修会長)
 は、06年度研究発表会を次
 (可)

銀山テーマに発表会

20日、大田で

県技術士会

の要領で開催する。
 ▼日時 1月20日午後1時
 30分～4時30分
 ▼場所 あすてらす1階ホー
 ル(大田市)

▼発表テーマ 石見銀山研
 究①未公開の坑道の活用
 を考える②銀山街道と名水
 を巡る健康コース③銀の積
 出港「沖泊」の夕日スボッ
 ト④土木遺産(銀山橋の保
 全など)⑤銀埋蔵地の指標
 植物(くびのねじり)ーほ
 か

▼参加費 無料(当日参加)

※問い合わせは、県技術士
 会事務局 電話0852
 (22) 4173

2007,113

建設興業タイムス

**石見銀山遺跡
魅力をアップ**
 大田であす研究発表
 今夏の世界遺産登録が
 見込まれる石見銀山遺跡
 (大田市)の魅力アップ
 に向けた県技術士会の研
 究発表会が20日、大田
 市大田町の県立男女共同
 参画センター・あすてら
 すである。

約二百名の会員が手井
 当で進めた昨年度の研究
 成果を中心に報告。自然
 環境や地質解析などの観
 点で、未公開坑道のト
 ロッコの復元、名水を巡
 る街道散策コースなど地
 域振興、観光開発のアイ
 デアを提案する。
 午後一時半からの発表
 会には会員以外でも無
 料で入場できる。当日
 は一冊しか発表できない

2007,119

毎日新聞

5. 「世界遺産石見銀山研究」報告書

石見銀山遺跡の関するこれまでの研究発表論文をまとめ、論文集を作成した。

「石見銀山研究」報告書は、島根県技術士会の研究発表集では、初めてカラーの表紙とした。表紙には、本会の会員である山村賢治技術士が撮影した「五百羅漢橋」の写真を使わせていただいた。報告書の目次を見てみると、研究調査年度は、平成 14（2002）年から平成 18（2006）の 5 年間の集大成となっており、掲載された論文の数は 43 を数え、160 ページを超える大作となった。

目 次

2006（平成18）年度 研究報告

1. 石見銀山に関する第1分科会の取り組み	原 裕二	1
2. 石見銀山永久坑道について	松原利直	4
3. トロッコ坑道の概要	尾島秀行	6
4. 銀山街道温泉津沖泊道の魅力	宇野真一	10
5. 銀山街道（沖泊ルート）の魅力スポット巡り	武田隆司	19
6. 竹林から里山（くらしの知恵）を考える	大嶋辰也	24
7. 銀山街道温泉津沖泊往還と沖泊港周辺の魅力スポット発見	嘉藤太史	30
8. 石見銀山街道と名水巡り健康コース	林 秀樹	40
9. 石見銀山についての雑感	安藝則彦	46
10. 石見銀山周辺の歴史遺産と近代化遺産を訪ねて（その1） — 福光石の新たな魅力発見を目指して —	幸前 徹	48
11. 石見銀山周辺の歴史遺産と近代化遺産を訪ねて（その2）	幸前 徹	51
12. 本州では珍しいアーチ式石橋（五百羅漢橋、羅漢町橋）	小村 徹	53

表紙写真
石見銀山 五百羅漢橋
撮影者
島根県技術士会会員
山村 賢治

2004（平成16）年度 研究報告

1. 石見銀山を見てまわるためのモデルルートの策定		
（1）活動報告	第1・第5合同分科会	119
（2）ダイナミック火山 遊学・銀の道ウォーク	松原利直	120
（3）職制は人々の生活を現す鏡	大嶋辰也	123
（4）石見銀山見聞モデルルート	加藤芳郎	126
（5）石見銀山観光ルートについての提案	月森勝博	127
（6）石見銀山探索コースについて	木佐幸佳	128
（7）石見銀山ルートの整備について	水田和之	129
（8）銀山周遊ルートの策定	長嶺元二	131
（9）石見銀山における散策道の現状と課題	原 裕二	133
（10）石見銀山活性化に向けての提案その1	江角 淳	134
（11）バーチャルリアリティを活用した石見銀山の活性化施策の提案	森山昌幸	138
2. 見銀山における散策道の現状と課題	原 裕二	139
3. 石見銀山テーマパーク化計画	多久和豊	143
4. 世界遺産登録を目指す温泉津町のまちづくり	勝部祐治	148
5. 貝谷間府（ただたにまふ）	小村 徹	152

2005（平成17）年度 研究報告

1. トロッコ坑道の活用を考える	長嶺元二	55
2. 大森町の洪水・土砂災害対策の現状と課題	神田雅志	62
3. 石見銀山周辺の歴史遺産と近代遺産を訪ねて	幸前 徹	66
4. 国際競争力のある観光地づくり	大賀隆宏	74
5. ジャングルクルーズに学ぶ石見銀山の観光周遊	森山昌幸	78
6. 石見銀山周遊ルートの整備について	永田和之	86
7. 大田〜仁摩〜温泉津 海岸巡り〜魚とまちと人と〜	勝部祐治・関村昌利	88
8. 石見銀山全山梅林計画	木佐幸佳	92
9. 銀の積出港「瀬ヶ浦、沖泊」の魅力発見	武田隆司	95
10. 温泉津の街並みの特徴について	寺本和雄	100
11. 温泉津沖泊往還への提言	幸前 徹	101
12. 瀬ヶ浦・沖泊の魅力発見	宇野真一	106
13. 瀬ヶ浦、沖泊の観光資源発掘	嘉藤太史	110

2003（平成15）年度 研究報告

1. 石見銀山における「蛇の寝ごさ」探し	原 裕二	153
2. 石見銀山のエコツーリズムに向けて	長嶺元二	157

2002（平成14）年度 研究報告

1. コツurisムと石見銀山の景観保全	林 秀樹	159
----------------------	------	-----

2006（平成18）年度 研修会報告

1. 四国・北陸支部 技術士合同研修会報告	松浦寛司	163
-----------------------	------	-----

6. 「石見銀山研究」発表会開催（平成 19（2007）年 1 月 20 日）

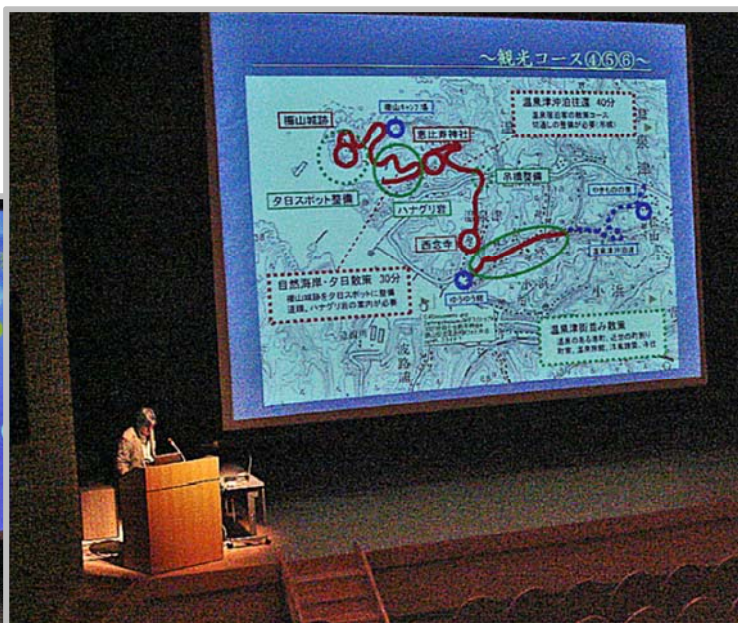
研究発表会当日、会員が次々と「あすてらすホール」に入場した。一般市民の皆さんも続々と来場される。銀山遺跡の調査でお世話になった方々の顔も見受けられる。

入場者は、会員と併せて約 200 名になった。

発表会では、研究部会長の挨拶に続き、大田市から市長代理として出席していただいた副市長から祝辞を頂戴した。

研究発表に入ると、会員それぞれが、石見銀山遺跡の活用と世界遺産登録後の活用策について提言し、午後 5 時まで研究発表が続いたが、聴衆の皆さんは、最後まで熱心に聴講されていた。

研究発表後に開かれた懇親会にも多くの会員が参加し、今後の石見銀山の活用について意見交換を続けた。



発表会後の新聞報道では、研究発表会での提案が大きな記事となった。

技術士の知名度アップと島根県技術士会の社会貢献活動に理解が得られたことは、大きな成果であった。

石見銀山 多彩に研究

県技術士会 観光振興へ成果発表

大田

今夏の世界遺産登録を「表」会員や行政関係者ら待つ「石見銀山」をテーマにした県技術士会（渡部修会長、約二百人）の研究発表会が二十日、大田市の県立男女共同参画センター・あすてらで開かれた。

建設や地質、自然環境などさまざまな分野で研究を進めた六つの分科会の代表者ら七人が、遺跡を活用した観光振興やまちづくりのアイデアを競った。

「十社寺」「名水」などの魅力めぐりを提案。観光客の分散化にもつながると訴えた。

幅広い技術者が集まる同会は「世界遺産になる石見銀山遺跡の活用」に賛意を示し、「二〇〇三年度」に研究をスタート。成果をまとめたA4判、百六十六ページの報告書を千五百部作製し、自治体や研究機関のほか、希望者に無料で配布している。

県技術士会事務局 ☎ 0852(25) 4173
(松本大典)

2007, 1, 21 中国新聞

県技術士会が研究発表

観光コース「街道十景」提案も

世界遺産へ

「石見銀山」

石見銀山遺跡をテーマに、県技術士会（渡部修会長、215人）の研究発表会が20日、大田市の県立男女共同参画センターで開かれた。

同会は、機械、建設、農業、情報科学など県内の幅広い職業分野で活躍し、国家試験に合格した技術士で構成する団体。今夏に石見銀山遺跡の世界遺産登録が有力視されるため、同遺跡を今年度の研究テーマとして取り上げた。



スライドを交え石見銀山遺跡研究の成果を発表する県技術士会会員の宇野真一さん＝大田市で

この日は各分科会を代表し、8人が1年間の研究調査の成果を発表。「未公開の銀山坑道調査とヘビノネゴザ探」と題した発表では、地質が専門で応用理学技術士の原裕二さん（48）ら4人が順に解説。シタの一種で重金屬への耐性が強い「ヘビノネゴザ」が、山師が銀鉱床を発見する手がかりになったのではないかと推論などを披露した。

また、1級建築士で環境技術士の宇野真一さん46は銀山街道温泉津泊道の魅力を分析。ヨスクハデや右の階段など、街道の定番スポットを「銀山街道十景」としてまとめ、1.2時間で歩いて楽しめる観光コースとして提案した。【船津健二】

2007, 1, 21 毎日新聞

7. 石見銀山遺跡の未来

平成19（2007）年7月に石見銀山遺跡が世界遺産登録となってから、今年で八年目を迎える。登録直後の平成20（2008）年には、石見銀山遺跡の来訪者は、80万人を超えていたが、文化遺産や自然遺産と異なり、今ひとつ魅力的なものが少ないからか、来訪者は年々減少している。

昨年、石見銀山を訪れたときは、伝統建造物群保存も進んでおり、電線の無電柱化も進み、町の風情はすっかり様変わりしていた。しかし、登録当時にはごった返していた町並みは、すっかり静けさを取り戻していた。

混雑していた石見銀山遺跡が、本当の姿ではないと思うが、様々な魅力を持っている石見銀山遺跡の魅力アップのために、島根県技術士会がもう一度、頑張ることが必要なのかも知れない。「ヘビノネゴザを探して、銀を見つけよう」などというのは、パワースポットにあれば多くの人々が集まるのだから、効果ある情報発信かも知れないと思うのは、私だけだろうか。



石見銀山（大森）の街並み

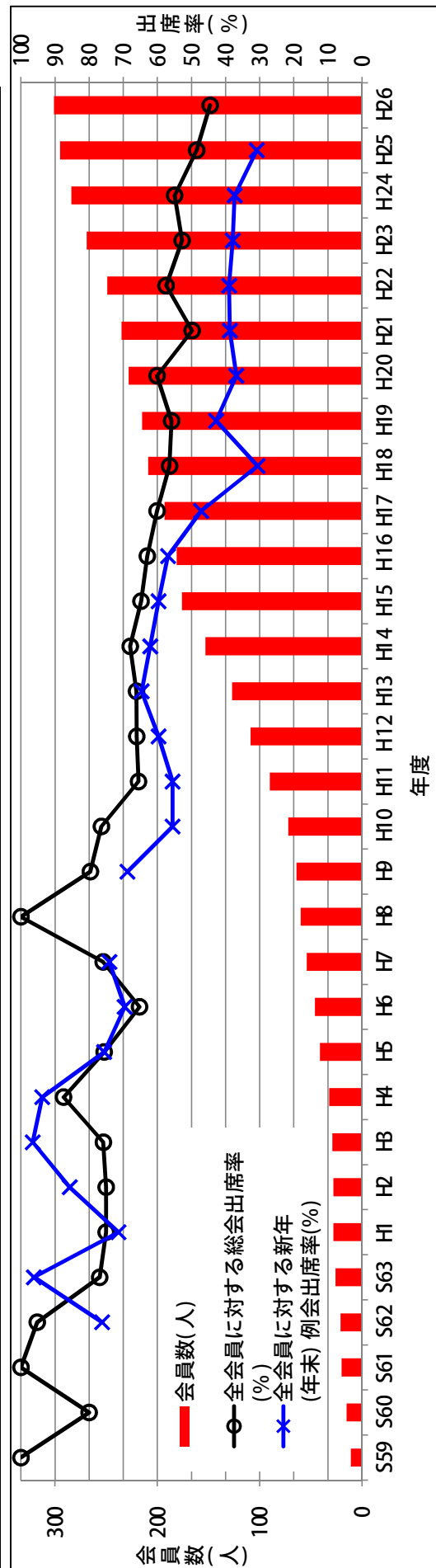
しまねをサポートする



島根県技術士会30年 会員数に対する総会・例会の出席率

年度	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
総会 出席者	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11
人	11	12	20	20	20	21	21	22	28	31	30	41	60	51	55	59
%	100	80.0	100	95.2	76.9	75.0	75.0	75.9	87.5	75.6	65.2	75.9	100	79.7	76.4	65.6
新年(年 末)例会 出席者				16	25	20	24	28	30	31	32	40	非開催	44	40	50
%				76.2	96.2	71.4	85.7	96.6	93.8	75.6	69.6	74.1		68.8	55.6	55.6
会員数	11	15	20	21	26	28	28	29	32	41	46	54	60	64	72	90

年度	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
総会 出席者	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
人	72	84	104	114	114	116	118	120	137	117	143	142	156	143	134
%	66.1	66.1	68.0	64.8	63.0	60.1	56.5	55.8	60.1	49.8	57.4	52.8	54.9	48.5	44.5
新年(年 末)例会 出席者	65	82	95	105	103	91	64	92	84	91	97	102	106	91	
%	59.6	64.6	62.1	59.7	56.9	47.2	30.6	42.8	36.8	38.7	39.0	37.9	37.3	30.8	
会員数	109	127	153	176	181	193	209	215	228	235	249	269	284	295	301



島根県技術士会30年 年表

年度	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992
	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4
会長		陶山 襄	陶山 襄	陶山 襄	陶山 襄	陶山 襄	陶山 襄	陶山 襄	陶山 襄
副会長		梶野 清雄	梶野 清雄	梶野 清雄	坂田 俊之	坂田 俊之	藤井三千勇	坂田 俊之	藤井三千勇
事務局				鐘築 一雄	鐘築 一雄	渡部 修	渡部 修	宮内 彰	宮内 彰
理事		藤井三千勇	渡部 修	藤井三千勇 佐藤 忠雄	渡部 修	渡部 修 鐘築 一雄	佐藤 忠雄	渡部 修 鐘築 一雄	佐藤 忠雄 渡邊 農
監事				河上 敬	河上 敬	大畑 温憲	大畑 温憲	大畑 温憲	大畑 温憲
会員数	11	15	20	21	26	28	28	29	32
新規合格者数			5	1	5	2	2	2	5
通常総会時の講演					1988.4.23 ヲオルター・ハンフリー「外国人から見た日本」	1989.5.1 島根県観光学会長 島田成矩「茶の湯の美」	1990.5.12 樋野達夫「笛のロマンに魅せられて」	1991.4.27 島根県農業試験場 山田貞人「農業におけるバイオテクノロジーとその展開」	1992.4.24 島根県韓国学園長 林富烈「韓国の理解」
行事・出来事	1984.3.31 島根県技術士のつどい(ホテル白鳥会館) 1984.4.21 中四国支部山陰例会(水天閣)	1985.12.12 島根県技術士懇談会(水天閣)	1986.3.15～16 中四国支部山陰例会(水天閣)	1987.7.4 島根県技術士会設立総会(一文字ホテル)	会員名簿の配布 技術次第二次試験受験講習会の開始 青函トンネル開通 瀬戸大橋供用開始	1989.7.29～30 中四国支部山陰例会(水天閣) 消費税3%	1990.5.18 藤井・坂田副会長 韓国技術士会と面談(日本技術士会本部) 1990.10.29 藤井・坂田副会長 日韓技術士東京会議(東京)	1991.7.24～27 藤井・坂田・佐藤 韓国技術士会を訪問(ソウル)1991.	1992.1.17～18 日韓技術士交流会(ホテル穴道湖) 1992.5.16～17 中四国支部山陰例会(有福温泉) 1992.10.11～13 韓国技術士会代表来県

島根県技術士会30年 年表

年度	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12
会長	藤井三千勇							
副会長	坂田 俊之	大畑 温憲	坂田 俊之	大畑 温憲	大畑 温憲	坂田 俊之	大畑 温憲	坂田 俊之
事務局	小豆沢 薫	小豆沢 薫	永田 和之	永田 和之	野津 衛	野津 衛	吉田 薫	吉田 薫
理事	落合 久栄	鐘築 一雄	落合 久栄	鐘築 一雄	渡邊 農	月森 勝博	古川 秀夫	井上 正一
	渡部 修	佐藤 忠雄	渡部 修	佐藤 忠雄	古川 秀夫	吉田 薫	小豆沢 薫	小村 隆一
	渡邊 農	吉田 薫	渡邊 農	吉田 薫	井田 豊	木佐 幸佳	月森 勝博	林 秀樹
			小豆沢 薫		永田 和之		永田 和之	木佐 幸佳
監事	野津 衛	野津 衛	野津 衛	古川 秀夫	井上 正一	落合 久栄	野津 衛	落合 久栄
会員数	41	46	54	60	64	72	90	109
新規合格者数	7	4	3	5	3	8	8	16
通常総会時の講演	1993.4.23 八雲立つ風土記の丘学芸主任 本間恵美子「古代からのメッセージ」	1994.4.28 島根県建築士協会会長 梶谷邑「建築設計コンペと景観」	1995.4.28 「阪神淡路大震災報告」	1996.4.26 盛山政義「環日本海地域の経済発展について」	1997.4.26 島根大学元教授 橋谷先生「」	1998.4.4 島根県埋蔵文化財調査センター長 穴道正年「古代出雲の文化―弥生青銅器文化を中心に―」	1999.4.24 皮革工芸家 本池秀夫「創ることから学ぶ」	2000.4.8 出西薫多々納弘光「おかげさまの道―よき師の導きに恵まれて」
行事・出来事	1993.7.19～24 韓国技術研修団の来県	1994.9月初旬 10周年記念誌発刊 1994.9.14 地方公共団体と技術士との合同セミナー	1995.1.17 阪神淡路大震災オウム真理教地下鉄サリン事件 1995.3.20 1995.6.12 韓国技術士会代表来県	1996.11.14～15 第26回日韓技術士会議(くにびきメッセ)	消費税5%	1998.6.26～27 中四国支部山陰例会(松江東急イン)	1999.2.18 まちの色・水の色フォーラム(ホテル白鳥) 平成11年度から会報と会員名簿を別冊で発行 西瀬戸自動車道橋梁完了	2000.9.2～3 山口県技術士会都の交流会(松江ワシントンホテル)

島根県技術士会30年 年表

年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
会長	大畑 温憲							
副会長	小豆沢 薫	渡部 修	渡部 修	月森 勝博	井上 正一	松原 利直	井上 正一	松原 利直
事務局	井上 正一		松崎 靖彦		寺田 彰憲		寺田 彰憲	
理事	福島 昭一	土江 敏幸	井上 正一	足立 元彦	上山 善道	大坂 理	上山 善道	大坂 理
	月森 勝博	林 秀樹	幸前 徹	土江 敏幸	石田 弘至	勝部 祐治	小村 徹	勝部 祐治
	吉田 薫	永田 和之	林 秀樹	松原 利直	嘉藤 太史	木佐 幸佳	嘉藤 太史	木佐 幸佳
	木佐 幸佳	松崎 靖彦	永田 和之	木佐 幸佳	幸前 徹	児島 秀行	幸前 徹	児島 秀行
	三谷 貢	石田 弘至	三谷 貢	境 英治	土江 敏幸	永田 和之	土江 敏幸	畑 和宏
	勝部 祐治		石田 弘至	勝部 祐治	林 秀樹 和田 晶夫	森山 昌幸	林 秀樹 和田 晶夫	森山 昌幸
監事	古川 秀夫	鐘築 一雄	古川 秀夫	鐘築 一雄	鐘築 一雄	松崎 靖彦	鐘築 一雄	松崎 靖彦
会員数	127	153	176	181	193	209	215	228
新規合格者数	18	26	30	11	23	23	16	20
通常総会時の講演	2001.4.21 中国古箏青年演奏家 謝雪梅「華麗なる中国琴の調べ」	2002.4.13 島根県商工労働部長 富田幹彦「新しい物作りへの動き」	2003.5.24 日本シジミ研究所所長 中村幹雄「宍道湖・中海の環境と生物」	2004.5.22 松江工業高等専門学校教授 浅田純作「自然災害と危機管理」	2005.5.17 テキサス州立大学子「自然の中で甦る絹の魅力」	2006.5.13 環境省環境カウンセラー 向井哲朗「NPOによる環境への取り組み」	2007.5.12 日刀保村下 木原明「たたら製鉄の技と精神」	2008.5.31 島根県建設技術センター理事長 伊藤慶幸「土木行政に携わって」
	技術士部門に総合技術監理部門が追加	2002.5.17 産官学セミナー(松江テルサ) 2002.6～7 日韓ワールドカップ開催	島根県技術士会ホームページの立ち上げ	2005.1.22 20周年記念式典(松江テルサ・東急イン) 20周年記念誌発刊	平成17年度から会報の代わりに研究報告を発刊 瀬戸内・日本海縦断技術士会(香川県、岡山県、島根県)の開始	2006.9.30 技術士全国大会に向けた理事会(支部から牧山、植田、入江、大田来訪) 2007.1.20 世界遺産「石見銀山」研究発表会・式典・祝賀会(大田市あすてらす)	2007.6.28 石見銀山が世界遺産登録 2007.6.19 技術士全国大会準備委員会(伊藤副支部長、大田事業委員長、乗安企画総務委員長、理事、準備委員)	2008.10.17～20 第35回技術士全国大会(島根) 2008.4.20 出雲大社仮殿遷座祭
行事・出来事								

島根県技術士会30年 年表

年度	2009		2010		2011		2012		2013		2014	
	H21		H22		H23		H24		H25		H26	
会長	渡部 修											
副会長	土江 敏幸	寺田 彰憲			佐藤 勝則	林 秀樹	嘉藤 太史		佐藤 勝則	和田 浩		
事務局	松浦 寛司	橋尾 宣弘			松浦 寛司				原 裕二	嘉藤 太史		
理事	石田 弘至	今岡 裕作	石田 弘至	今岡 裕作	石田 弘至	今岡 裕作	今岡 裕作	石田 弘至	石田 弘至	岡村 茂		
	嘉藤 太史	兒島 秀行	兒島 秀行	兒島 秀行	兒島 秀行	兒島 秀行	兒島 秀行	兒島 秀行	兒島 秀行	畑 和宏		
	佐藤 勝則	畑 和宏	畑 和宏	畑 和宏	原 裕二	福井 一彦	福井 一彦	安達 寿規	安達 寿規	大嶋 辰也		
	林 秀樹	原 裕二	原 裕二	原 裕二	藤井 次郎	堀尾 俊弘	堀尾 俊弘	片山 直樹	片山 直樹	井上 真		
	福井 一彦	藤井 次郎	藤井 次郎	藤井 次郎	安達 寿規	大嶋 辰也	大嶋 辰也	石倉 昭	石倉 昭	嘉藤 剛		
	堀尾 俊弘	小村 徹	小村 徹	小村 徹	松浦 寛司	小村 徹	小村 徹	大坂 伊作	大坂 伊作			
	大嶋 辰也	田中 隆一	田中 隆一	田中 隆一	花本孝一郎	石倉 昭和	石倉 昭和					
井上 正一					井上 正一							
監事	井上 正一	松崎 靖彦	松崎 靖彦	松崎 靖彦	井上 正一	寺田 彰憲	寺田 彰憲	井上 正一	井上 正一	松浦 寛司		
会員数	235		249		269		284		295		301	
新規合格者数	22		27		28		27		20		16	
通常総会時の講演	2009.5.9 島根県土木部長 鳥屋均「豊かな県土づくりに向けて」	2010.5.22 (株)グラント調査開発 村上英明「夢の道開門トンネル」 隠岐の島町教育委員会 野辺一寛「世界ジオパークを目指して」	2011.5.21 島根大学教授 横田修一郎「自然災害の軽減に向けた社会の構築」	2012.5.19 松江市史編纂委員 乾隆明「土木・建築・産業技術が作った豊かな松江藩」	2013.5.25 島根県立大学短期大学部教授 鹿野一厚「アフリカの伝統的牧畜社会への旅」	2014.5.17 松江歴史館専門官 宍道正年「松江藩の時代 その魅力」						
行事・出来事	2010.1.16 新年例会(鳥取県技術士会との意見交換)	2010.9.18 瀬戸内・日本海縦断技術士会(ホテル宍道湖)	2011.4.11 日本技術士会が公益社団法人となる。	2012.10.8 ノーベル生理学・医学賞を京都大学山中伸弥教授が受賞	2013.5.10 出雲大社本殿遷座祭	2013.7.28~29 津和野川・名賀川を中心とした豪雨災害	2013.9.9 隠岐ジオパークが世界ジオパークネットワークに加盟	2015.1.31 30周年記念式典(ホテル宍道湖)	30周年記念誌発行	2014.8.20 広島県土砂災害消費税8%		

2005年・平成17年度事務局報告

日付	事業名	内 容
2005/5/14	第8回理事会	総会運営の確認
	平成17年度 通常総会	ホテル穴道湖 13:30～16:00 出席116名 委任状 不明 全会員数193名 懇親会83人 特別講演 テキスタイルデザイナー 矢野まり子「自然の 中で甦る絹の魅力」
2005/6/11	第1回理事会	ホテル穴道湖 13:30～15:00 出席16名 ・平成17年度事業計画
2005/8/27	第2回理事会	松江テルサ研修室1 10:00～12:00 出席15名 ・研究部会(石見銀山にテーマを集中)・交流部会(3県技術士 会、岡山、香川、島根)・規約改定委員会の立ち上げ
2005/10/1	第3回理事会	ホテル穴道湖 15:00～17:00 出席15名 ・中四国支部40周年へ島根県技術士会の活動を報告
2005/11/19	第4回理事会	松江テルサ 15:00～17:00 出席14名 支部から牧山支部長、坂田副支部長、植田事務局長 ・平成20年度第35回技術士全国大会の島根県開催について支 部から要請
2005/12/17	第5回理事会	ホテル穴道湖 10:00～12:00 出席12名 ・平成20年度第35回技術士全国大会の島根県開催について可 能性を協議、会員に説明し総会での議決を得て受諾する方向 で決定
2006/1/21	第6回理事会	くにびきメッセ 11:30～12:00 出席16名 ・新年例会研究発表会の手順
	新年例会 研究発表会	くにびきメッセ501会議室 出席者91名 懇親会64名 ・世界遺産「石見銀山」共同研究報告 ・松江市公共交通について提案
2006/3/18	第7回理事会	復建調査設計会議室 10:00～16:00 出席者15名 ・H17年度事業報告、決算報告 ・H18年度事業計画、予算案
2006/5/13	第8回理事会	ホテル穴道湖 10:30～12:00 ・総会運営の確認

2006年・平成18年度事務局報告

日付	事業名	内 容
2006/5/13	第8回理事会	総会運営の確認
	平成18年度 通常総会	ホテル穴道湖 13:30～16:00 出席118名 委任状 不明 全会員数215名 懇親会86人 特別講演 環境省環境カウンセラー 向井哲朗「NPOによる 環境への取り組み」
2006/6/17	第1回理事会	ホテル穴道湖 14:00～17:00 出席13名 ・平成18年度事業計画
2006/8/5	第2回理事会	スティックビル505号研修室 13:00～17:00 出席13名 ・研究部会(石見銀山の研究成果を大田市で発表する企画) ・交流部会(新潟県技術士会との交流)
2006/9/30	第3回理事会	スティックビル506号研修室 15:00～17:00 出席11名 牧山支部長、植田事務局長、入江委員長、太田委員長 ・平成20年度第35回技術士全国大会の島根県開催について協 議
2006/11/18	第4回理事会	スティックビル506号研修室 14:00～17:00 出席14名 ・新年例会及び建設フェア打ち合わせ
2007/1/20	第5回理事会	大田あすてらす第2会議室 11:00～12:00 出席17名 ・新年例会研究発表会の手順
	新年例会 臨時総会	大田市あすてらす ・世界遺産「石見銀山」研究発表会・式典 出席者98名 祝賀会46名 ・規約改正案承認・全国大会テーマ承認「神話の國で語る未 来技術の創造」
2007/2/17	第6回理事会	ホテル穴道湖 10:00～12:00 出席者14名 ・役員改選準備・平成18年度合格者情報と入会の勧誘
2007/4/7	第7回理事会	スティックビル401号研修室 10:00～12:00 出席者16名 ・役員改選・全国大会準備状況
2007/5/12	第8回理事会	ホテル穴道湖 10:30～12:00 ・総会運営の確認 ・H18年度事業報告、決算報告 ・H19年度事業計画、予算案

2007年・平成19年度事務局報告

日付	事業名	内 容
2007/5/12	第8回理事会	総会運営の確認
	平成19年度 通常総会	ホテル穴道湖 13:30～16:00 出席118名 委任状72名 合計190名 全会員数219名 懇親会76人 特別講演 日刀保村下 木原明「たたら製鉄の技と精神」 ＜誠実は美鋼を生む＞
2007/6/9	第1回理事会 全国大会実行 委員会	ホテル穴道湖 10:00～11:00 出席21名 ・平成19年度事業計画 ・全国大会実行委員会
2007/7/20	全国大会実行 委員会	研修・編集委員会 出席12名 ・回答について協議
2007/8/25	第2回理事会 全国大会実行 委員会	スティックビル505号研修室 13:30～17:00 出席21名 ・全国大会実行委員会
2007/10/16	第34回技術士 全国大会(福 井)	島根大会をアピール 参加者：10名
2007/10/27	第3回理事会 全国大会実行 委員会	スティックビル506号研修室 10:00～12:00 出席20名 ・各部会及び建設フェア準備状況報告 ・全国大会実行委員会
2008/1/19	第4回理事会 全国大会実行 委員会	ホテル穴道湖 10:00～12:30 理事15名 実行委員9名 支部から牧山支部長を含め5名 ・新年例会研究発表会の手順・全国大会実行委員会
	新年例会 研究発表会	研究発表会 出席者92名 懇親会59名
2008/2/9	第5回理事会 全国大会実行 委員会	ホテル穴道湖 10:00～12:00 出席者19名 ・技術士試験受験講習会・ホームページの更新・全国大会実行委員会
2008/4/19	第6回理事会	ホテル穴道湖 10:00～12:00 出席者15名 ・平成19年度合格者情報と入会の勧誘・総会準備
2008/5/31	第7回理事会	ホテル穴道湖 10:30～12:00 ・総会運営の確認 ・H19年度事業報告、決算報告 ・H20年度事業計画、予算案

2008年・平成20年度事務局報告

日付	事業名	内 容
2008/5/31	第7回理事会	総会運営の確認
	平成20年度 通常総会	ホテル穴道湖 13:30～16:00 出席136名 委任状 不明 全会員数226名 懇親会96人 中四国支部 大田事業委員長「中四国支部情報」 渡部会長 「第35回技術士全国大会について」 特別講演 島根県建設技術センター理事長 伊藤慶幸「土 木行政に携わって」
2008/6/21	第1回理事会 全国大会実行 委員会	島根県技術士会事務室 10:00～11:00 出席21名 ・全国大会事務所開き
2008/7/26	第2回理事会 全国大会実行 委員会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席26名 ・全国大会準備
2008/8/23	第3回理事会 全国大会実行 委員会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席30名 ・全国大会準備
2008/9/20	第4回理事会 全国大会実行 委員会	島根県技術士会事務室 10:00～14:30 出席者35名 ・全国大会マニュアルについて
2008/11/8	第5回理事会 全国大会実行 委員会	島根県技術士会事務室 13:00～17:00 出席22名 支部5名 ・全国大会報告及び反省会
2009/1/17	第6回理事会	ホテル穴道湖 11:00～12:30 出席者18名 ・新年例会研究発表会の手順
	新年例会 研究発表会	研究発表会 出席者84名 懇親会 名
2009/2/21	第7回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者12名 ・役員選挙準備
2009/4/25	第8回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者25名 ・役員選挙報告・新旧役員顔合わせ・総会準備
2009/5/9	第9回理事会	ホテル穴道湖 10:30～12:00 ・総会運営の確認 ・H20年度事業報告、決算報告 ・H21年度事業計画、予算案

2009年・平成21年度事務局報告

日付	事業名	内 容
2009/5/9	第9回理事会	総会運営の確認
	平成21年度 通常総会	ホテル穴道湖 13:30～16:10 出席117名 委任状118名 合計235名 全会員数239名 懇親会87人 特別講演 島根県土木部長 鳥屋均「豊かな県土づくりに向けて」
2009/6/20	第1回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席19/21名 ・ホームページ管理・防災部会の報告・修習技術者の支援
2009/8/22	第2回理事会	島根県技術士会事務室 15:00～17:00 出席15/21名 ・西日本技術士大会の参加募集・名簿作成と配布計画・中国5県技術士会
2009/10/31	第3回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者14/21名 ・松江高専への講師派遣(技術者倫理)・島根県外部アドバイザー
2009/12/26	第4回理事会	島根県技術士会事務室 15:00～17:00 出席17/21名 ・西日本技術士大会の報告・新年例会研究発表会・都市計画審議会への委員派遣
2010/1/16	第5回理事会	ホテル穴道湖 11:00～12:00 出席者17/21名 ・新年例会研究発表会の手順
	新年例会 研究発表会	研究発表会 出席者91名 懇親会76名 鳥取県技術士会との意見交換
2010/2/20	第6回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者12/21名 ・松江高専への講師派遣・各機関の委員、講習会の講師への派遣・総会準備・平成21年度合格者情報と入会の勧誘
2010/4/24	第7回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者16/21名 ・H21年度決算見込み・H22年度予算見込み・H22年度事業計画・新入会員状況
2010/5/22	第8回理事会	ホテル穴道湖 10:30～12:00 出席者19/21名 ・総会運営の確認 ・H21年度事業報告、決算報告 ・H22年度事業計画、予算案

2010年・平成22年度事務局報告

日付	事業名	内 容
2010/5/22	第8回理事会	総会運営の確認
	平成22年度 通常総会	ホテル穴道湖 13:30～17:40 出席143名 委任状91名 合計234名 全会員数247名 懇親会100人 特別講演 (株)グランド調査開発 村上英明「夢の道関門トンネン」 隠岐の島町教育委員会 野辺一寛「世界ジオパークを目指して」
2010/6/26	第1回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席15/21名 ・四国支部、中国支部発起会の報告・中国支部防災部会の報告・研究分科会の活動準備
2010/8/21	第2回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席15/21名 ・日韓技術士大会、技術士全国大会の参加募集・瀬戸内日本海縦断技術士会の開催・名簿作成と配布計画
2010/10/23	第3回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者14/21名 ・日韓技術士大会の参加報告・島根県技術士会の30周年大会について・広報活動
2010/12/11	第4回理事会	島根県技術士会事務室 15:00～17:00 出席17/21名 ・青年部活動報告・広報活動・新年例会研究発表会・役員改選の要領案打ち合わせ
2011/1/22	第5回理事会	ホテル穴道湖 11:00～12:00 出席者17/21名 ・新年例会研究発表会の手順・技術士二次試験講習会の開催
	新年例会 研究発表会	研究発表会 出席者97名 懇親会65名
2011/3/5	第6回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者12/21名 ・役員選挙の実施方法・平成22年度合格者情報と入会の勧誘
2011/4/23	第7回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者16/21名 ・役員選挙の実施結果・H22年度決算見込み・H23年度予算見込み・H23年度事業計画・新入会員状況
2011/5/21	第8回理事会	ホテル穴道湖 10:30～12:00 出席者19/21名 ・総会運営の確認 ・H22年度事業報告、決算報告 ・H23年度事業計画、予算案

2011年・平成23年度事務局報告

日付	事業名	内 容
2011/5/21	第8回理事会	総会運営の確認
	平成23年度 通常総会	ホテル穴道湖 13:00～17:30 出席142名 委任状93名 合計235名 全会員数264名 懇親会105人 特別講演 島根大学教授 横田修一郎「自然災害の軽減に向けた社会の構築」
2011/6/18	第1回理事会	エイト日本技術開発 15:00～17:00 出席17/20名 ・理事の担当部門・各部会の活動予定
2011/8/20	第2回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席16/20名 ・日韓技術士大会、技術士全国大会の参加募集・太平洋瀬戸内日本海縦断御術士会への参加・名簿作成と配布計画
2011/11/5	第3回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者17/20名 ・会員名簿配布状況・太平洋瀬戸内日本海縦断御術士会への参加報告・青年部会活動報告・松江高専倫理教育への講師派遣・島根県との防災教育・日本技術士会中国本部の活動
2011/12/17	第4回理事会	エイト日本技術開発 15:00～17:00 出席17/20名 ・中国本部参院例会の報告・技術士試験受験対策講習会・青年部活動報告・新年例会研究発表会
2012/1/21	第5回理事会	ホテル穴道湖 11:00～12:00 出席者20/20名 ・新年例会研究発表会の手順・技術士二次試験講習会の開催
	新年例会 研究発表会	研究発表会 出席者102名 懇親会69名
2012/3/17	第6回理事会	島根県技術士会事務室 15:00～17:00 出席者16/20名 ・中国本部の理事会報告・平成23年度合格者情報と入会の勧誘
2012/4/21	第7回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者16/20名 ・中国本部理事会報告・H23年度決算見込み・H24年度予算見込み・新入会員状況
2012/5/19	第8回理事会	ホテル穴道湖 11:00～12:00 出席者20/20名 ・総会運営の確認 ・H23年度事業報告、決算報告 ・H24年度事業計画、予算案

2012年・平成24年度事務局報告

日付	事業名	内 容
2012/5/19	第8回理事会	総会運営の確認
	平成24年度 通常総会	ホテル穴道湖 13:00～17:30 出席156名 委任状85名 合計241名 全会員数277名 懇親会97人 特別講演 松江市史編纂委員 乾隆明「土木・建築・産業技術が作った豊かな松江藩」
2012/6/30	第1回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席17/20名 ・理事の担当部門・各部会の活動予定・道路橋示方書改訂に関わる講習会・H25以降の技術士二次試験の内容
2012/8/25	第2回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～11:30 出席12/20名 ・太平洋瀬戸内日本海縦断技術士会への参加報告・中国5県技術士の報告・名簿作成と配布計画・川の観察会活動報告・景観アドバイザーの推薦
2012/11/10	第3回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～11:30 出席者15/20名 ・道路橋示方書改訂講習会の報告・会員名簿配布状況・松江高専倫理教育への講師派遣・固定電話の廃止・ベアゼロベ参加報告
2012/12/8	第4回理事会	エイト日本技術開発 15:00～17:00 出席15/20名 ・井上、寺田、林技術士の表彰報告・建設技術センターへ講師派遣・技術士受験対策講習会・庭園文化研究会への追加予算処置・新年例会研究発表会・島根県立大学との交流企画
2013/1/19	第5回理事会	ホテル穴道湖 11:00～12:00 出席者19/20名 ・新年例会研究発表会の手順・プレスリリースの報告・益田での防災企画
	新年例会 研究発表会	研究発表会 出席者106名 懇親会78名
2013/3/9	第6回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～11:00 出席者15/20名 ・理事選挙の開催・総会の講演者・益田での防災企画の報告・平成24年度合格者情報と入会の勧誘・島根県立大学との交流企画の報告
2013/4/29	第7回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者10/20名 ・理事改選結果報告・総会準備、講演者・松江市景観審議委員・島根県長寿命化修繕対策検討委員の決定
2013/5/25	第8回理事会	ホテル穴道湖 10:40～12:00 出席者19/20名 ・総会運営の確認 ・H24年度事業報告、決算報告 ・H25年度事業計画、予算案

2013年・平成25年度事務局報告

日付	事業名	内 容
2013/5/25	第8回理事会	総会運営の確認
	平成25年度 通常総会	ホテル穴道湖 13:00～17:00 出席143名 委任状96名 合計239名 全会員数294名 懇親会99人 特別講演 島根県立大学短期大学部 総合文化学科 鹿野一厚 教授「アフリカの伝統的牧畜社会への旅」
2013/6/15	第1回理事会	島根県民会館202号室 15:00～17:00 出席15/18名 ・理事の担当部門・30周年記念行事について ・日本技術士会中国本部岡山県支部結成式典について ・松江高専講義について・各部会の活動予定
2013/8/24	第2回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席13/18名 ・日本技術士会中国本部岡山県支部結成式典の報告 ・30周年記念行事・名簿配布計画 ・技術士会ホームページについて
2013/11/2	第3回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者14/18名 ・平成25年度中国5県技術士会の報告・日本技術士会中国本部島根例会・30周年記念行事・松江高専への講師の派遣・太平洋・瀬戸内海・日本海縦断技術士会の報告・新年例会研究発表会・名簿配布状況・建設興業タイムス・カレンダー作成の協賛
2013/12/14	第4回理事会	島根県民会館205号室 15:00～17:00 出席16/18名 ・青年部会の行事報告・新年例会研究発表会・山陰中央新報年賀広告・(有)建設工業タイムス社・「建設産業カレンダー2014」の発行後援
2014/1/18	第5回理事会	島根県職員会館 10:40～12:00 出席者15/18名 ・新年例会研究発表会の手順・技術士二次試験対策講習会・土木学会への協力依頼について・島根県立大学連携企画(1/15)の概要・島根県景観審議会委員の派遣
	新年例会 研究発表会	研究発表会 出席者91名 懇親会61名
2014/3/8	第6回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者16/18名 ・平成26年度総会での講演者について(穴道正年氏に決定) ・平成26年度建設技術センター講習会・技術士二次試験対策講習会・30周年記念行事・平成25年度合格者情報と入会の勧誘
2014/4/26	第7回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席者16/18名 ・平成26年度建設技術センター講習会・30周年記念行事・総会準備・太平洋・瀬戸内海・日本海縦断技術士会・今福線一浜田市からの依頼・平成25年度合格者情報と入会の勧誘
2014/5/17	第8回理事会	ホテル穴道湖 10:00～12:00 ・総会運営の確認 ・H25年度事業報告、決算報告 ・H26年度事業計画、予算案

2014年・平成26年度事務局報告

日付	事業名	内 容
2014/5/17	第8回理事会	総会運営の確認
	平成26年度 通常総会	ホテル穴道湖 13:00～17:00 出席134名 委任状129名 合計263名 全会員数301名 懇 親会95名 特別講演 松江歴史館 専門官 穴道正年「松江藩の時代 その魅力」
2014/6/7	第1回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席11/18名 ・各部会の活動予定・講師の派遣
2014/9/6	第2回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席14/18名 ・太平洋-瀬戸内海-日本海縦断技術士会の報告 ・講師の派遣・広島県土砂災害について ・30周年記念行事・名簿配布計画
2014/11/8	第3回理事会	島根県技術士会事務室 10:00～12:00 出席12/18名 ・30周年記念誌、新年例会、記念式典について ・防災部会(広島県土砂災害)について
2014/12/20	第4回理事会	松江市市民活動センター 13:00～15:00 記念誌編集会議 15:00～17:00 理事会 出席18名 ・建設工業タイムス、山陰中央新報社 年賀広告及び協賛 ・今福線マップについて ・30周年記念誌、新年例会、記念式典について
	準備委員会	・式典・祝賀会の準備
2014/1/31	新年例会研究 発表会 30周年記念式 典	ホテル穴道湖 ★新年例会研究発表会 ★30周年記念式典 ★祝賀会
(予定) 2015年2月	第5回理事会	・理事選挙の開催 ・総会の講演者 ・講師の派遣など
(予定) 2015年4月	第6回理事会	・理事改選結果報告 ・総会準備、講演者 ・講師の派遣 ・新入会員の勧誘など
(予定) 2015/5/23	第7回理事会	ホテル穴道湖 10:00～12:00 ・総会運営の確認 ・H26年度事業報告、決算報告 ・H27年度事業計画、予算案

島根県技術士会役員名簿

役職等	担 当	氏 名	部 門	生年月日	所 属	E-mailアドレス
名誉理事		藤井 三千勇	建 設	1933. 6.17	(株)藤井基礎設計事務所	
名誉理事		大畑 温 憲	農 業	1929. 4. 5	自宅	
名誉理事		小豆 澤 薫	応用理学 総合技術監理	1945.10.28	(株)共立エンジニア	
名誉理事		渡 部 修	上下水道	1948. 8. 8	(株)エイテック	
会 長		林 秀 樹	環境・建設・ 総合技術監理	1951. 5.29	復建調査設計(株)松江支社	
副会長	交流部会長	佐藤 勝 則	森 林	1951. 4.27	(株)日西テクノプラン	
副会長	研究部会長	和 田 浩	建 設	1958.10.20	(株)ウエスコ浜田支店	
理 事	広報部会長	石田 弘 至	建設・総合技術監理	1961. 1.17	島根県土木部	
理 事	広報部会	岡 村 茂	農業・建設・ 総合技術監理	1964. 8.17	島根県環境生活部	
理 事	防災部会長	児 島 秀 行	応用理学	1955. 1. 4	復建調査設計(株)松江支社	
理 事	防災部会	畑 和 宏	応用理学・建設 総合技術監理	1964.10.16	(株)大田技術コンサルタント	
理 事	交流部会	安達 寿 規	農 業	1951.11. 3	山陰開発コンサルタント(株)	
理 事	研究部会	大 嶋 辰 也	建設・総合技術監理	1965. 6.17	(株)ウエスコ島根支社	
理 事	研究部会	片 山 直 樹	応用理学・建設 総合技術監理	1977. 2.25	(株)日本海技術コンサルタンツ	
理 事	事務局長	原 裕 二	応用理学・建設 総合技術監理	1958. 7.23	(株)コスモ建設コンサルタント	
理 事	事務局	嘉 藤 太 史	上下水道 総合技術監理	1957. 8.18	(株)コスモ建設コンサルタント	
青年部	青年部会長	井 上 真	応用理学	1971. 4. 2	(株)ウエスコ浜田支店	
青年部	青年部会副会長	石 倉 昭 和	建設・総合技術監理	1971. 2.21	協和地建コンサルタント(株)	
青年部	青年部会副会長	嘉 藤 剛	建 設	1974. 3.20	島建コンサルタント(株)	
青年部	青年部事務局長	大 坂 伊 作	応用理学・建設	1979. 2. 5	イズテック(株)	
監 事		井 上 正 一	森 林	1930. 9. 8	島建コンサルタント(株)	
監 事		松 浦 寛 司	建 設	1961.11.26	(株)エイト日本技術開発	

賛助会員名簿-1

No	社 名	住 所	TEL/FAX
1	 【技術士】 稲田 誠 (建設部門:道路)	本社 〒699-0404 松江市宍道町東来待976-7 浜田営業所 〒697-0017 浜田市原井町908-15 雲南営業所 〒699-1333 雲南市木次町下熊谷1547-3 e-mail : akibasomu@cello.ocn.ne.jp	TEL 0852-66-2115 FAX 0852-66-2140 TEL 0855-22-1294 FAX 0855-22-1294 TEL 0854-42-0230 FAX 0854-42-0230
2	 自然・人・社会の共生をめざす 株式会社アテナ 鐘築一雄(土質及び基礎)	〒690-0873 松江市内中原町226-3	TEL 0852-31-7605 FAX 0852-31-7415
3	 技術士 在間 健 建設:鋼構造及びコンクリート 今村 誠 建設:道路 野久幸司 建設:道路 高瀬和彦 建設:土質及び基礎 中川一安 建設:土質及び基礎 新出義昭 建設:土質及び基礎 鋼構造及びコンクリート 上下水道:下水道 総合技術監理:土質及び基礎	本店 〒698-0004 島根県益田市東町8-33 浜田支店 〒699-3212 島根県浜田市三隅町向野田337-2 川本支店 〒696-0001 島根県邑智郡川本町川本634-1 広島支店 〒730-0051 広島県広島市中区大手町3-9-13松永ビル2F	TEL 0856-23-1159 FAX 0856-23-1114 TEL 0855-32-4588 FAX 0855-32-3988 TEL 0855-72-3205 FAX 0855-72-3206 TEL 082-545-1214 FAX 082-246-6618
4	 田中達雄(土質及び基礎) 大掛敏博(道路、総合技術監理) 長谷川祐一(河川、砂防及び海岸、建設環境、都市及び地方計画、自然環境保全)	本社 〒690-0026 松江市富士見町3-34 URL : http://www.atlas-shimane.jp e-mail : info@atlas-co.jp	TEL 0852-37-0001 FAX 0852-37-1500
5	人間と自然を考える  技術士 ●富金原 久 繁(建設部門) ●福田 真佐夫(建設部門) ●松原 昌 利(建設部門) ●余村 英 純(建設部門、応用理学部門) ●野津 幸 二(建設部門)	本社 〒730-0831 広島市中区江波西1-25-5 山陰支社 〒690-0044 松江市浜乃木7-1-37 事務所: 浜田、益田、雲南、安来 URL : http://www.aratani.co.jp e-mail : sanin@aratani.co.jp	TEL 082-292-5481 FAX 082-294-3575 TEL 0852-21-0401 FAX 0852-27-1342
6	ハートフルネットワークで未来の豊かなふるさと創り  技術士 桜塚盛一(農業:農業土木) 土江敏幸(農業:農業土木) 小村晃一(建設:道路) 玉串勝明(建設:道路) 青木 勲(建設:建設環境) 大坂伊作(建設:土質及び基礎 応用理学:地質)	本社 〒693-0054 出雲市浜町513番地2 営業所:隠岐・雲南・大田・浜田・西部 URL : http://www.izutec.co.jp	TEL 0853-22-5630 FAX 0853-22-5079
7	自然と人間の調和を考える総合プランナー  【技術士】 山崎富男(道路、総合技術監理)・原 忠利(土質及び基礎)・ 遊木 悟(道路)・中村寿男(道路)・福田 浩(鋼構造及びコンクリート)	本社 〒693-0058 島根県出雲市矢野町810 浜田支店 〒697-0023 浜田市長沢町3074 営業所:松江・大田・雲南・益田 URL : http://www.izumogreen.co.jp	TEL 0853-21-5151 FAX 0853-23-7023 TEL 0855-22-1151 FAX 0855-22-7254

賛助会員名簿-2

No	社 名	住 所	TEL/FAX
8	 「未来に残す、自然との共生社会」 総合建設コンサルタント WESCO 株式会社 ウエスコ 【技術士】 松原利直・福井一彦・和田 浩・大嶋辰也・大畑富紀・徳岡広昭・井上 真・青山 勝・津村拓美・橋本達人・佐々木律朗・金村 浩・坂本 道彦・木村賢一・細持康弘・森分泰三郎・篠田秀一・服部輝明・片岡大輔	島根支社 〒690-0047 松江市嫁島町16-1 浜田支店 〒697-0024 浜田市黒川町328-1 営業所 出雲・雲南・大田・益田 URL : http://www.wesco.co.jp	TEL 0852-25-1252 FAX 0852-25-1258 TEL 0855-23-3755 FAX 0855-23-3761
9	 地域の未来を考える！ 株式会社 栄進 We'll create a future! 景山辰夫(建設部門:施工計画) 足立元彦(農業部門:農業土木)	本社 〒690-0047 松江市嫁島町10-7 雲南支社 〒699-1334 雲南市木次町新市39 <営業所> 安来: 0854-37-9522 川本: 0855-72-3922 益田: 0856-31-4600 URL : http://kabu-eishin.co.jp	TEL 0852-31-0688 FAX 0852-31-0699 TEL 0854-42-5511 FAX 0854-42-5251
10	 株式会社 エイテック 【技術士】 山本 崇晶(建設部門:道路) 渡部 修(上下水道部門:下水道) 中谷 知秀(建設部門:土質及び基礎) (応用理学部門:地質)	中国支社 〒690-0015 松江市上乃木9-2-18 浜田営業所 〒697-0006 浜田市下府町901-4-8 益田営業所 〒698-0036 益田市須子町42-9 雲南営業所 〒699-1333 雲南市木次町下熊谷1547-3 URL : http://www.kk-atec.jp	TEL 0852-25-2335 FAX 0852-31-6510 TEL 0855-25-5329 FAX 0855-25-5339 TEL 0856-31-1501 FAX 0856-31-1502 TEL 0854-40-1560 FAX 0854-40-1561
11	価値ある環境を未来に E・Jグループ  株式会社 エイト日本技術開発 永田 裕司(土質及び基礎、道路、総合技術監理) 松浦 寛司(土質及び基礎、鋼構造及びコンクリート、道路) 横尾 寛弘(道路、土質及び基礎、地質、森林、総合技術監理) 古川 月士(道路) 工藤 健雄(地質) 福田 勲(道路) 山本 博章(道路)	本店 〒700-8617 岡山市北区津島京町3-1-21 松江支店 〒690-0001 松江市東朝日町151-34 浜田支店 〒697-0062 浜田市熱田町20-1 URL : http://www.ejec.ej-hds.co.jp	TEL 086-252-8917 FAX 086-252-7509 TEL 0852-21-3375 FAX 0852-27-6065 TEL 0855-27-0041 FAX 0855-27-4420
12	拓く地域の未来です  株式会社 エブリプラン 勝部 祐治(総合技術監理、建設:道路、都市及び地方計画、土質及び基礎) 森田 俊作(総合技術監理、建設:都市及び地方計画、環境:自然環境保全) 肥後 淳平(建設:都市及び地方計画) 片山 央之(建設:建設環境)	本社 〒690-0816 松江市北陵町46-6ソフトビジネスパークしまね 広島支店 〒739-0014 東広島市西条昭和町12-7-301 雲南営業所 〒699-1242 雲南市大東町大東下分1050 URL : http://www.everyplan.co.jp	TEL 0852-55-2100 FAX 0852-55-2101 TEL 082-490-5581 FAX 082-490-5582 TEL 0854-43-6455 FAX 0854-43-6465
13	史跡保存と産業技術 住み良い町づくりをサポートする  (株)大田技術コンサルタント 月森勝博(応理・地質) 畑 和宏(建設・土質及び基礎、応理・地質、総合技術監理)	本社 〒694-0042 大田市長久町稲用219-2 浜田営業所 〒697-0062 浜田市熱田町188-1 URL : http://www.miracle.co.jp/ohdagi/	TEL 0854-82-3619 FAX 0854-82-4484 TEL 0855-24-7787 FAX 0855-24-7797
14	 大畑建設株式会社 【技術士】 水津 功(建設部門:道路) 寺戸康次(建設部門:施工計画、施工設備及び積算)	本社 〒698-0012 益田市大谷町36-3 山口支店 〒759-3112 山口県萩市大字下田方1264-1 営業所: 松江営業所、大田営業所 URL : http://ohata.jp/	TEL 0856-23-3530 FAX 0856-23-5220 TEL 08387-2-1920 FAX 08387-2-1921

賛助会員名簿- 3

No	社 名	住 所	TEL/FAX
15	誠意と創造力で社会に貢献する企業 株式会社 カイハツ 代表取締役 福井章夫：総監、農業(農業土木) 四方田朋之：上下水道(下水道) 河原 宏：総監、建設(道路)、農業(農業土木) 吾郷秀雄：農業(農業土木) 高橋浩道：農業(農業土木) 上田元也：建設(河川・砂防)	本社 〒693-0021 出雲市塩冶町296-3 支店・営業所 益田・浜田・大田・雲南・安来 岡山・京都・熊本 U R L : http://www.kaihatsu-ct.co.jp	TEL 0853-25-3878 FAX 0853-25-2198
16	創ります！感動・笑顔・人・未来 カナツ技建工業株式会社 代表取締役 金津任紀 技術士 平田 守〔総合技術監理、建設〕 のぞみはきってカナツレンジャー 参上!	本社 〒690-8550 島根県松江市春日町636 営業所 広島・鳥取 U R L : http://www.kanatsu.co.jp/	TEL 0852-25-5555 FAX 0852-27-1207
17	心やすらぐ街、たおやかな自然 株式会社 共立エンジニア 技術士 小豆澤 薫〔総合技術監理：地質〕 安藤 則彦〔総合技術監理：道路〕 安田 仁〔土質及び基礎〕 桑野 浩之〔総合技術監理：建築物及びコンクリート：道路〕 古田 薫〔河川、砂防：建設環境〕 牧岡 健一〔地質〕 角橋 健〔下水道〕	本社 〒690-0017 松江市西津田2-13-7 支店 岡山・大田・浜田・東北 営業所 安来・隠岐・米子・山口・広島 U R L : http://www.kyouritsu-e.co.jp	TEL 0852-27-8720 FAX 0852-27-0301
18	地質から地域を見渡し 水資源で地域を興す 協和地建コンサルタント株式会社 横田博信〔応用理学・地質・水理地質〕 (建設・河川・砂防及び海岸・地すべり) 石倉昭和〔建設・都市および地方計画〕 (総合技術監理) 守岡康一〔応用理学・地質・温泉〕	本社 〒690-0011 松江市東津田町1326-1 雲南営業所 〒699-1332 雲南市木次町木次370 西部営業所 〒695-0005 江津市松川町長良135 U R L : http://kyouwacc.com/	TEL 0852-21-0411 FAX 0852-27-8729 TEL 0854-42-0716 TEL 0855-55-3615 FAX 0852-55-3616
19	人と環境との調和をめざす ケーシーコンサルタント株式会社 代表取締役 堀江 健二 (上下水道・総合技術監理) 西保 誠 (上下水道部門：下水道) 吉田 進 (上下水道部門：下水道) 北村 清 (水産部門：水産土木)	本社 〒690-0044 松江市浜乃木2-5-3 出雲営業所 〒691-0001 出雲市平田町2110-25 浜田営業所 〒697-0061 浜田市笠柄町123 U R L : http://www.mable.ne.jp/~kc-ct/home.htm	TEL 0852-31-2332 FAX 0852-31-2661 TEL 0853-62-5633 FAX 0853-62-5687 TEL 0855-22-7205 FAX 0855-22-7206
20	よりよい環境づくりをめざして 株式会社 コスモ建設コンサルタント 村上 久 応用理学(地質) 原 裕二 応用理学(地質) 総合技術監理 建設(河川、砂防及び海岸・海洋) 嘉藤 太史 上下水道(下水道) 総合技術監理 小村 徹 建設(道路) 松原 啓 建設(道路) 上野 雅大 建設(施工計画、施工設備及び積算)	本社 〒699-0502 出雲市斐川町莊原2226-1 隠岐支店 〒685-0012 隠岐郡隠岐の島町東町登具191 U R L : http://www.cosmo-con.com/	TEL 0853-72-1171 FAX 0853-72-3817 TEL 08512-2-4669 FAX 08512-2-2947
21	地域と共に未来を創造する 株式会社 コスモブレイン 大内 茂 (建設一道路、総合技術監理部門)	本社 〒690-0015 松江市上乃木7-9-16 名古屋営業所 〒458-0803 名古屋市中区錦田1307 U R L : http://www.cosmo-brain.com/	TEL 0852-27-7830 FAX 0852-27-7871 TEL 052-876-3936 FAX 052-876-3936

賛助会員名簿-4

No	社 名	住 所	TEL/FAX
22	時代に即した技術と信頼性で地域に貢献する！  山陰開発コンサルタント株式会社 與那城 新（鋼構造及びコンクリート） 安達 寿規（農業土木） 野田 耕（土質及び基礎）	本社 〒690-0046 松江市乃木福富町735-33 営業所 安来・雲南・大田・浜田・益田・隠岐 URL : http://www.sankaict.co.jp/ e-mail : sankai@sankaict.co.jp	TEL 0852-21-0364 FAX 0852-21-0584
23	総合建設コンサルタント  株式会社 三建技術 池田 誠（建設＜鋼構造及びコンクリート＞） 折口 良二（応用理学＜地質＞） 佐藤 一矢（建設＜鋼構造及びコンクリート＞＜道路＞） 柴田 和夫（建設＜道路＞） 横原 豊博（建設＜発電土木＞） （総合技術管理＜建設-電力土木＞）	本社 〒698-0042 島根県益田市中吉田町364-2 浜田営業所 〒699-3224 島根県浜田市三隅町湊浦464-1 URL : http://www.sanken-g.co.jp/	TEL 0856-23-4364 FAX 0856-23-6973 TEL 0855-32-4086 FAX 0855-32-4087
24	 株式会社 ジェクト 山 村 賢 治：建設（都市及び地方計画） 寺 田 彰 憲：建設（道路、トンネル） 金 塚 淳 一：建設（道路） 玉 木 健：建設（都市及び地方計画）	本社 〒690-0855 松江市浜佐田町939-3 （支店）広島・隠岐 （営業所）雲南・川本・浜田 安来・鳥取・岡山・福山 URL : http://www.ject-gis.com	TEL 0852-36-7333 FAX 0852-36-7244
25	 島建コンサルタント株式会社 建設事業の企画・立案・調査・設計・施工等の技術サービスを提供します SHIMAKEN CONSULTANT CO.,LTD 小田 基明（応用理学） 井上 正一（森林土木） 和田多喜雄（農業土木） 松島 繁行（建設） 多久和 豊（建設） 和田守直行（応用理学・建設） 江角 慎（森林土木） 斎藤 剛（建設） 成相 知（建設） 坂田 聖二（応用理学） ポアホールと赤外線地球の健康診断	本社 〒699-0732 出雲市大社町入南1307-45 浜田事務所 〒697-1331 浜田市内村町232-1 大田営業所 〒699-2211 大田市波根町1304 邑智営業所 〒696-0706 邑智郡美郷町長藤139-5 URL : http://www.simaken.co.jp	TEL 0853-53-3251 FAX 0853-53-5530 TEL 0855-27-4355 FAX 0855-27-4208 TEL 0854-85-7826 TEL 0855-82-3420 FAX 0855-82-3420
26	人と自然とが共生する社会の構築を目指して (株)シマダ技術コンサルタント 幸前 徹（総合技術監理、トンネル、上下水道）	本社 〒692-0014 安来市飯島町228 県内営業所：松江、雲南、益田、隠岐 URL : http://www.shimada-tec.co.jp	TEL 0854-22-2271 FAX 0854-23-2333
27	 建設コンサルタント・補償コンサルタント 株式会社 昭和測量設計事務所 あしたへ、未来へ 代表取締役社長 石田健二 【技術士】平野昌之（道路、河川・砂防及び海岸・海洋） 渡辺 操（道路、土質及び基礎、総合技術監理） 河上益生（道路、森林土木）	本社 〒698-0041 益田市高津四丁目14番6号 浜田事務所 〒697-0017 浜田市原井町945-7 営業所：松江・川本・広島 URL : http://www.showa00.co.jp e-mail : info@showa00.co.jp	TEL 0856-23-6728 FAX 0856-23-6573 TEL 0855-23-4828 FAX 0855-23-4831
28	人と自然にやさしい、情報ソフト提案企業へ。  株式会社 大建コンサルタント 代表取締役社長 村 木 繁 【技術士】加藤 芳郎（応用理学：地質）	〒698-0012 益田市大谷町55 URL : http://www.daiken-ct.co.jp e-mail : daiken@daiken-ct.co.jp	TEL 0856-22-1341 FAX 0856-23-2505

賛助会員名簿-5

No	社 名	住 所	TEL/FAX
29	 株式会社 太陽建設コンサルタント 井深隆志(総合監理、建設:土質及び基礎) 井田 豊(総合監理、建設:鋼構造及びコンクリート) 宇野真一(総合監理、建設:建設環境/環境:自然環境保全) 福島昭一(農業:農業土木) 山本 功(上下水道:下水道) 長谷川一壽(建設:道路) 原田友弘(建設:土質及び基礎)	本社 〒690-0047 松江市嫁島町12-2 隠岐支社 〒685-0007 隠岐郡隠岐の島町池田高城31-10 営業拠点: 安来・雲南・川本・浜田 URL: http://www.taiyocc.co.jp e-mail: matue@taiyocc.co.jp	TEL 0852-22-4654 FAX 0852-26-1117 TEL 08512-2-0309 FAX 08512-2-4305
30	人と自然の未来へ  株式会社 大隆設計 小村隆一(建設) 浜村 靖(建設、総監) 櫻 隆之(建設) 曾田 啓(建設、農業、総監) 大田明義(建設) 長嶺元二(建設、応用理学、総監) 折坂邦治(建設) 周藤淳一郎(建設) 小村淳浩(情報) 森脇昭子(環境)	本社 〒693-0056 出雲市江田町40番地-5 大田営業所 〒699-2516 大田市温泉津町吉浦362-2 雲南営業所 〒699-1106 雲南市加茂町加茂中 800-3 浜田営業所 〒697-0023 浜田市長沢町3108 URL: http://www.dairyu-s.co.jp	TEL 0853-23-8200 FAX 0853-23-4394 TEL 0855-65-1102 FAX 0855-65-1103 TEL 0854-49-8411 FAX 0854-49-8412 TEL 0855-25-0227 FAX 0855-25-0228
31	人と自然の調和のとれた社会を築くこと それが私たちの願いです。  株式会社 竹下技術コンサルタント TAKEISHIA ENGINEERING CONSULTANT CO.,LTD. ●大野実 [建設部門:土質及び基礎][応用理学部門:地質] [総合技術監理部門:地質] ●安立正行[建設部門:道路] ●遠部勇作[建設部門:土質及び基礎・鋼構造及びコンクリート] ●長瀬務 [建設部門:土質及び基礎] ●小山治香[応用理学部門:地質 建設部門:土質及び基礎] ●三輪重夫 [建設部門:道路]	本社 〒693-0064 島根県出雲市里方町717番地 営業拠点: 広島・岡山・山口・鳥取・松江・三次・浜田・大田・江津・雲南	TEL 0853-22-2350 FAX 0853-22-4497
32	総合技術力で地域社会の発展に貢献  中電技術コンサルタント(株) 山陰支社 曾我部 淳(応用理学・総合技術監理部門) 尾田 敏範(建設・総合技術監理部門)	山陰支社 〒690-0011 松江市東津田町長通392-8 浜田営業所 〒697-0024 浜田市黒川町129-5	TEL 0852-22-0781 FAX 0852-27-4022 TEL 0855-25-2107 FAX 0855-25-2108
33	人の和を大切にし、 地域社会の明日を見つめ、 無限の可能性にチャレンジする  株式会社 トーワエンジニアリング 郷原 昇 [建設部門:道路] 永原 浩 [建設部門:土質及び基礎、道路] 白原康史 [上下水道部門:下水道]	本社 〒693-0013 出雲市荻原町420-1 営業所 松江・雲南・大田・益田 URL: http://towa-engineering.jp	TEL 0853-24-1102 FAX 0853-24-2019
34	美しい地球、渡します次なる世代へ  株式会社 中筋組 代表取締役 中 筋 豊 通 【技術士】長島 哲郎(情報工学部門)	本社 〒693-0061 出雲市姫原町293 URL: http://www.nakasuji.co.jp	TEL 0853-22-8111 FAX 0853-22-4835
35	HEART FULL TECHNOLOGY 私たちは自然と調和のとれた地域社会を創造します  建設コンサルタント 株式会社 日西テクノプラン ●佐藤勝則 [森林部門:森林土木(治山)] ●勝部久男 [建設部門:道路・農業部門:農業土木] ●小豆政直 [農業部門:農業土木]	本社 〒690-0011 松江市東津田町1329-1 営業拠点 松江・浜田・益田・雲南・邑南 URL: http://www.ntp-ct.co.jp	TEL 0852-22-1163 FAX 0852-22-2113

賛助会員名簿-6

No	社 名	住 所	TEL/FAX
36	技術と信用の総合建設コンサルタント 日発技研株式会社	本社 〒690-0065 松江市灘町1-43 支店： 岐阜県高山市 営業所： 雲南市・浜田市 e-mail : info@nippatsugiken.co.jp	TEL 0852-24-4520 FAX 0852-24-4521
37	建設コンサルタント  株式会社 日本海技術コンサルタンツ 大坂 理 (地質、河川砂防及び海岸海洋、土質及び基礎、総合技術監理) 浜崎 晃 (河川砂防及び海岸海洋) 伊藤 清治 (土質及び基礎、道路) 片山 直樹 (地質、土質及び基礎、総合技術監理) 和田 潤一 (土質及び基礎)	本社 〒699-0403 松江市中央町西来待2570-1 隠岐支社 〒685-0025 隠岐郡隠岐の島町平中山の五 458-5 営業所 雲南・大田・浜田・益田 URL : http://www.nitec-ct.co.jp	TEL 0852-66-3680 FAX 0852-66-3342 TEL 08512-2-2040 FAX 08512-2-6430
38	 (株)バイタルリード ■森山昌幸(道路、都市及び地方計画、総監) ■宮地岳志(道路) ■森谷淳一(道路) ■福井のり子(都市及び地方計画)	本社 〒693-0001 出雲市今市町396-1 広島支店 〒731-0123 広島市安佐南区古市1-38-27 URL : http://www.vitallead.co.jp	TEL 0853-22-9690 FAX 0853-22-9715 TEL 082-876-2809 FAX 082-876-2819
39	大地の鼓動を聞き社会の息吹に接し さらなる創造意欲を  総合建設コンサルタント パルス建設コンサルタント株式会社 【技術士】 大野幹雄(施工計画、施工設備および積算)	本社 〒691-0015 出雲市西郷町333-1 江津営業所 〒695-0011 江津市江津町1040-20 大田営業所 〒694-0041 大田市長久町長久イ214-3 雲南営業所 〒699-1311 雲南市木次町里方21-1 e-mail : pulse@mocha.ocn.ne.jp	TEL 0853-63-3795 FAX 0853-63-3370 TEL 0855-54-0710 FAX 0855-54-0710 TEL 0854-82-2249 FAX 0854-82-2249 TEL 0854-42-3007
40	(株)藤井基礎設計事務所 ◆地盤のお医者さん◆地域活性化応援 ◆調査機械開発◆環境改善・災害対策・建設IT化 藤井三千男 (土基礎) 藤井俊逸 (土基礎) 永田和之 (土基礎) 藤井次郎 (河川砂防) 宮内 彰 (地 質) 松浦 聡 (道 路) 金坂弘昭 (下水道) 服部義昭 (都市及び地方計画)	本社 〒690-0011 島根県松江市東津田町1349 〈営業拠点〉 松江・西部・雲南・隠岐・鳥取・出雲・安来・境港 URL : http://www.fujii-kiso.co.jp e-mail : webmaster@fujii-kiso.co.jp	TEL 0852-23-6721 FAX 0852-25-2248
41	より豊かな社会をめざして未来を見つける『未来社会創造企業』  復建調査設計株式会社 松江支社 ●林 秀樹(総監、都市及び地方計画、環境) ●青木克己(農村環境) ●坂口哲也(道路設計) ●山野内寛和(道路設計) ●児島秀行(地質)	松江支社 〒690-0048 松江市西嫁島1-2-33 浜田事務所 〒697-0026 浜田市田町1698エスシービル2F 営業所 大田・雲南・安来 URL : http://www.fukken.co.jp	TEL 0852-21-7367 FAX 0852-32-2967 TEL 0855-22-3596 FAX 0855-22-3598
42	 株式会社 古川コンサルタント 佐野尚文 (地質・総合技術監理) 井ノ上幸造 (地質・河川・砂防・総合技術監理) 理博 住本利昭 (道路) 古川秀夫 (農薬土木) 原 重守 (地質) 三谷 貢 (下水道)	本社 〒693-0021 出雲市塩治町1612-1 支店： 広島・山口・岡山・米子・浜田 営業所： 雲南・川本・益田・大田 URL : http://www.furukawact.co.jp	TEL 0853-21-5131 FAX 0853-21-5154

賛助会員名簿-7

No	社 名	住 所	TEL/FAX
43	建設コンサルタント  北陽技建株式会社 四方田 穆（農業土木） 小村 勤（農業土木）	本社 〒693-0013 出雲市荻村町53-2 営業所：雲南・大田・浜田・益田 URL：http://www.hokuyo-giken.co.jp	TEL 0853-22-0223 FAX 0853-21-5023
44	環境を守り、安心を創る。  松江土建株式会社 【技術士】 井上数夫（建設部門：鋼構造及びコンクリート）	本社 〒690-8513 松江市学園南二丁目3番5号 営業所 米子・出雲 URL：http://www.matsue-doken.co.jp	TEL 0852-21-3521 FAX 0852-21-8285
45	人・緑・街の調和する環境づくりをめざして  株式会社 LAT 環境クリエイト LANDSCAPE, ARCHITECTURE, TOWN-DESIGN 武田隆司（総合技術監理、建設：都市及び地方計画）	山陰支店 〒690-0049 松江市袖師町9-38 URL：http://www.lat.co.jp/lat.htm	TEL 0852-27-6010 FAX 0852-27-6352
46	総合建設コンサルタント 株式会社 ワールド測量設計 【技術士】 和田晶夫（農業土木・総合技術監理） 上山善道（下水道） 酒井正之（上水道及び工業用水道） 國清智之（地質） 北脇信英（道路・総合技術監理） 永原民雄（農業土木） 平野 浩（森林土木・総合技術監理） 花本孝一郎（地質・建設環境・河川、砂防及び海岸・海洋・総合技術監理）	本社 〒699-0631 出雲市斐川町直江4606-1 支社：松江、雲南 営業所：大田、浜田、隠岐、安来、邑智 URL：http://www.world-ss.co.jp	TEL 0853-72-0390 FAX 0853-72-9130

編集後記

私事ですが平成4年に転勤で松江支社に着任後、入会させて頂き23年が経過しました。最初のころの懇親会は、ホテル穴道湖の大広間で3～4テーブルを囲んでおこなわれ、一寸遅れると先輩方の席となり、緊張のため酒の味がしなかった記憶があります。1年は365日、8760時間ですが、私のなかの時間速度は年々加速され、1年前に30周年記念誌の編集委員に任命されたのがつい先日のような気がします。あれこれ思っていたのですが有効打とならず、他の編集委員の方にご迷惑をお掛けしました。

執筆依頼に応じて頂いた皆様、ありがとうございます。締切後に原稿レイアウトの変更を行い、いらぬ手間をお掛けしましたことをお詫びします。

今年は羊年、5回目の年男で会社員生活も最後となります。ある人によりますと地上の楽園が待っているらしいのですが、なにもすることが無く、「引きこもり」にならないように、これからも島根県技術士会を利用させてもらおうと思います。（児島）

島根県技術士会 21～30 周年の歩み

平成 27 年 1 月 31 日発行

編集発行者：島根県技術士会

<事務局>

島根県出雲市斐川町庄原 2226-1

(株)コスモ建設コンサルタント 内

TEL 0853-72-1171

URL <http://peshimane.net/>

印 刷：社会福祉法人四ッ葉福祉会

授産センターよつば

TEL 0852-36-7825